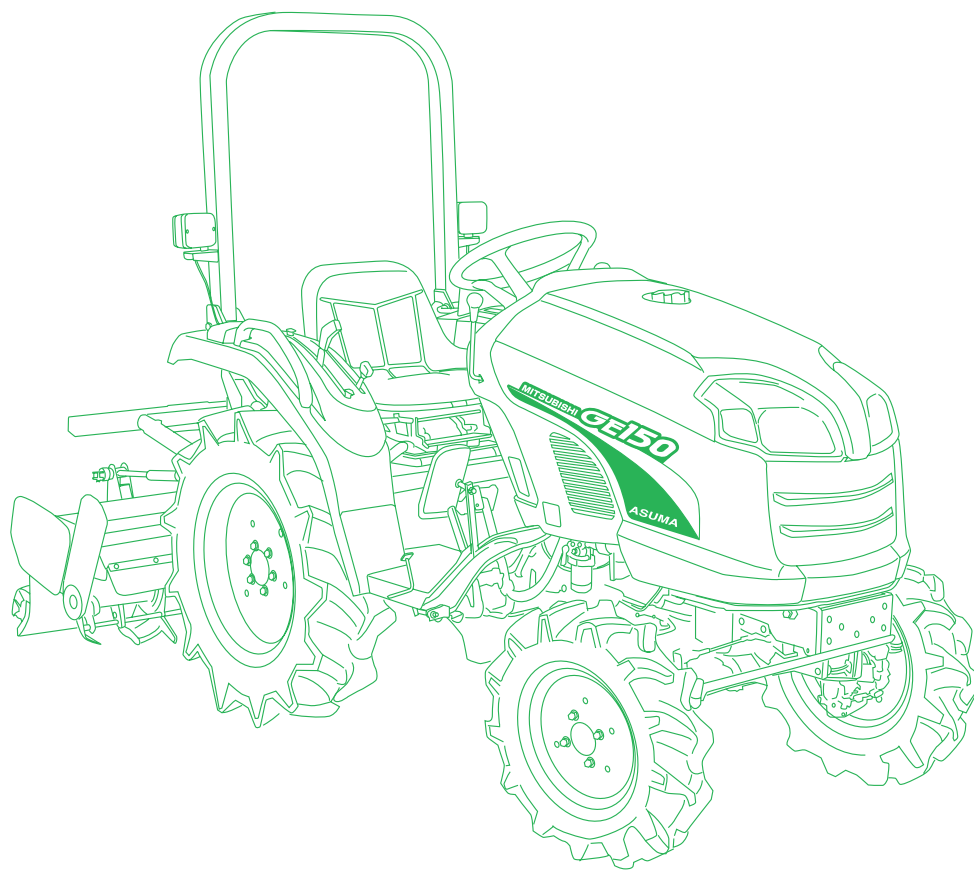


三菱トラクタ 取扱説明書

GE130・150・170



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

トラクタ重要ポイント

1. 道路を走行するときは、

左右のブレーキペダルを連結します。

2. 農道を走行するときは、

スピードを落として路肩に注意します。

3. ほ場への出入りときは、

スピードを落とし畦^{おぜ}に直角に走行します。

4. トラクタや作業機を点検調整するときは、必ずエンジンを止め

パーキングレバーをかけ、油圧をロックします。

5. 補助者と共同作業を行うときは、

合図をし、周囲の安全を確認します。

6. 耕うん爪の点検や交換をするときは、

必ずエンジンを止め、油圧ロックします。

7. ロータリを着脱するときは、

平たんな場所で低速で行います。

トラクタの後輪とロータリの間立たない。

8. 運転・作業をするときは、

回転部分には、手や体を近づけない。

必ず周囲の状況を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

正しく作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で作業上ぜひ守っていただきたい事項を  を付して説明のつど取り上げています。よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

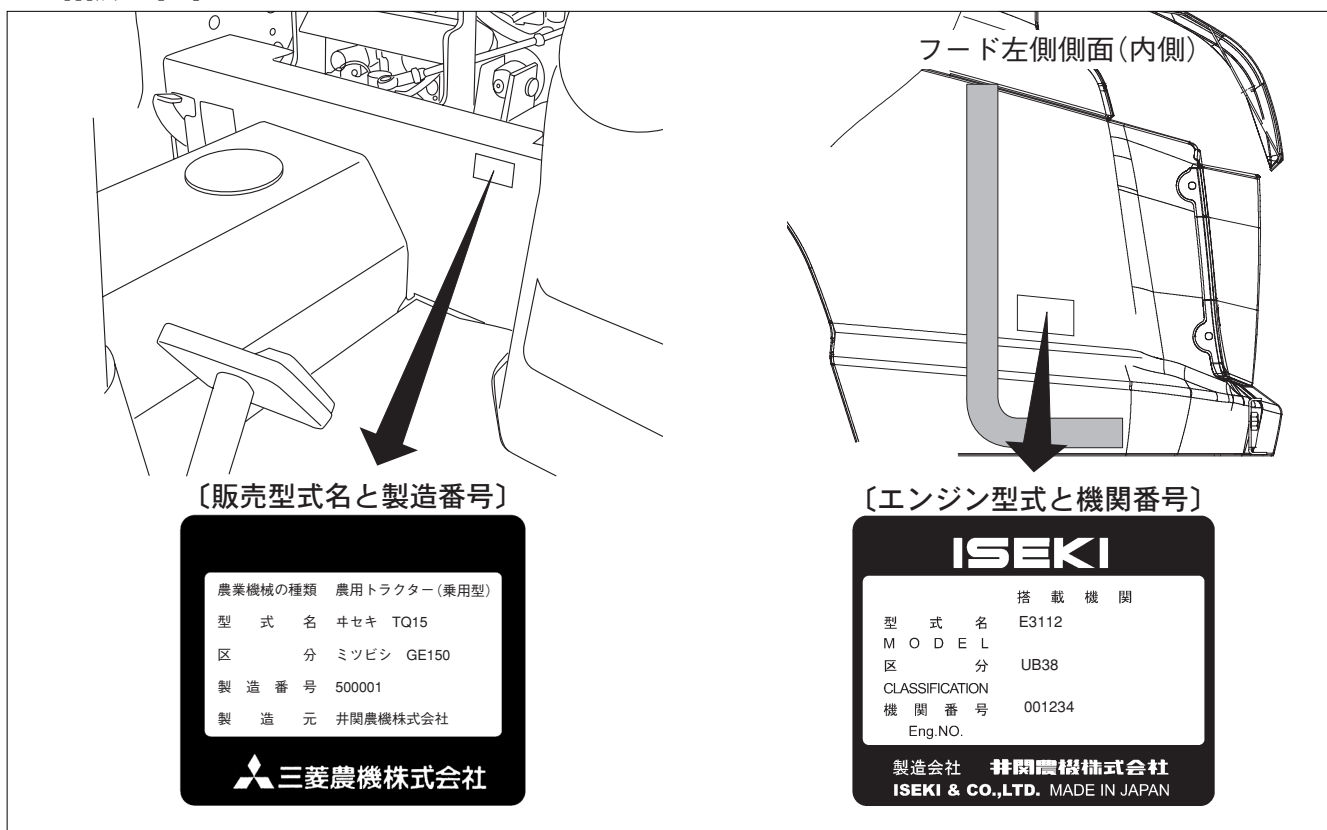
重要なお知らせ

- このたびは、三菱トラクタをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、耕うん・代かき・けん引・運搬などの作業機として使用してください。
改造や使用目的以外の作業はしないでください。
改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
(詳細は保証書をご覧ください。)
- 三菱農機株式会社(以降当社と記す)は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、三菱トラクタ(以降トラクタと記す)を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- このトラクタの取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項やトラクタに表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
よって、トラクタの操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載およびトラクタ本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- トラクタの性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいうまでもありませんが、他方、日常の取り扱い、整備いかなによることも、また看過できません。
- このトラクタは、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。このトラクタを国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- このトラクタは、小型特殊自動車(農耕トラクタ)として、道路運送車両の保安基準を満たしています。よって、一般道路を走行するときは、小型特殊自動車運転免許が必要です。
運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外のトラクタの使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本トラクタを譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書をトラクタに添付してお渡してください。譲渡(または転売)される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡(または転売)した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容はトラクタの改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本トラクタとこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、トラクタ内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は著作権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複製、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買いあげ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買いあげ先」へお問い合わせください。

型式と装備内容について

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分のトラクタについて併記しています。
お買い上げいただいた、トラクタの型式名・区分を機体に貼付してある銘板で確認され、該当部分をお読みください。

■銘板の位置



■上記(例)の販売型式名 GE150-DJB

馬力 ←

→ 本機装備…下表の記号に準ずる装備

■装備内容




区分記号	装備内容
全型式共通装備	パワーステアリング・燃料乗せ台・多機能お知らせブザー 逆転PTO・可倒式ロプス
E	ハンドルサイドシフトなし
B	デフロック・倍速旋回
J	水平制御
D	バックアップ・クイックアップレバー・旋回アップ
SS	低床・ハンドルサイドシフトなし
S	低床大径タイヤ・ハンドルサイドシフトなし

警告表示について

本トラクタを正しくお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。







また、トラクタで危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルを貼付しています。取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注意	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。
注意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補足	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。 (右図の場合は爆発注意)	(例) 
	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。 (右図の場合は火気厳禁)	(例) 
	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。 (右図の場合はメガネ着用)	(例) 

目次

重要なお知らせ	i
型式と装備内容について	ii
警告表示について	iii
目次	iv

1. 使用上のポイント

1.1 使用上のご注意	1
1.1.1 運転者の条件	1
1.1.2 作業をする前に	2
1.1.3 走行する場合は	4
1.1.4 トラックへの積み・降ろし	6
1.1.5 作業中は	8
1.1.6 点検・整備	10
1.1.7 保管時は	12
1.1.8 倍速旋回 (B仕様) 取り扱いの注意	13
1.1.9 耕うん爪の点検・交換時	13
1.1.10 ロータリの着脱・調整時	14
1.1.11 運転・作業時	15
1.1.12 電気配線点検時の注意事項	16
1.1.13 バッテリ取り扱い時の注意事項	17
1.1.14 ブースタケーブル使用時の 注意事項	18
1.2 公道走行と標識 (ナンバープレート) について	19
1.2.1 運転免許証の携帯	19
1.2.2 小型特殊自動車	19
1.2.3 市町村役場への届出と標識 (ナンバープレート)の取り付け	20
1.2.4 点検整備	20
1.2.5 自動車保険について	20
1.2.6 その他の法規について	20
1.3 安全フレームについて	21
1.4 警告ラベルについて	22
1.5 警告ラベル貼付箇所	23

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証	29
2.2 サービスネット	29
2.3 銘板の位置	29
2.4 補修用部品の供給年限について	29

3. 各部の名称

3.1 全体	30
3.2 2点リンク	30
3.3 レバー・ペダル関係	31
3.4 スイッチ関係	32
3.5 メータパネル	32

4. 作業前点検

4.1 運転席に座る前に	31
4.2 運転席に座って	32
4.3 メインスイッチを「入」に入れて	33
4.4 エンジンを始動して、徐行しながら	33

5. 運転のしかた

5.1 運転前の準備	37
5.1.1 シート	37
5.1.2 シートベルト	37
5.1.3 バックミラー	38
5.1.4 コンビネーションスイッチ	38
5.2 エンジン始動のしかた	39
5.3 エンジン停止のしかた	45
5.4 発進のしかた	46
5.5 変速のしかた	48
5.6 旋回のしかた	49
5.7 坂道での運転	49
5.7.1 急な上り坂での発進	49
5.7.2 下り坂での運転	50
5.8 けん引	50
5.9 停車・駐車のしかた	51

5.10	運転中の作動確認	53	7.6	バンパウエイトの取り付け(注文部品)	73
5.10.1	燃料計	53	7.7	けん引作業(注文部品)	73
5.10.2	アワーメータ	53	7.8	油圧装置の使いかた	74
5.10.3	メータ	54	7.8.1	コントロールレバー	74
5.10.4	エンジンオイル圧力警告灯	54	7.8.2	クイックアップレバー(D仕様)	75
5.10.5	バッテリー充電警告灯	54	7.8.3	油圧降下速度調節つまみ	76
5.10.6	水温計	54	7.8.4	バックアップ切換スイッチ (D仕様)	77
5.11	トラックへの積み・降ろし	55	7.9	耕深自動の取り扱い	78
6. 作業前に必要な調整			7.10	水平装置の使いかた(J仕様)	79
6.1	輪距の調整	57	7.11	燃料載せ台(給油スタンド)の使いかた	82
6.1.1	前輪	57	8. 点検整備		
6.1.2	後輪輪距調節	57	8.1	定期点検・整備箇所一覧表	84
6.2	安全フレームの扱い	58	8.2	給油・給水一覧表	86
6.2.1	倒しかた	58	8.3	エンジン周りのカバー類の脱着	87
6.2.2	起こしかた	59	8.3.1	ボンネットの開閉	87
7. 作業のしかた			8.4	点検・清掃・調整のしかた	88
7.1	作業時の運転	59	8.4.1	エンジンオイル	88
7.1.1	走行速度	60	8.4.2	エアクリーナの清掃	89
7.1.2	ほ場の出入り	60	8.4.3	冷却水	91
7.1.3	ほ場での旋回	62	8.4.4	ラジエータの清掃	92
7.1.4	デフロックペダルと使いかた (S仕様を除く)	63	8.4.5	燃料	93
7.2	倍速旋回(B仕様)	64	8.4.6	ファンベルトの張り具合	95
7.2.1	走行・作業切換スイッチ	64	8.4.7	バッテリー	96
7.2.2	倍速旋回表示灯	65	8.4.8	ミッションオイル	97
7.2.3	倍速旋回の作動	65	8.4.9	クラッチペダル	99
7.2.4	倍速旋回の使いかた	66	8.4.10	ブレーキペダル	99
7.3	旋回アップ(D仕様)	67	8.4.11	ステアリング	100
7.3.1	旋回アップの作動	67	8.4.12	タイヤの空気圧	100
7.3.2	旋回アップの使いかた	67	8.4.13	アクセルレバー・ペダル	101
7.3.3	ワンタッチ耕うんモードの 使いかた	67	8.4.14	グリース注入	101
7.4	P T Oの使いかた	70	8.4.15	油圧ストレナーナの清掃	102
7.5	作業機	72	8.4.16	フロントアクスルのオイル	103
7.5.1	作業機の取り付け・取り外し	72	8.4.17	クラッチ室の水抜き	103
			8.4.18	油圧ホースの点検	103
			8.4.19	電気配線の点検と清掃	104
			8.4.20	ヒューズおよび スローブローヒューズの取り扱い	105

9. 格納時の手入れ

9.1	日常の格納	107
9.2	長期の格納	108
9.2.1	格納前作業	108
9.2.2	格納期間中	109
9.2.3	長期格納後の使用	109

10. 不調時の処置

10.1	エンジン関係	110
10.2	クラッチ	113
10.3	ブレーキ	113
10.4	ステアリングホイール (ハンドル)関係	113
10.5	倍速旋回関係 (B仕様)	114
10.6	旋回アップ関係 (D仕様)	115
10.7	油圧関係	116
10.8	水平制御関係 (J仕様)	117
10.9	電装関係	118

11. 付表

11.1	推奨潤滑油一覧表	119
11.2	三菱純正オイル一覧	120
11.3	主な消耗部品一覧表	121
11.4	標準付属品	122
11.5	純正ロータリ適応表	123
11.6	主要諸元表	124
11.7	走行速度表 (km/h)	126
11.8	注文部品一覧表	127

1. 使用上のポイント

本トラクタを正しく御使用になるために必要な情報が記載されています。

1.1 使用上のご注意

本製品を正しくお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んで理解し、正しく活用してください。記号の説明については「警告表示について」の説明を参照してください。

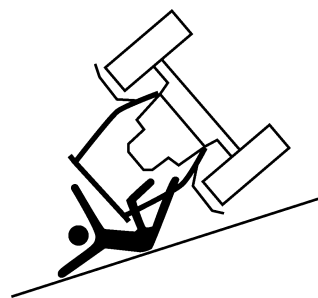
1.1.1 運転者の条件

警告



こんなときは、運転をしないでください。

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき
 - 18才未満の人
 - 妊娠しているとき
 - 酒を飲んだとき
- ※ 誤操作しやすく傷害事故の原因になります。



作業に適した服を着用してください。

はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等をつけて、だぶつきのない服装をしてください。

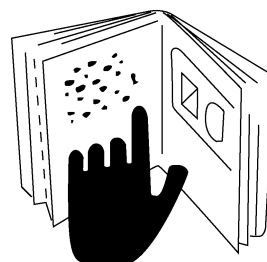
- ※ 機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



機械を貸すときは正しい使い方を指導してください。

取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

- ※ 借りた人が、機械の運転に不慣れなため、傷害事故を引き起こすことがあります。



1. 使用上のポイント

1.1.2 作業をする前に

⚠ 危険



燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

また、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

※ 守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因になることがあります。

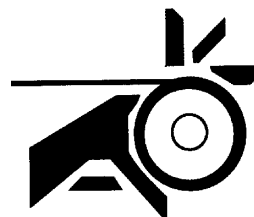


⚠ 警告



トラクタを運転する前に保護カバー類が外されたままになっていないか確認してください。

※ 守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こします。



無理、無駄のないゆとりある作業計画を立ててください。

※ 守らないと、あせり等から傷害事故を引き起こすことがあります。



エンジンを始動するときは必ず座席に座って、すべての変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。



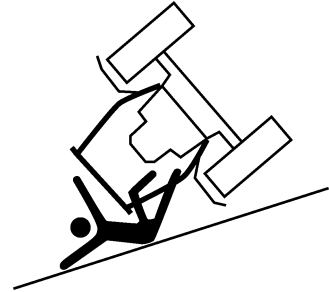
警告



点検・整備は必ず行ってください。

特に、ブレーキおよび主クラッチ関係は、忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れないことがあります。

※ 守らないと、死亡事故や傷害、機械の破損の原因になります。

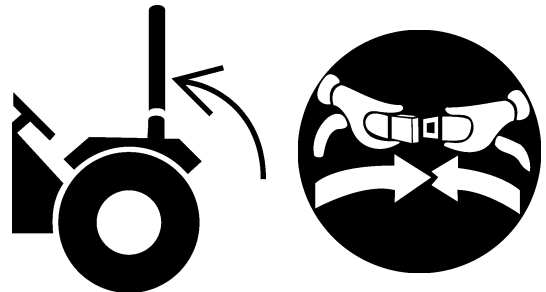


● 安全フレームは、正しく装着された状態で運転してください。

● トラクタを使用するときは、確実に安全フレームを立てた状態にし、必ずシートベルトを着用してください。

安全フレームは作業上大切な装備ですので、21ページの「安全フレームについて」をお読みください。

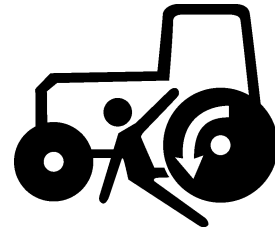
※ 守らないと、転倒したときに人身事故を起こすことがあります。



発進するときは、周囲の状況を確認して、ゆっくり発進してください。

特に子供に注意してください。

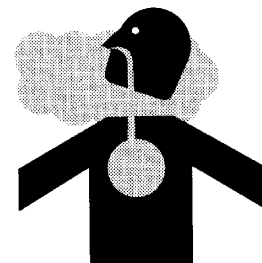
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

閉め切った屋内等ではエンジンを始動しないでください。

※ 守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



1.1.3 走行する場合は

⚠ 危険



トラクタを草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、高回転にしたりしないでください。

※ 守らないと、排気管の熱や排気ガスにより、ワラ等に着火し火災の原因となることがあります。



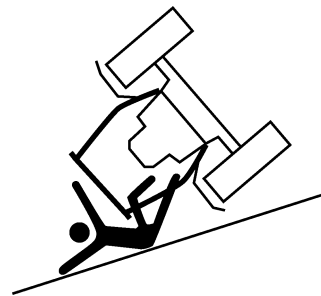
⚠ 警告



- 高速での急旋回や、坂道での急旋回はしないでください。
- 坂道を上るときは、低速でゆっくりと、下るときは、エンジンプレーキをかけ、決して変速レバーを中立状態にしないでください。

足ブレーキの多用はブレーキを傷めます。

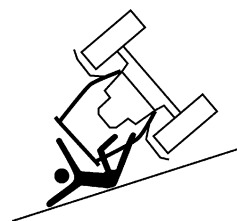
※ 守らないと、スリップや転倒事故を引き起こします。



凹凸の激しい道路での高速走行はしないでください。

路面状態に応じた速度で走行してください。

※ 守らないと、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。



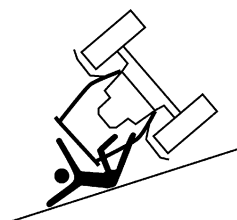
トラクタの上や連結部には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。

※ 守らないと、人が転落するおそれがあります。



作業中以外は、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。

※ 守らないと、ブレーキが片ぎきして、転倒事故を引き起こします。

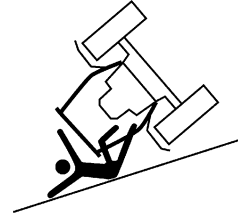


警告



道路走行するときは、デフロックペダル（デフロック付トラクタのみ）を解除してあるか確認してください。

※ 守らないと、転倒事故を引き起こします。



夜間にトラクタの運転をするときは、すべての変速レバーやその他のレバー・ペダル類の位置の確認を、特に注意して行ってください。

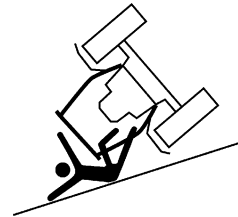
※ 確認しないと、予想外の作動をしたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



農道では路肩に注意してください。

側溝のある農道や、両側が傾斜している農道を走行するときは、速度を落として十分注意して走行してください。

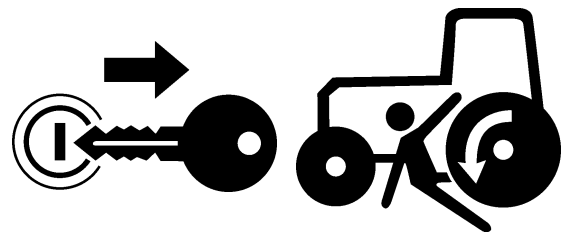
※ 守らないと、路肩が崩れて、転倒するおそれがあります。



トラクタから離れるときは、エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜き取り、パーキングブレーキをかけ、車止めをしてください。

止めるところは、地面の硬い広い場所を選んでください。

※ 守らないと、トラクタが自然に動き出したりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。



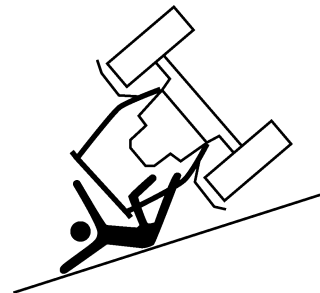
1.1.4 トラックへの積み・降ろし

警告



積み込むトラックは、エンジンを止め、変速を「1速」または「R」位置にし、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行ってください。

※ 守らないと、積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。



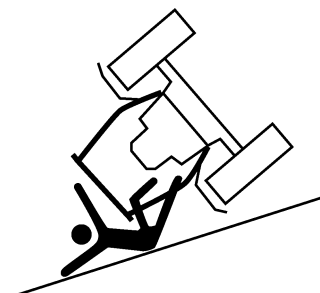
● 積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分ある、スリップしないアユミを使用し、直進性を見定めて、積むときは「後進」、降ろすときは「前進」で、ゆっくり行ってください。

● アユミは、基準以上のものを使用し、トラクタの重量でアユミが傾かない場所を選んでください。

● アユミのフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

● 万一に備えて、トラクタの周りには人を近づけないでください。

※ 守らないと、転落事故の原因になります。(➡ 55ページ)



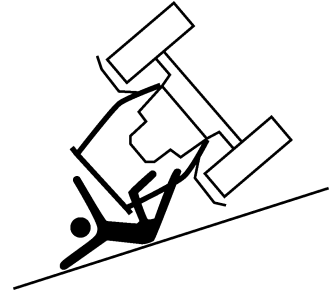
警告



トラックへの積み・降ろし中は、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。また、クラッチペダルを踏み込んだり、ブレーキペダルを踏み込んだりしないでください。

万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行ってください。

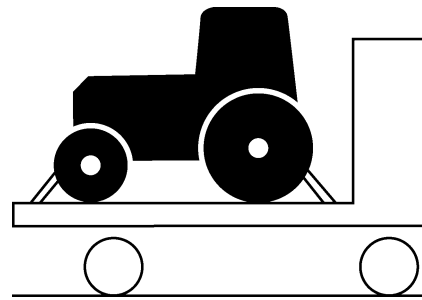
※ 守らないと、転落事故の原因になります。



トラック等で運搬するときは、トラクタにパーキングブレーキをかけた後、必ずロープ等で荷台に固定してください。

また、運転中急発進・急旋回・急ハンドルはしないでください。

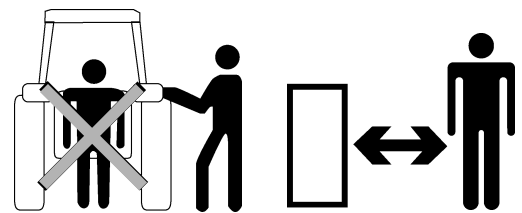
※ 守らないと、トラクタが移動して転落事故の原因になります。



誘導者を付けて、周囲の状況を十分確認して行ってください。

機械の直前や直後、真横には、絶対に立たないでください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。



1.1.5 作業中は

気象条件等に注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

警告



回転部や作業部・マフラ・ラジエータ・エンジン等の過熱部、バッテリー端子等の通電部等、危険な箇所には、手を触れないでください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。



作業機の取り付け・取り外しは、トラクタと作業機の間立って行わないでください。

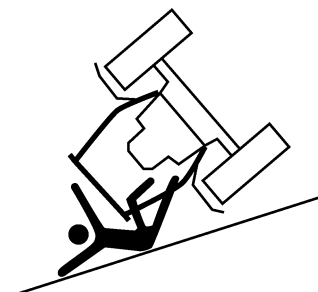
トラクタの脇から扱うようにしてください。
※ 守らないと、トラクタと作業機の間にはさまれたりして、傷害事故を起こす原因になります。



● ^{あぜ}畦を横断するときは、作業機の回転を止め、作業機を低くして低速で、^{あぜ}畦と直角にゆっくり走行してください。

● ^{あぜ}畦の高さが高いところでのほ場の出入りは、必ずアユミ板を使用してください。

※ 守らないと、衝撃で機械を破損させたり、スリップや転倒し傷害事故を起こすことがあります。



警告

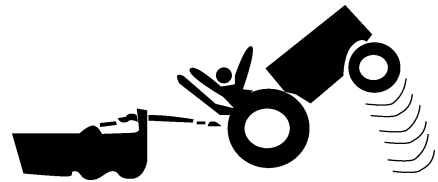


けん引作業は、トラクタ用純正ドローバを使用してください。けん引はこのトラクタに合った作業機を使用してください。

このトラクタにはトレーラブレーキが装着されていません。けん引する車両の総重量が1050 kgを超える場合のけん引は禁止です。

不明な点がありましたら「お買い上げ先」に相談し、無理なけん引は避けてください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になることがあります。

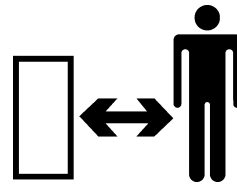


作業中は周りの人（特に子供）に注意してください。

作業中は、作業員以外の人を機械に近づけないでください。

作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、ホーン等で合図してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



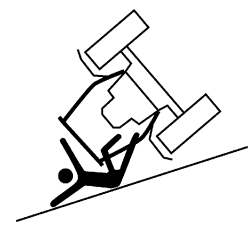
注意



● 夜間作業をされる方には作業灯（注文部品：ランプ（ワーキング）SET（[127ページ](#)）の装着をお勧めします。

● 道路走行中には絶対に作業灯を点灯しないでください。

※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こす原因になります。



1.1.6 点検・整備

警告



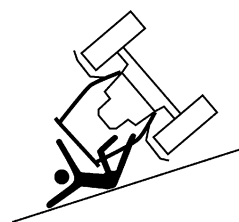
過熱部分は冷えてから行ってください。

- エンジンが停止後すぐに、点検・整備をしないでください。エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
 - ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後よく冷えてから注意して開けてください。
- ※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。



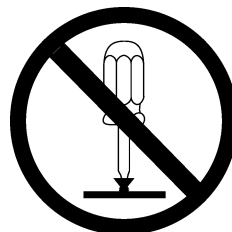
後輪のみをジャッキアップしてエンジンを始動しないでください。

- ※ 守らないと、前輪が回転して、転倒事故を引き起こすことがあります。



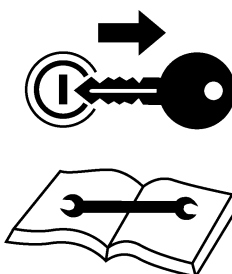
指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は絶対にしないでください。

- ※ 守らないと、故障や事故の原因になります。



点検・整備は必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックしてから行ってください。

- ※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。

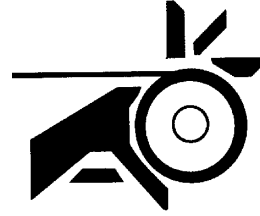


警告



点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元どおりに取り付けてください。

※ 守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こします。

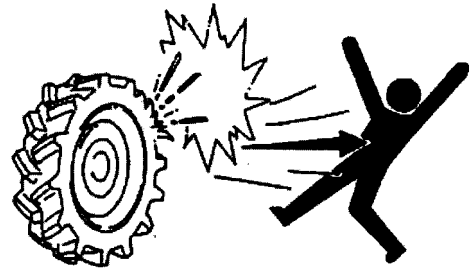


タイヤ・ホイールの取り扱いについては、十分注意してください。

- (1) タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。(P. 100ページ)
- (2) タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。
- (3) タイヤ・チューブ・リム等の交換・修理は、必ず「お買い上げ先」にご相談ください。

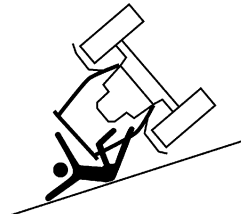
(特別教育を受けた人が行うように、法令で決められています。)

※ 守らないと、タイヤ破損のおそれがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。



点検・整備するときは、明るく、地面が平坦で硬く、広い場所で行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすことがあります。

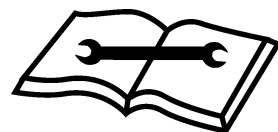


注意



点検・整備は適正な工具を正しく使用して行ってください。

※ 守らないと、整備中の傷害事故や、整備不良による傷害事故を引き起こすことがあります。

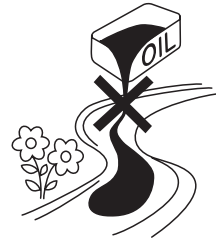


1. 使用上のポイント

⚠ 注意



- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
 - 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
 - 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。
- ※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。



1.1.7 保管時は

⚠ 危険



作業が終了してシートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

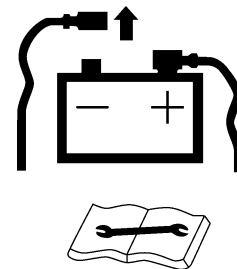
- ※ 守らないと、火災の原因になることがあります。



長期格納する場合は、バッテリーケーブルを取り外してください。

取り外すときは ⊖ コードから外してください。

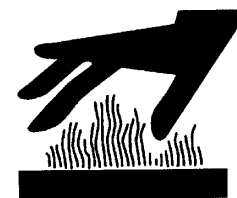
- ※ 守らないと、ネズミ等がケーブルをかじったとき、ショートし、発火して火災の原因になることがあります。



● 燃料パイプの破損や、燃料もれがないか、必ず点検してください。

● 長期格納するときは、燃料タンクは満タンにして、サビや水の発生を防いでください。

- ※ 守らないと、火災事故を引き起こし、やけどをすることがあります。

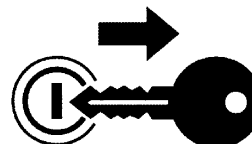


⚠ 警告



保管時は、メインスイッチのキーを抜いてください。

- ※ 守らないと、いたずら等で重大な事故になることがあります。



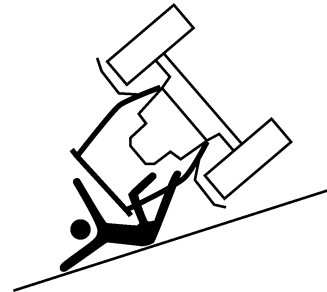
1.1.8 倍速旋回（B仕様）取り扱いの注意

警告



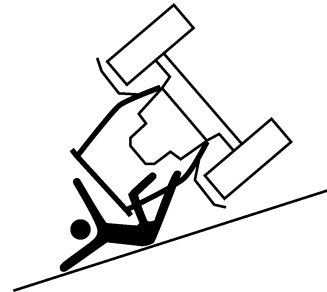
路上走行時は、走行・作業切換スイッチを「路上走行」または倍速旋回「切」位置にしてください。

※ 守らないと、転倒事故の原因になります。



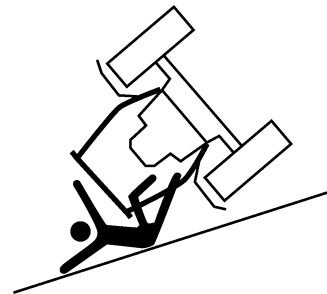
ほ場の出入り、トラックへの積み・降ろしは、走行・作業切換スイッチを「路上走行」または倍速旋回「切」位置にしてください。

※ 守らないと、転倒事故の原因になります。



フロントローダ作業等、前輪に重荷重がかかる作業は、走行・作業切換スイッチを「路上走行」または倍速旋回「切」位置にしてください。

※ 守らないと、トラクタの故障や傷害事故の原因になるおそれがあります。



1.1.9 耕うん爪の点検・交換時

警告



点検・整備は、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧ロックしてから行ってください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



1.1.10 ロータリの着脱・調整時

警告



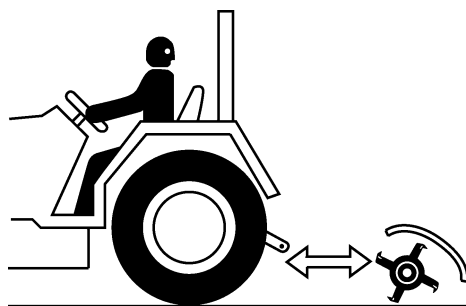
トラクタの後輪とロータリの間立たないでください。

※ トラクタと作業機の間にはさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



トラクタを移動してロータリを装着する場合、平たんな場所で、低速で行ってください。

※ 守らないと、ロータリが転倒する等、機械の損傷や傷害事故を起こすおそれがあります。



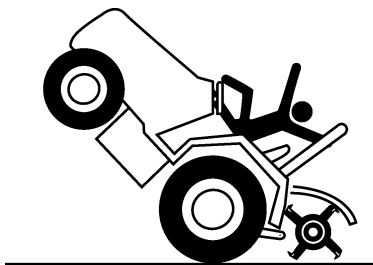
必要以外はエンジンを止めてください。

※ トラクタと作業機の間にはさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



2点リンク（リフトロッド）の止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが外れていないか確認してください。

※ 外れていると、傷害事故や機械の破損の原因となります。



1.1.11 運転・作業時

警告



ユニバーサルジョイントや爪軸等の回転部分には手や体を近づけないでください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。



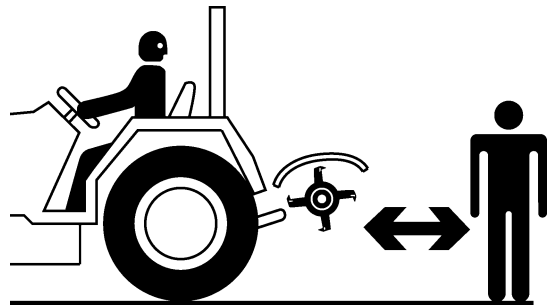
ロータリの上に乗らないでください。

※ 転落事故を引き起こすことがあります。



ロータリを持ち上げ、バックおよび急旋回するときは、必ず周囲の状況を確認してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすことがあります。



1.1.12 電気配線点検時の注意事項

⚠ 危険



配線の端子や接続部のゆるみ、および配線の損傷は早めに交換・修理してください。

※ 守らないと、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり、火災事故を引き起こすことがあります。



バッテリー、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず、ゴミ等は、取り除いてください。

※ 守らないと、火災の原因となります。

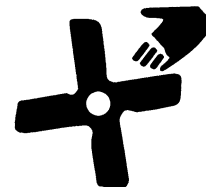
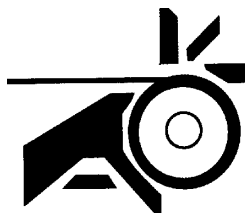


⚠ 警告



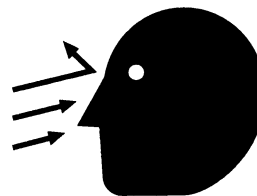
電気配線の点検は必ず、エンジンを停止して行ってください。

※ 守らないと、手や衣服を回転部に巻き込まれたりして傷害事故が起きることがあります。



接続部の点検は、メインスイッチを「切」にし、バッテリーの ⊖ コードを外して行ってください。

※ 守らないと、火花が飛んだり、感電したり傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1.1.13 バッテリ取り扱い時の注意事項

⚠ 危険



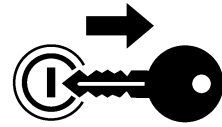
ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は通風のよいところで行ってください。

※ 守らないと、引火爆発するおそれがあります。



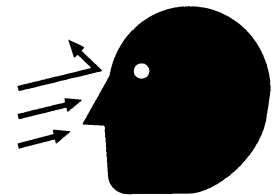
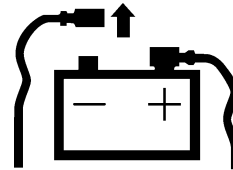
バッテリーの脱着および点検をするときは、メインスイッチを「切」にし、エンジンを停止してください。

※ 守らないと、電気部品を損傷したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



バッテリーコード（端子）を取り外すときは
⊖ コードを先に外します。バッテリーコードを取り付けるときは、⊕ コードを先に取り付けます。

※ ショートして火花が飛ぶおそれがあります。



バッテリー液を身体や衣服に付けないようにしてください。

バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。
※ 失明や、やけどをするおそれがあります。

もし、目・皮膚・衣服に付いたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。



1. 使用上のポイント

⚠ 危険



バッテリーの吸気孔は、ふさがないでください。

※ バッテリー内部で発生するガスにより、バッテリーの内圧が上り、爆発するおそれがあります。



1.1.14 ブースタケーブル使用時の注意事項

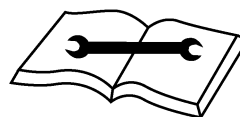
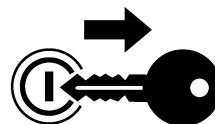
ブースタケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。

⚠ 警告



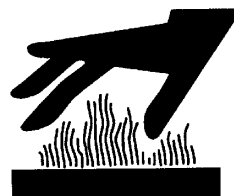
ブースタケーブル接続前に、エンジンを停止してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。

※ 守らないと、ブースタケーブルが熱をもったり、焼損するおそれがあります。



1.2 公道走行と標識（ナンバープレート）について

このトラクタは、小型特殊自動車（農耕トラクタ）として道路運送車両の保安基準を満たしています。ご使用の際は以下の点を遵守してください。

1.2.1 運転免許証の携帯

このトラクタを運転し、道路走行する場合は、小型特殊自動車を運転できる免許が必要です。

運転中は、必ず運転免許証を携帯し、道路交通法の定めに従って、正しい運転をしてください。

※道路交通法（平成16年7月改正）上の小型特殊自動車の基準は下表のとおりです。

車体の大きさ	全 長	4.70m以下
	全 幅	1.70m以下
	全 高	2.80m以下
最 高 速 度		15km/h以下

また、けん引して道路走行をする場合、けん引する車両の総重量が750 kgを越える場合は、けん引免許が必要となります。

1.2.2 小型特殊自動車

このトラクタは、道路運送車両の保安基準に適合する形状で製作しています。したがって、次のようなことは絶対にしないでください。

- (1) トラクタの各部構造の改造
- (2) 型式の異なるエンジンの搭載
- (3) 届け出タイヤ以外のタイヤの装着
- (4) 各封印部の開封

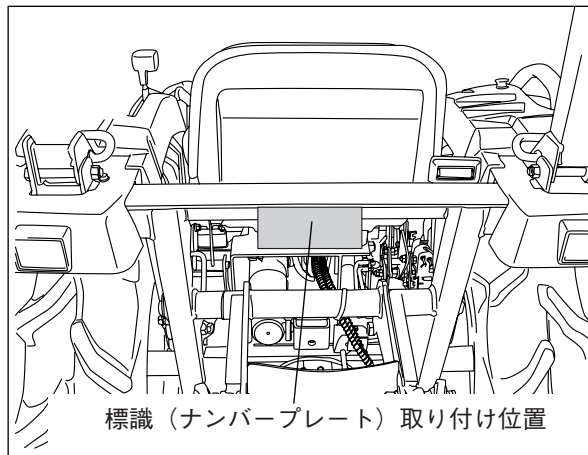
これらの改造変更は、「不法改造」に該当し、違法行為となり一切の保証はいたしませんのでご注意ください。

また、各種作業機を取り付けたままで、道路を走行することはできません。

1. 使用上のポイント

1.2.3 市町村役場への届出と標識(ナンバープレート)の取り付け

- (1) このトラクタの所有者となられた方は、市町村条例の定めにより市町村役場に届け出て、標識(ナンバープレート)の交付を受けなければなりません。
- (2) 届け出には、軽自動車税申告書(市町村役場にあり)に必要な事項を記入の上、印鑑を添えて市町村役場へ提出してください。
なお、届け出の手続きは、市町村により異なることがあるので詳細は、市町村役場または「お買い上げ先」にご相談ください。
- (3) 交付された標識(ナンバープレート)は、トラクタ後部の標識(ナンバープレート)取り付け場所に取り付けてください。
- (4) 市町村役場より年一回、納税通知が郵送されますので、軽自動車税を納税してください。



1.2.4 点検整備

トラクタは必要に応じて点検整備を実施し、常に保安基準に適合するよう維持することが求められます。また、灯火類の点灯、ブレーキのきき等は日常的に点検整備する必要があります。点検整備について詳しくは「お買い上げ先」にお申し付けください。

1.2.5 自動車保険について

農作業用の小型特殊自動車には、自動車損害賠償保険を付けることができません。万一の交通事故補償に備えて、任意保険に加入しておかれることをお勧めします。

1.2.6 その他の法規について

- (1) 道路走行輪距
道路を走行するときは、必ず下表の輪距で走行してください。これ以外の輪距や、作業機を取り付けたままの道路走行は、「道路運送車両法」に違反となります。

道路走行輪距

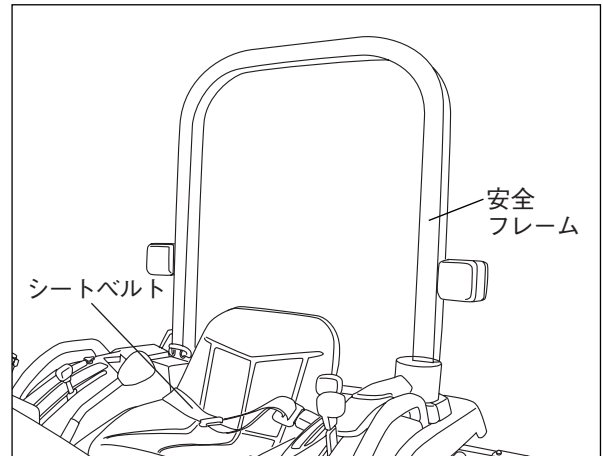
	機種	タイヤサイズ	輪距(mm)
前	GE 150/170	5.00-12	785
	GE 130	5-12	785
輪	GE 130/170(SS)	4.00-7	850
	GE 130(S)	4.00-10	760

	機種	タイヤサイズ	輪距(mm)
後	GE 150/170	8-18	780
	GE 130	8-16	750
輪	GE 130/170(SS)	6-12	800
	GE 130(S)	7-14	750

- (2) 道路走行時の作業灯
注文部品の作業灯(ランプ(ワーキング)SET (P.127ページ))を装置された場合、作業灯を点灯したまま道路を走行をすることは、違反行為になるとともに、他の車両の交通を阻害し危険です。道路走行中は作業灯を必ず消灯してください。

1.3 安全フレームについて

安全フレームはトラクタが万一転倒した場合に、運転者への被害を軽減するためのものです。
安全フレームの取り扱いには特に注意してください。



警告



安全フレームは、正しく装着された状態で運転してください。トラクタを使用するときは、確実に安全フレームを立てた状態にし、必ずシートベルトを装着してください。

※ 怠ると、転倒したときに重大事故を引き起こすことがあります。

安全フレーム・安全キャブの改造はしないでください。

※ 改造すると安全フレームとしての機能がなくなり、転倒したときに重大事故を引き起こすことがあります。

万一事故により安全フレームが変形したり、損傷した場合は、「曲げたり、溶接したり」の修理をしないで新しい純正部品と交換してください。

※ 怠ると安全フレームの機能がなくなり、転倒したときに重大事故を引き起こすことがあります。



万一トラクタが転倒するときは、ハンドルをしっかり握り、座席より飛び出さないでください。

※ 怠ると、トラクタの下敷きになる等、重大事故を引き起こします。

高さに制限のある屋内、果樹園、ハウス内等の作業で、安全フレームを後方に倒す場合は、シートベルトを装着しないでください。

※ この状態では体を保護することはできません。

補足

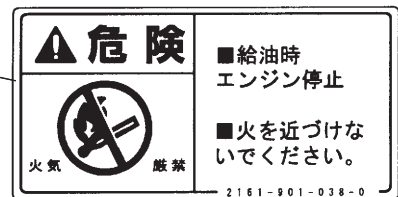
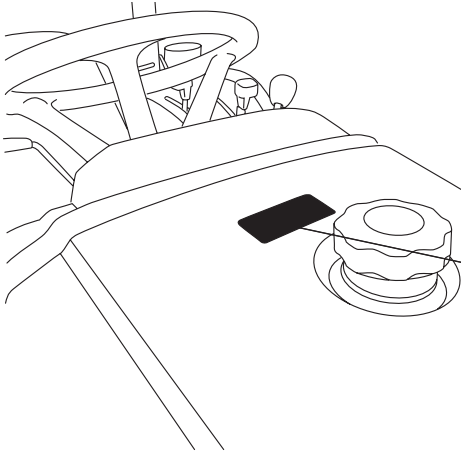
- 安全フレームを倒す場合は、安全フレームと作業機のすき間を確保してください。作業機をゆっくりと最大高さまで上げて確認してください。

1.4 警告ラベルについて

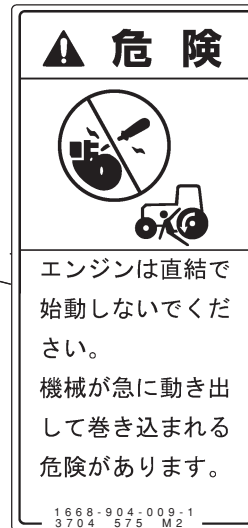
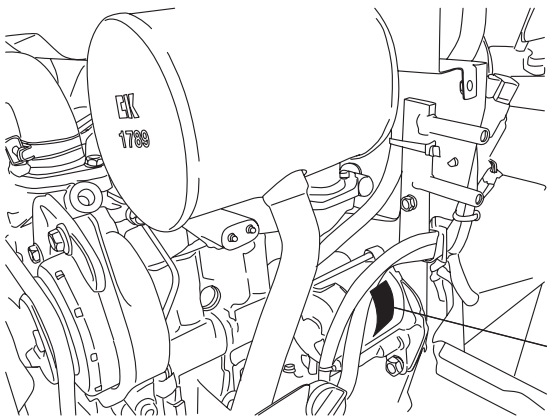
- (1) このトラクタには、正しく作業していただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。
- (2) 警告ラベルが破損したり、なくなったり読めなくなった場合は、新しいラベルを注文し貼り替えてください。
- (3) 汚れた場合は、きれいに拭きとり、いつでも読めるようにしてください。
- (4) 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルもお買い上げ先へ注文してください。
- (5) 高圧洗浄機で洗車すると、圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。圧力水を直接ラベルにかけないでください。

1.5 警告ラベル貼付箇所

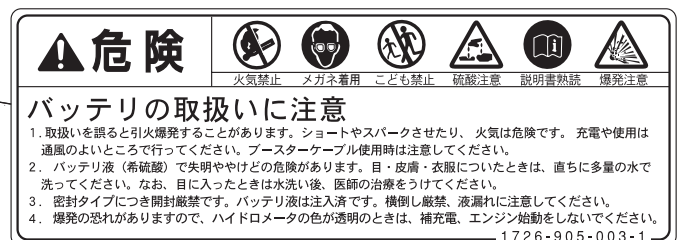
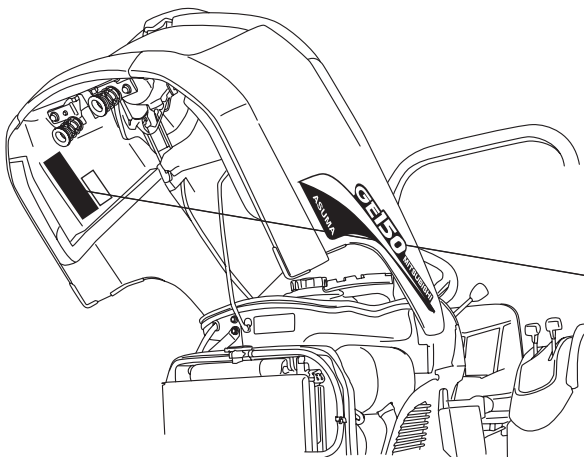
⚠ 危険



9020 7153 860
ラベル (キケン/カキゲンキン)



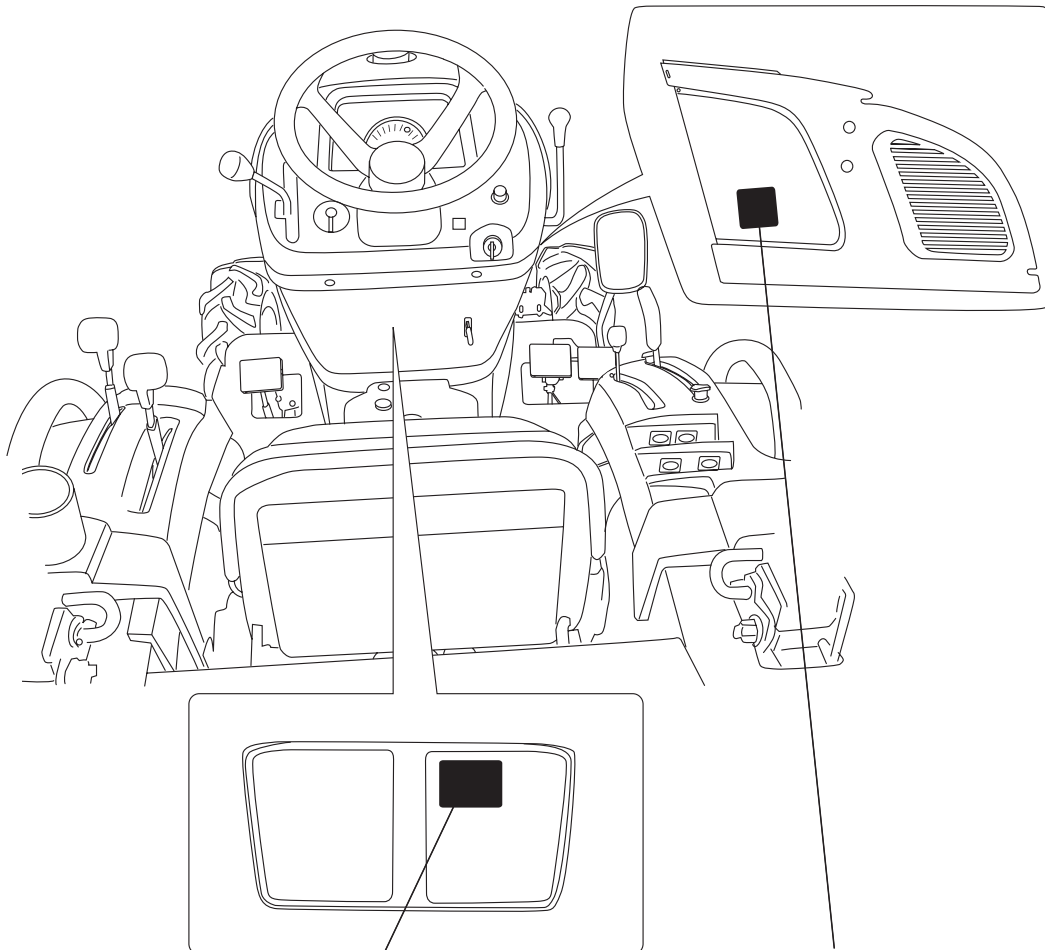
9911 0001 000
ラベル (キケン/スタータ)



9911 0001 100
ラベル (キケン/バッテリー)

1. 使用上のポイント

警告



9950 0000 810
ラベル (ケイコク/ブレーキ)

警告

作業切換スイッチおよびバックアップ (D型) の取扱い
使用法を誤ると危険です。
守らないと転倒事故や故障の原因になります。
次のような時は、作業切換スイッチを「路上走行」位置、または、
倍速旋回を「切」位置にし、さらにバックアップ、倍速旋回
表示灯が消灯していることを確認してください。

消灯確認

バック アップ	倍速 旋回
------------	----------

- 路上走行時、フロントローダ作業時
- 作業機脱着時
- 圃場の出入り、積み込み、積み下ろし時
- トレーラ作業などのけん引作業時

M 1808-905-001-0

9981 0000 060
ラベル (ケイコク/フルターン)

警告

駐車及び
道路走行
のとき

連結金具

圃場作業
のとき

左ペダル
ブレーキペダル
右ペダル

ブレーキペダルの連結

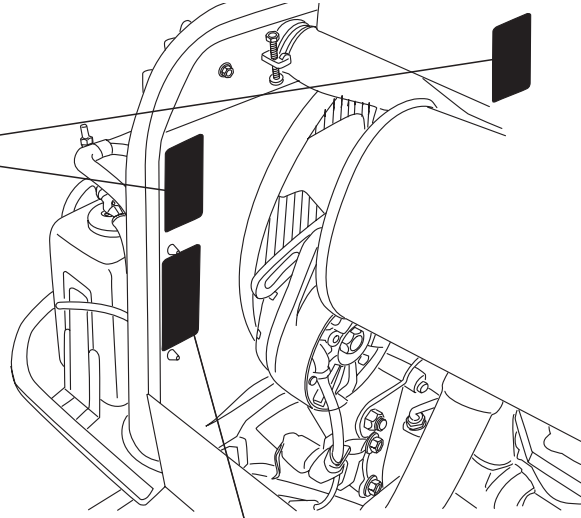
ブレーキペダルは左右それぞれ独立しています。
道路走行のときは、左右のブレーキペダルを必ず連結してください。

1675-905-003-1

警告



9911 0000 960
ラベル (ケイコク/ファン)



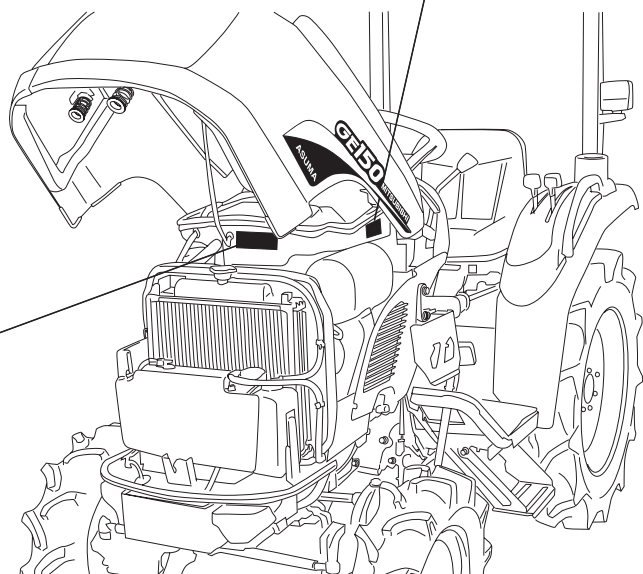
9911 0000 980
ラベル (ケイコク/シールド)



9020 7153 870
ラベル (ケイコク/マフラ)

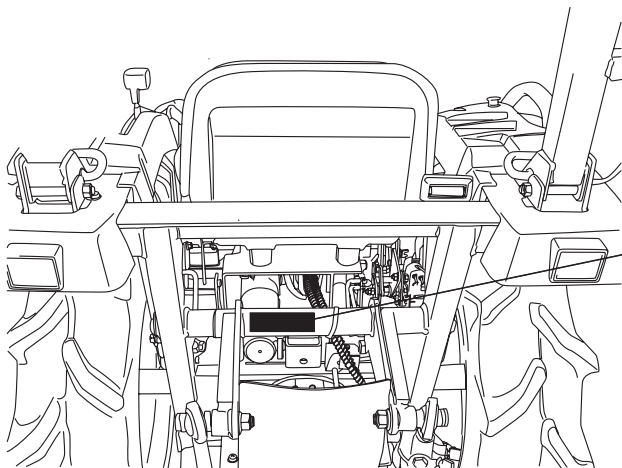


2694 6010 350
ラベル (ケイコク/ラジエータ)



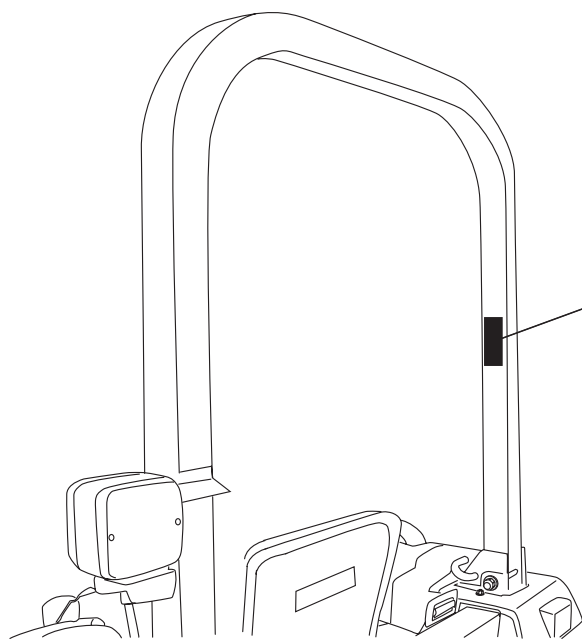
1. 使用上のポイント

警告



警告	
	<ol style="list-style-type: none"> シールドカバーは正しい位置に装着してください。 作業機を脱着する場合は、PTOをOFFにしてエンジンを停止して脱着をしてください。 PTOを使用しないときは、PTOシャフトカバーをしてください。 トラクターと作業機の人に立つのは危険です。絶対に入らないでください。
	<p>トラクターの転倒を防ぐため、けん引するときは指定されたヒッチおよびドローバでけん引してください。</p> <p style="text-align: right;">1688-904-008-1 3704 574 M2</p>

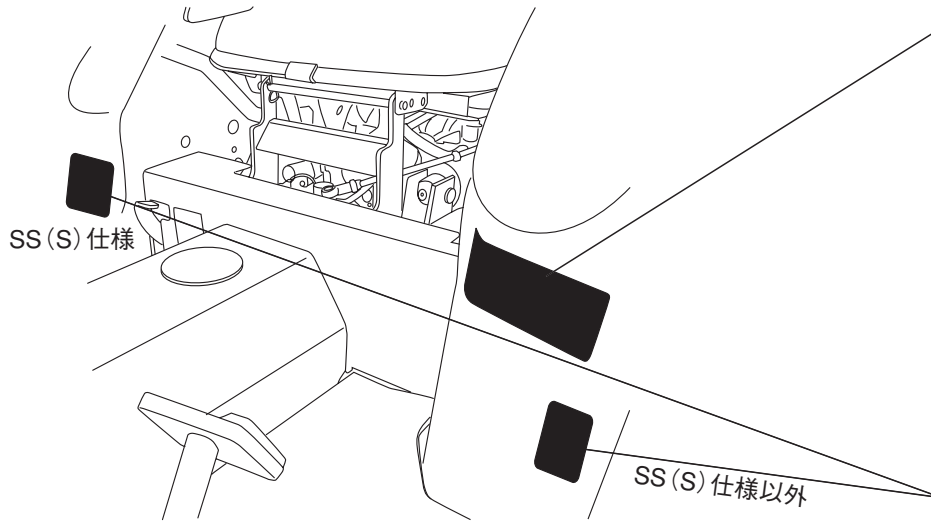
9911 0000 990
ラベル (ケイコク/シールド/PTO)



警告	
	<ol style="list-style-type: none"> ロブスやキャビンは、正しく装着された状態で運転してください。 ロブスやキャビンは、改造しないでください。 ダメージを受けたものは使用しないでください。 トラクターが転倒するときは、ハンドルをしっかりと握り、席より飛び出さないでください。 シートベルトは必ず締め、楽な状態に調整してください。 シートベルトは純正品を御使用ください。 可倒式ロブスを倒した時は、シートベルトは締めないでください。 可倒式ロブスを倒した状態で、作業機を上げる場合は、ロブスと干渉し、手を挟む恐れがあります。 <p style="text-align: right;">1789-905-006-1</p>

9981 0000 080
ラベル (ケイコク/ロブス)

⚠ 注意



⚠ 注意

副変速が高速で主変速が「後進」のときにはエンジン回転数を低速回転で行ってください。

1789-905-001-0

SS(S)仕様以外：9981 0000 040
ラベル (チュウイ/スピード)
SS(S)仕様：9981 0000 050
ラベル (チュウイ/スピード/N)

⚠ 注意

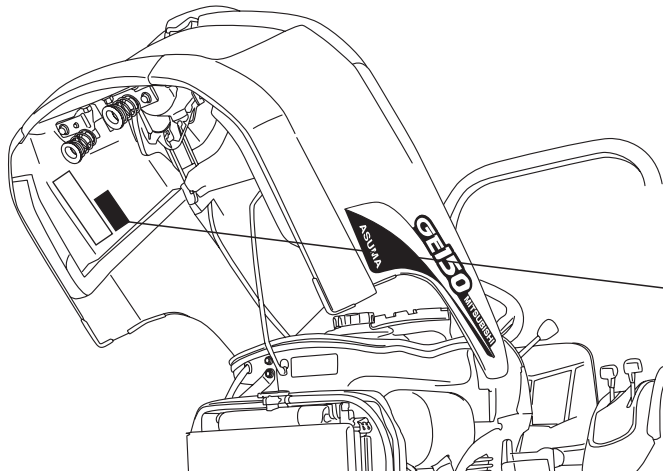
路上走行
路上走行のときは、道路運送車両の保安基準を守ってください。
(詳細は、取扱説明書を参照してください。)

点検、整備時
エンジンを停止し、機械が完全に停止した状態で点検、整備を行ってください。

油圧リンクで作業機持ち上げ時は、必ず油圧下降ロックを掛けて作業してください。

1736-902-002-0

9981 0000 030
ラベル (チュウイ/ソウコウ)

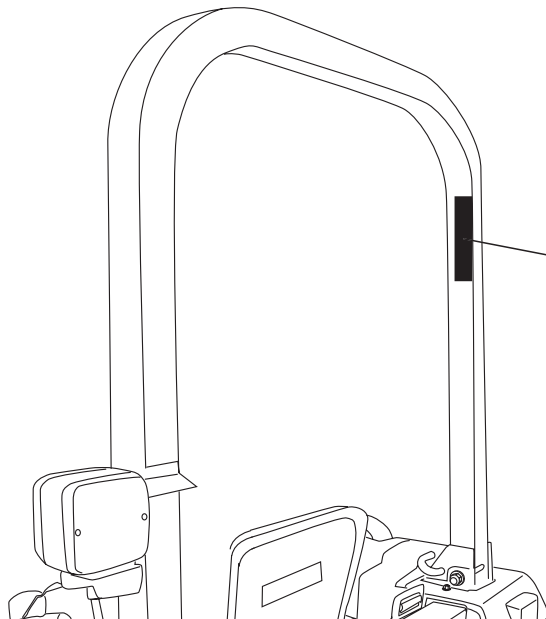


⚠ 注意

バッテリーを外すときは必ず、アース側⊖を先に外してください。

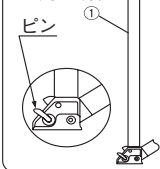
1668-904-003-1
3704 569 M2

9911 0000 970
ラベル (チュウイ/バッテリー)



⚠ 注意

可倒式安全フレームの取扱い方法



路上走行や作業をする時は、①の状態で使用してください。

フレームを倒すときは、左右のピンを引いてからフレームを倒して操作してください。

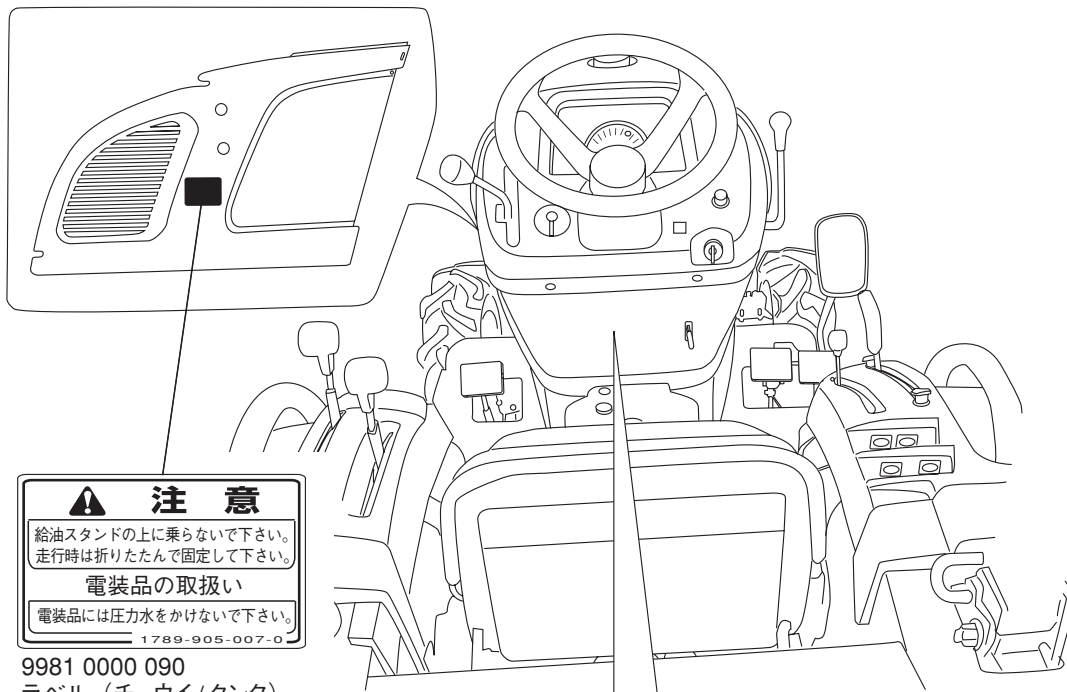
操作が終わったら、ピンを戻してロックをかけ、フレームが確実に固定されていることを確認してください。

1789-905-005-0

9981 0000 070
ラベル (チュウイ/SF)

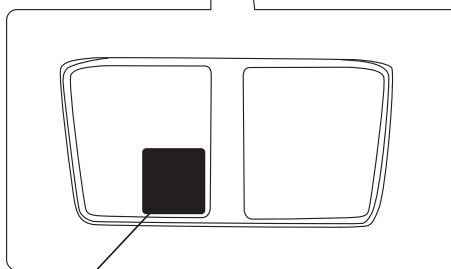
1. 使用上のポイント

⚠ 注意




⚠ 注意
 給油スタンドの上に乗らないで下さい。
 走行時は折りたたんで固定して下さい。
電装品の取扱い
 電装品には圧力水をかけないで下さい。
1789-905-007-0

9981 0000 090
 ラベル (チュウイ/タンク)



⚠ 注意

 トラクタの運転操作をする前に各部分の取扱説明をよくお読みください。

① エンジン始動の前に、トラクタ各部の安全カバー、保護装置が正しく取り付けられていることを確認し、付近にはかの人がないことを十分確認してください。
 ② 手足、衣服などが回転部分に接近しないように十分にご注意をお願いします。
 ③ 駐停車するときは、パーキングブレーキをかけ、作業機を完全におろし、エンジンを停止し、始動キーを抜いてください。
 ④ 作業機をトラクタにセットする際は、トラクタの前輪・後輪荷重値を越えないように点検確認してください。
 ⑤ デフロックが自動的に抜けないときには、直ちにクラッチペダルを踏みこんで、トラクタを停止させてください。また、高速走行中はデフロックを使用しないでください。(デフロック付トラクタのみ)

1675-905-001-1

9911 0001 030
 ラベル (チュウイ/ドライブ)

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証

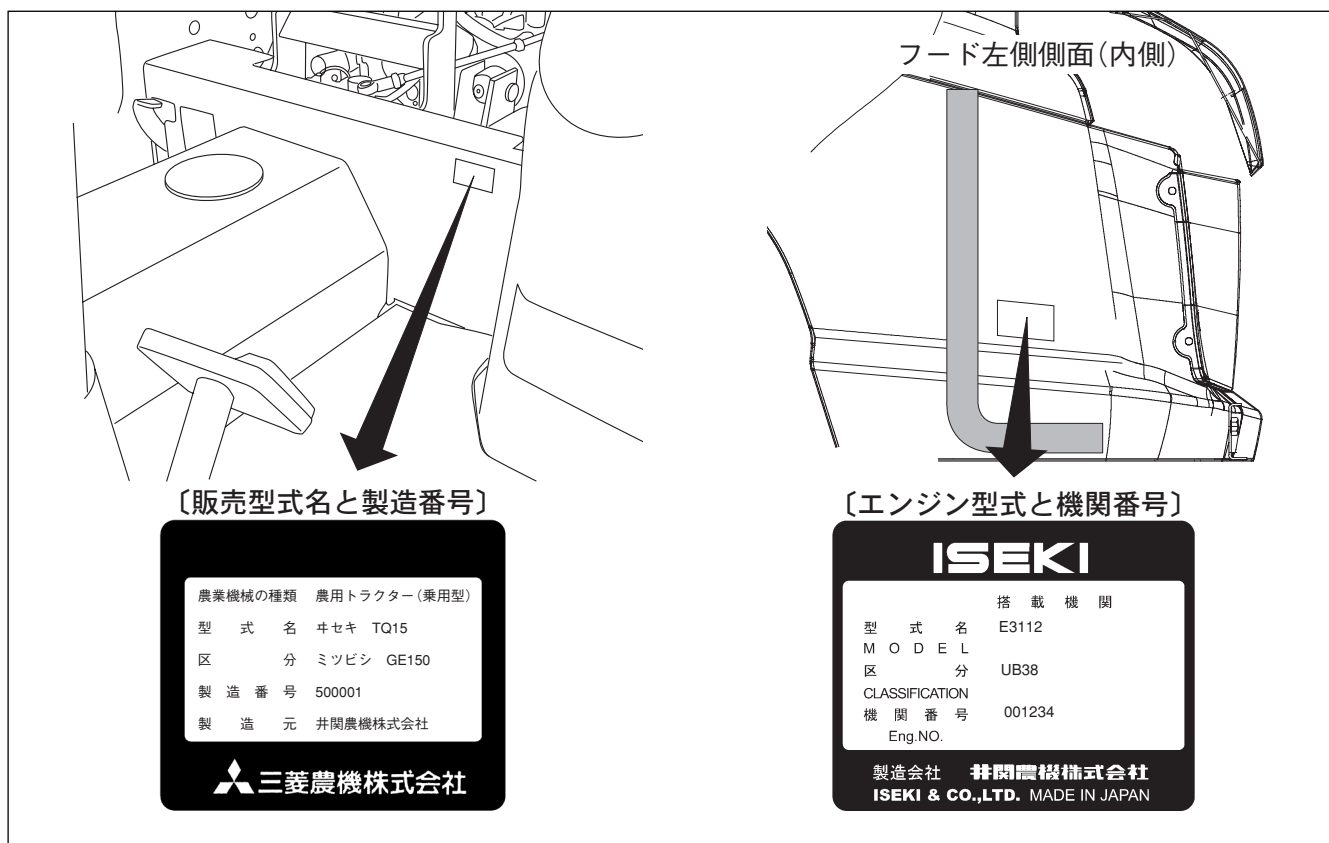
この商品には、三菱保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点、およびサービスに関するご用命は、お買い上げ先へお気軽にご相談ください。その際は、

- (1) 販売型式名と製造番号（本機）
- (2) エンジン型式とエンジン機関番号
をあわせてご連絡ください。

2.3 銘板の位置

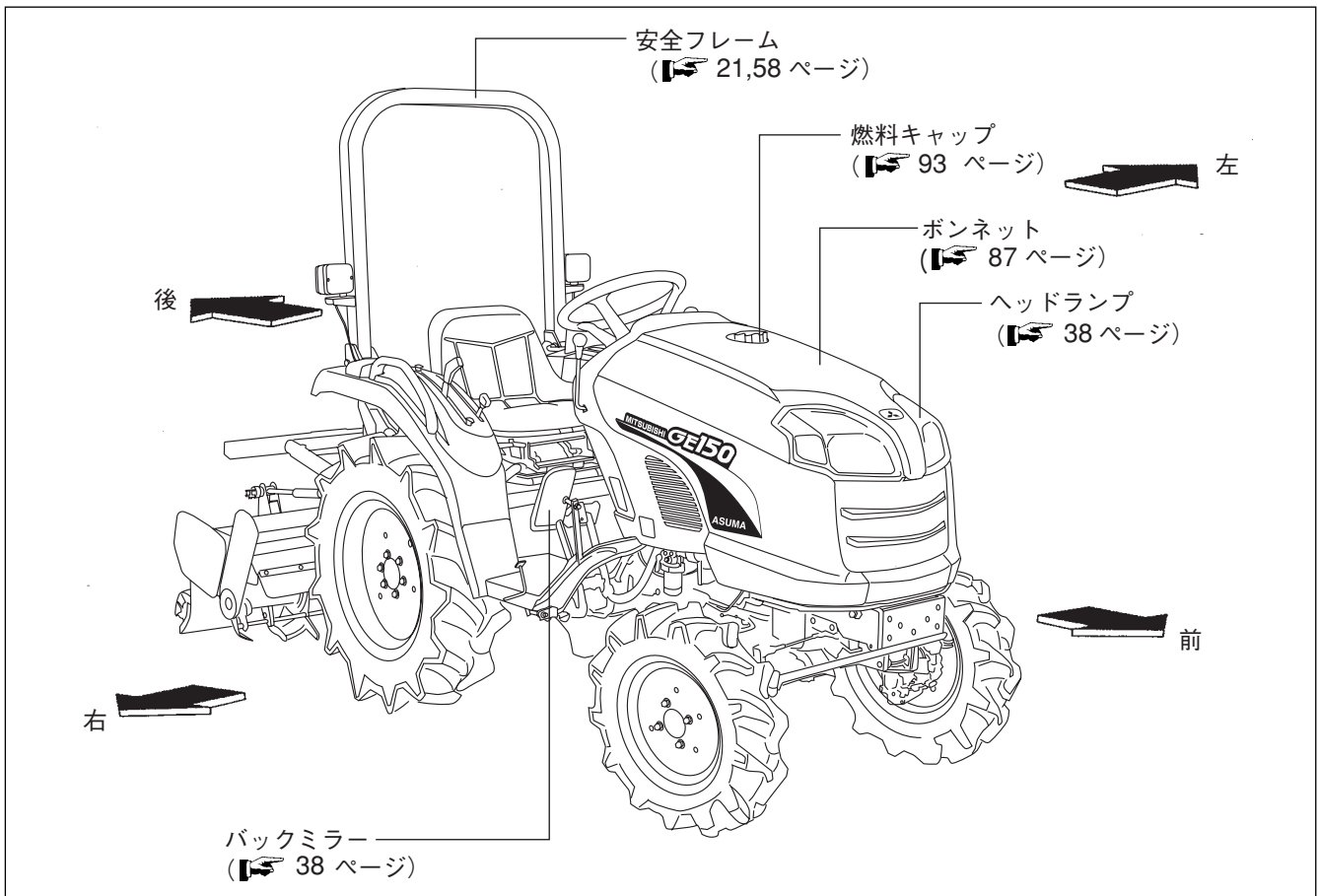


2.4 補修用部品の供給年限について

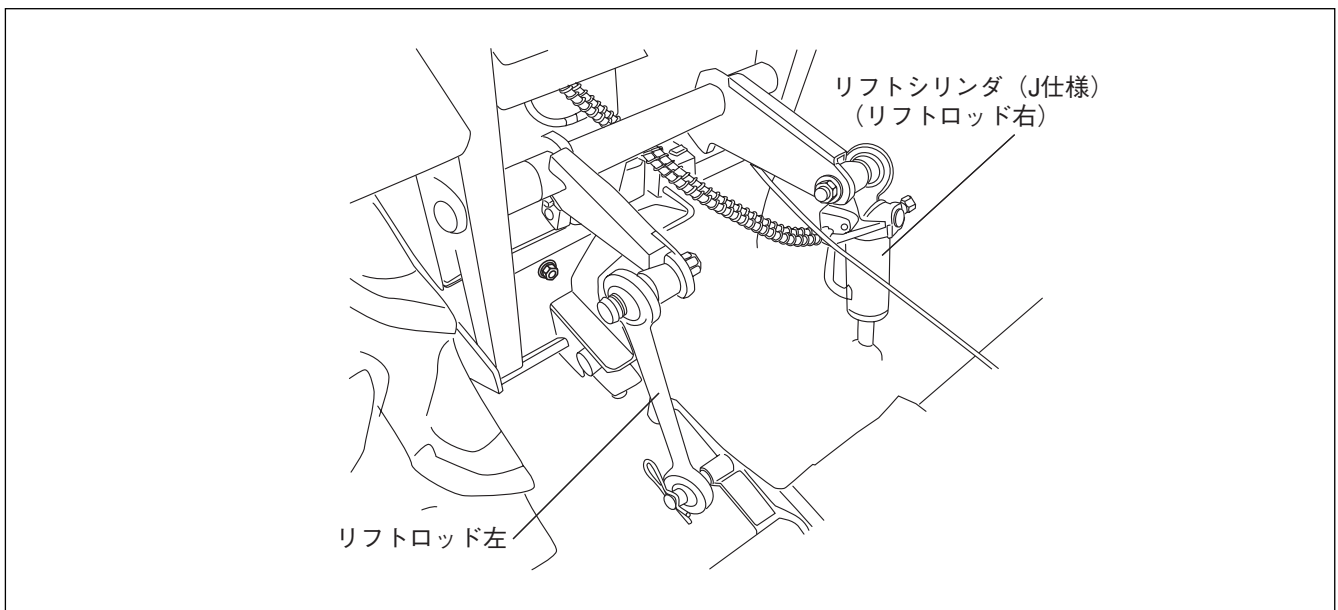
- この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には納期および価格についてご相談させていただきます。

3. 各部の名称

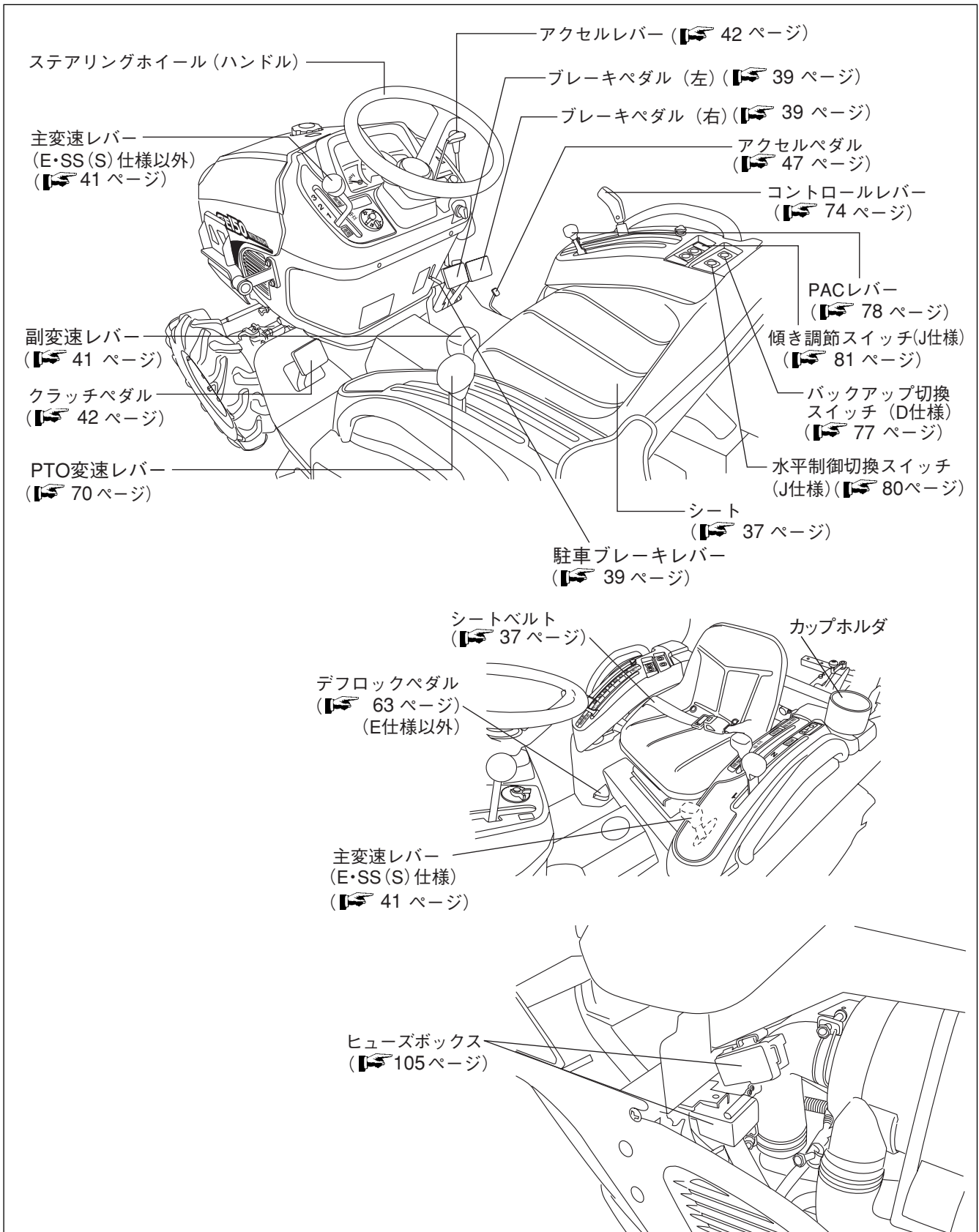
3.1 全体



3.2 2点リンク

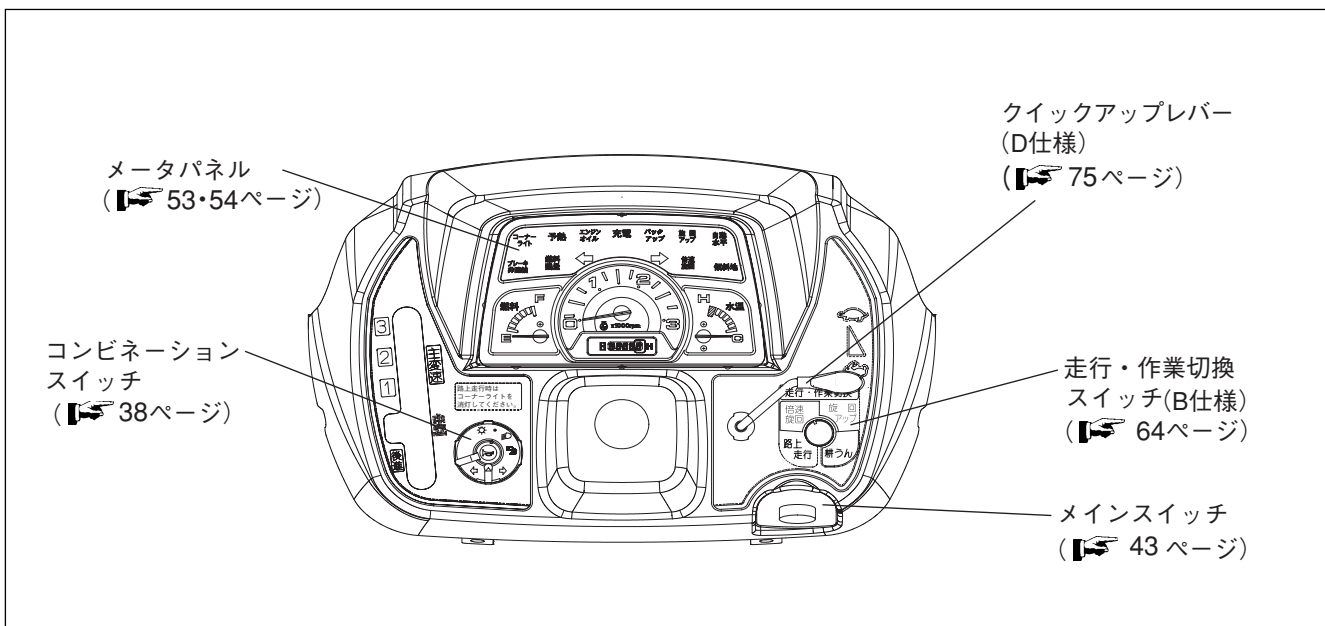


3.3 レバー・ペダル関係

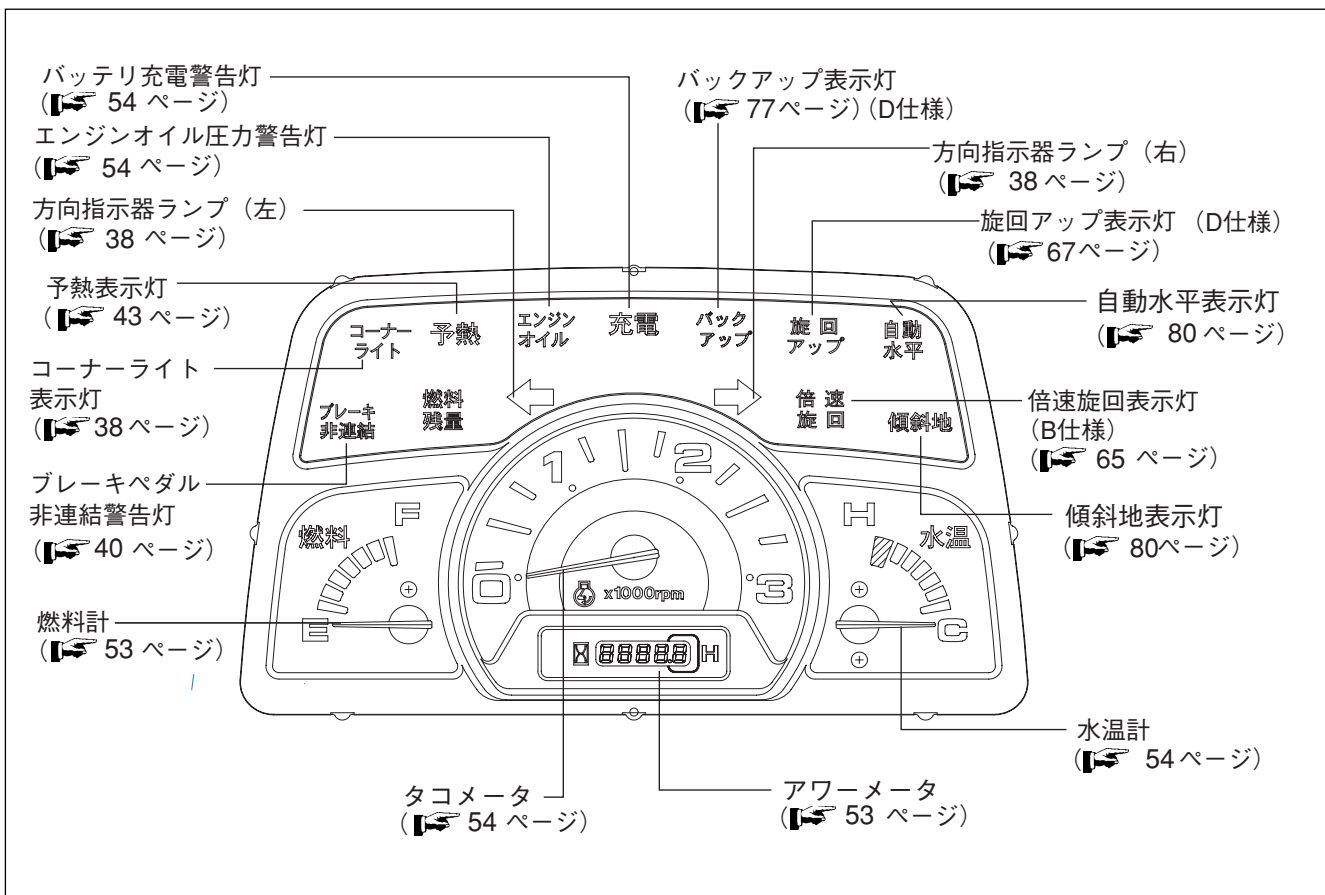


3.各部の名称

3.4 スイッチ関係



3.5 メータパネル



4. 作業前点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
作業前点検は毎日欠かさず行ってください。

⚠ 危険



燃料を補給するときは火気厳禁です。くわえタバコ等をしないでください。

※ 守らないと、火災の原因になります。



燃料、オイルがこぼれたときは、きれいに拭き取ってください。

※ 守らないと、火災等を引き起こすことがあります。

⚠ 警告



必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックしてから行ってください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

4.1 運転席に座る前に

点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
前日異常のあった箇所	・再度異常がないか点検します	・ある場合は「お買い上げ先」に相談してください	—
警告ラベルの点検	・はがれ、破損等はありませんか	・新しいものに張り替えてください	23
タイヤ	・空気圧は適正ですか ・摩耗、損傷はありませんか	・補充してください ・交換は「お買い上げ先」に相談してください	100
油漏れ	・各部に漏れがありませんか	・ある場合は「お買い上げ先」に相談してください	—
水漏れ	・各部に漏れがありませんか	・ある場合は「お買い上げ先」に相談してください	—
エンジンオイル	・レベルゲージの上下限の間に油量がありますか	・補充してください スーパーマルチGDオイル (10W-30・SL/CF)	88
ミッションケースのオイル	・レベルゲージの上下限の間に油量がありますか	・補充してください スーパーマルチGBオイル	97
冷却水	・ラジエータキャップを外し、口元まで冷却水がありますか	・補充してください	91
ファンベルト	・指で押したときのたわみ量は適正ですか	・張り量を調節してください	95

4.作業前点検

点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
エアクリーナ	・ バキューエータバルブにゴミはたまっていませんか	・ バキューエータバルブをつまんでゴミを落としてください	89
燃料フィルタ	・ 水や沈殿物がたまっていませんか	・ カップを洗浄してください	94
車体各部	・ 損傷がありませんか	・ ある場合は「お買い上げ先」に相談してください	—
ボルト・ナット	・ ゆるみはありませんか	・ 締め付けてください	—
作業機取付ピン	・ 脱落していませんか	・ 装着してください	—
各ランプ類	・ 損傷していませんか	・ ある場合は「お買い上げ先」に相談してください	—
ラジエータ	・ 防虫網が目詰まりしていませんか ・ ラジエータフィンが目詰まりしていませんか	・ 網面を清掃してください ・ ラジエータフィンを水道水で清掃してください	92
バッテリー液	・ ハイドロメータの色は緑色ですか	・ 黒色の場合は、補充電してください ・ 透明の場合は交換が必要です	96
標識（ナンバープレート） 反射器	・ 汚れはありませんか ・ 損傷はありませんか	・ 清掃してください ・ 交換の必要な場合は「お買い上げ先」に相談してください	—

4.2 運転席に座って

点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
ブレーキペダル	・ 遊びは適正ですか ・ 作動は正常ですか	・ 遊びの調節をしてください ・ 正常でない場合は「お買い上げ先」に相談してください	99
クラッチペダル	・ 遊びは適正ですか ・ 作動は正常ですか	・ 遊びの調節をしてください ・ 正常でない場合は「お買い上げ先」に相談してください	99
駐車ブレーキ	・ 作動は正常ですか	・ 正常でない場合は「お買い上げ先」に相談してください	100
バックミラー	・ 汚れはありませんか ・ 損傷はありませんか	・ 清掃してください ・ 交換の必要な場合は「お買い上げ先」に相談してください	38

4.3 メインスイッチを「入」に入れて

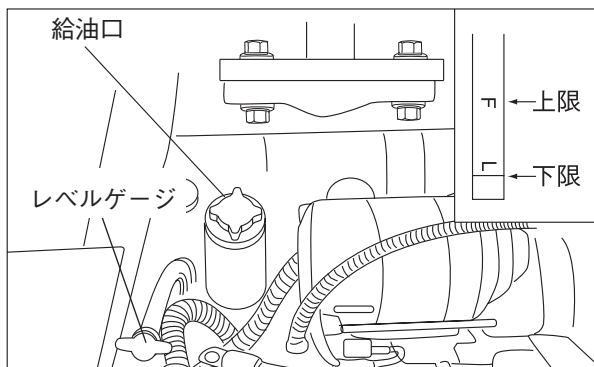
点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
燃料計	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作動は正常ですか ・ 燃料は十分入っていますか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正常でない場合は「お買い上げ先」に相談してください ・ 給油してください 	53
燃料キャップ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆるんでいませんか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確実に締め付けます 	93
各ランプ類 モニタランプ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 汚れはありませんか ・ 点灯しますか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃してください ・ 点灯しない場合は「お買い上げ先」に相談してください 	32
メータ類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作動は正常ですか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正常でない場合は「お買い上げ先」に相談してください 	32
ホーン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳴りますか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳴らない場合は「お買い上げ先」に相談してください 	—

4.4 エンジンを始動して、徐行しながら

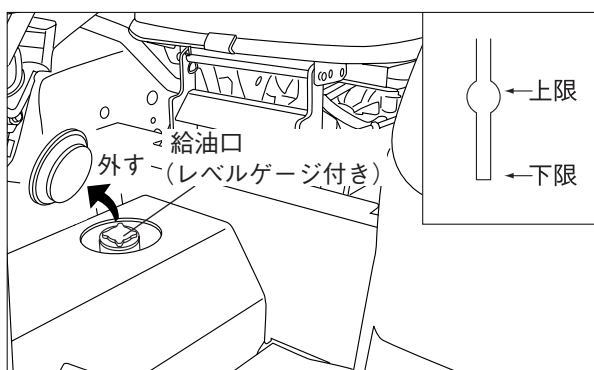
点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
バッテリー充電 警告灯 エンジンオイル 圧力警告灯	<ul style="list-style-type: none"> ・ エンジン始動後、消灯しますか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消灯しない場合は「お買い上げ先」に相談してください 	32
排気ガス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色は薄青色ですか ・ 白煙や黒煙を吐きませんか ・ 異常な音はしませんか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白煙や黒煙を吐く場合や異常な音がする場合は「お買い上げ先」に相談してください 	—
ブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効きは悪くありませんか ・ 片効きしませんか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「お買い上げ先」に相談してください ・ 左右の調整をしてください 	100
ステアリングホイール（ハンドル）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 操作力が重くありませんか ・ 振れや取られがありませんか ・ 遊びが多くありませんか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「お買い上げ先」に相談してください 	—

4.作業前点検

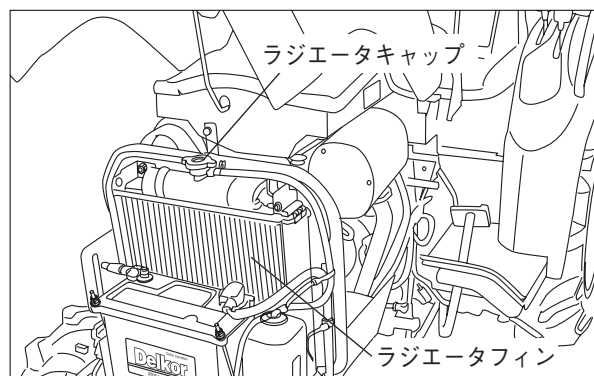
〈エンジンオイル〉 (88ページ)



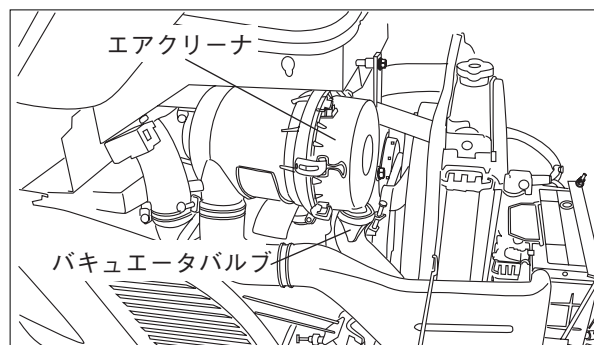
〈ミッションケースのオイル〉 (97ページ)



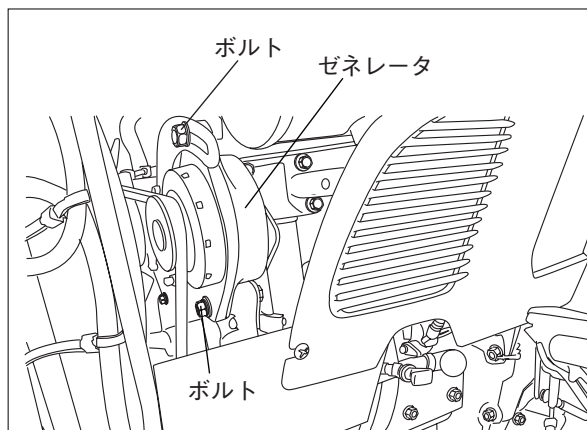
〈冷却水、ラジエータ〉 (91・92ページ)



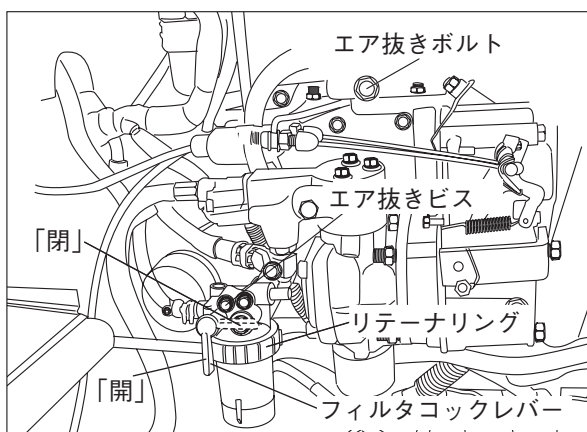
〈エアクリーナ〉 (89ページ)



〈ファンベルト〉 (95ページ)



〈燃料フィルタ〉 (94ページ)



5. 運転のしかた

5.1 運転前の準備

正しい運転姿勢になるよう、シート位置、シートベルト位置、バックミラー位置を調節してください。

警告

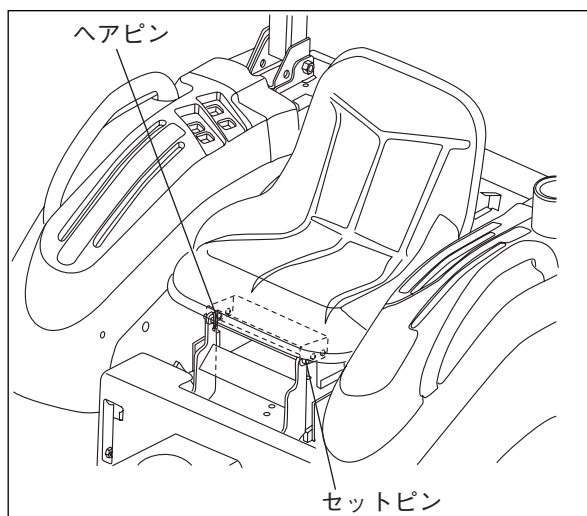


調節はエンジンを始動する前に行ってください。

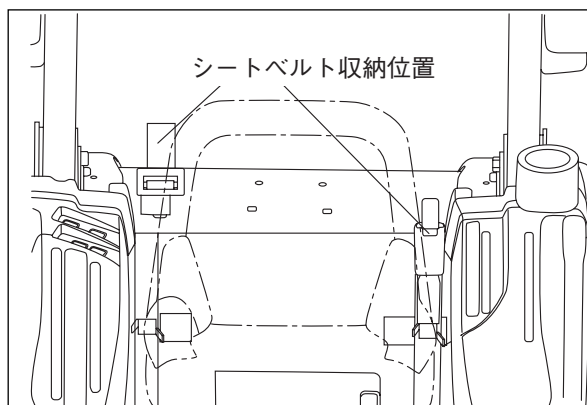
※ 走行中に調節すると、正常な運転ができなくなり、傷害事故につながるおそれがあります。

5.1.1 シート

- (1) シートを支持しているセットピンの取付位置により、シートは前後に調節できます。
- (2) 調節後は、セットピンをヘアピンで確実に抜け止めされていることを確認してください。

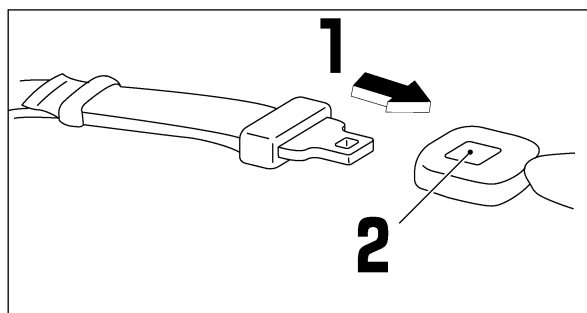


- (3) シートベルトを格納する時は図の位置に収納してください。



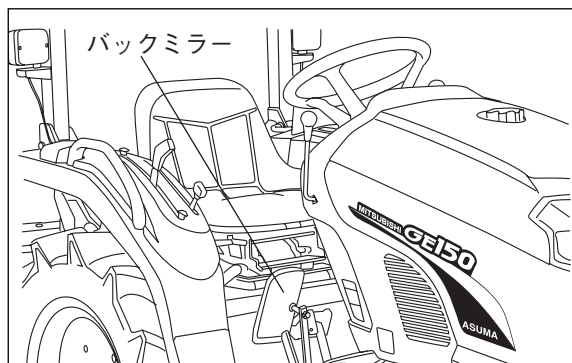
5.1.2 シートベルト

- (1) 体型に合わせてベルトの長さを調節し、ベルトを金具に押し込み装着します。
- (2) ベルトを外すときは、金具の中央の部分を押してください。



5.1.3 バックミラー

バックミラーは、上下・左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。



5.1.4 コンビネーションスイッチ

警告



道路走行中、コーナーライトは必ず消灯してください。

※ コーナーライトを点灯したまま道路を走行することは、違反行為になるとともに、他の車両の交通を阻害します。

■前照灯スイッチ

- ……ヘッドランプ消灯位置です。
- ☾ ……ヘッドランプ点灯位置です。
- ☾☽ ……ヘッドランプとコーナーライト点灯位置です。
このとき、コーナーライト表示灯も点灯します。

■方向指示器スイッチ

- (1) スイッチを操作すると、方向指示器およびメータパネルの方向指示器ランプが点滅します。
- (2) 右折または左折が終わったら、スイッチを中央に戻してください。

補 足

- 方向指示器ランプが、点灯したままになったときは、方向指示器の球切れが考えられます。
すべての方向指示器が点滅するか確認してください。

■ホーンスイッチ

メインスイッチを「入」の位置にして、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。



5.2 エンジン始動のしかた

警告



エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、すべての変速レバーやその他のレバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。

※ 守らないと、急発進することがあり、傷害事故を起こすおそれがあります。

エンジンを始動するときは、必ずPTO変速・主変速レバー・副変速レバーを中立にしてください。

※ 変速したままエンジンを始動すると、不意にトラクタ本体が動いたりPTO軸が回転し、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

室内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。

※ 換気が不十分な場合、排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。

駐車時、停車時には必ず駐車ブレーキを確実にかけてください。

※ 守らないと、トラクタが自然に動き出したりして、傷害事故を起こすおそれがあります。

注意



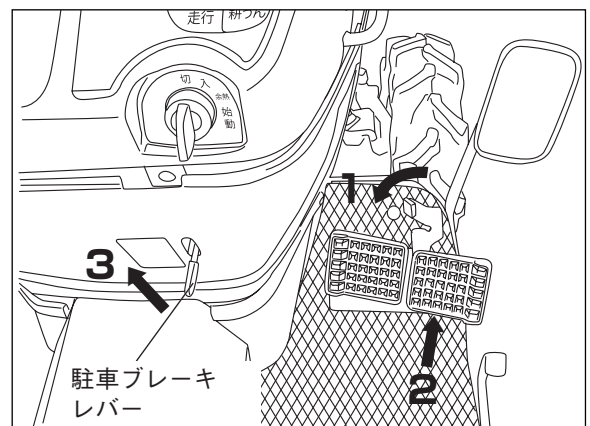
駐車ブレーキをかけたまま走行しないでください。

※ かけたまま走行するとブレーキを傷めます。

- 1 左右のブレーキペダルを連結します。
- 2 ブレーキペダルをいっぱい踏み込みます。
- 3 駐車ブレーキレバーを矢印方向に「引き上げ」固定します。
駐車ブレーキがかかります。

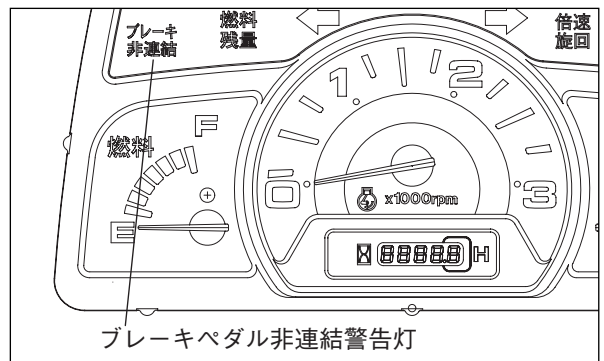
補足

- ブレーキペダルを強く踏むと、駐車ブレーキは自動的に解除されます。



補足

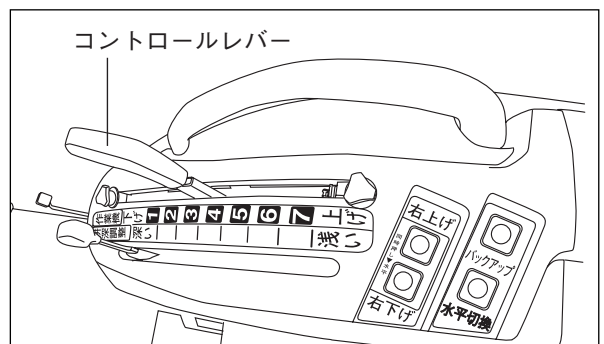
- ブレーキペダルは、左右それぞれ独立しています。左側を踏み込むと左側の後輪、右側を踏み込むと右側の後輪にブレーキがかかります。
- 左右のブレーキが連結されていないときは、トラクタメータパネルのブレーキペダル非連結警告灯が点灯して警告します。



- 4** コントロールレバーを下げ、作業機を地面までおろします。

補足

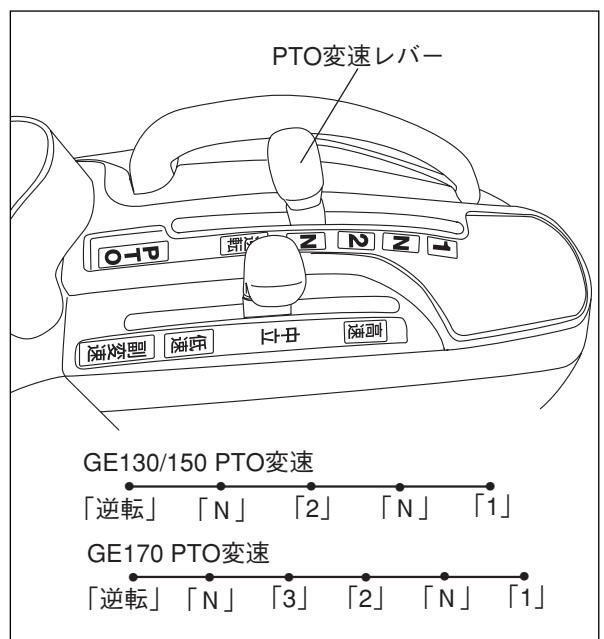
- D仕様は、クイックアップレバーで作業機を上げた状態で、エンジンを止めた場合、コントロールレバーを下げても作業機は下がりません。コントロールレバーを一度最上げ位置まで動かして下げてください。



- 5** PTO変速レバーを「N」にします。
(70ページ)

補足

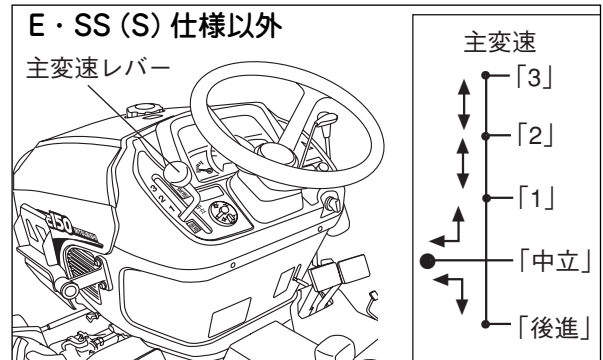
- PTO変速レバーは、必ずクラッチペダルを踏み込んで、PTO軸回転が完全に停止してから行ってください。入りにくい場合は、もう一度クラッチペダルを踏み直してから操作してください。



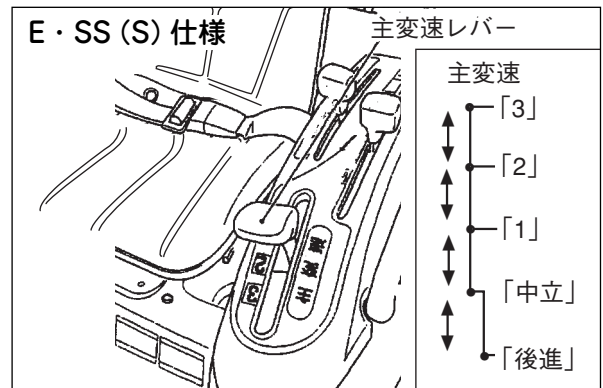
6 主変速レバーを「中立」にします。

補足

- 主変速レバーは、前進・後進シフトを行うレバーです。
走行しない場合は「中立」にしてください。
- 主変速レバーが「中立」の位置にある時はレバーを持ち上げてから前後に操作してください。(E・SS(S)仕様)
- 前進は「1速」「2速」「3速」の3段変速ができます。



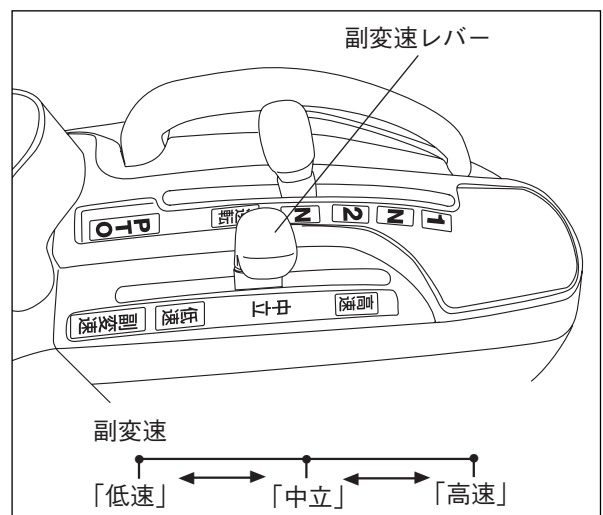
7 主変速レバーが任意の変速位置に確実に入っていることを確認してください。



8 副変速レバーを「中立」にします。

補足

- 副変速レバーは「低速」「高速」の2段階ができます。



注意



主変速・副変速のレバー操作は、クラッチペダルを踏みトラクタが完全に停止してから操作してください。

※ 走行中に変速するとミッションの損傷につながります。

9 アクセルレバーを「中程」まで引きます。

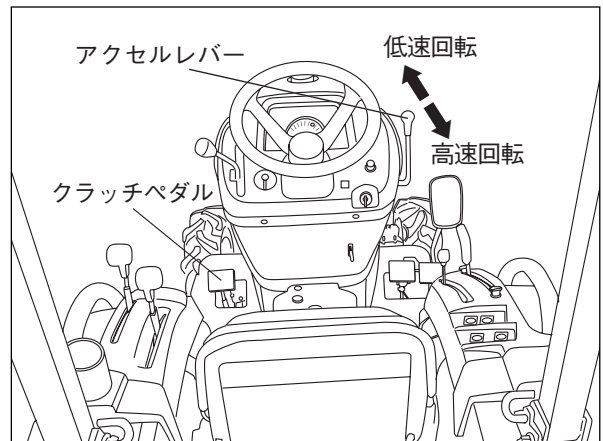
補足

- アクセルレバーはエンジンの回転数を制御するレバーです。手前に引くと高速回転になり、前方に押しと低速回転になります。

10 クラッチペダルを踏み込み、クラッチを「切」にします。

補足

- クラッチペダルは、踏み込むとクラッチが切れ、足を離すとクラッチがつながります。
- クラッチペダルをいっぱい踏み込み、クラッチを「切」にしないと、エンジンは始動しません。
- クラッチペダルは切るときは速く、つなぐときはゆっくりと操作してください。



注意



作業中は、クラッチペダルに足を乗せたままにしないでください。

※ クラッチの寿命が短くなります。

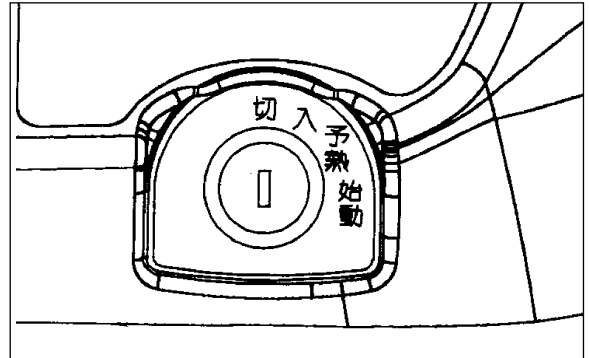
- 11** メインスイッチにキーを差し込み、「入」の位置に回します。

注意



メインスイッチを「入」の位置で長時間放置しないでください。

※ バッテリ上がりの原因となります。

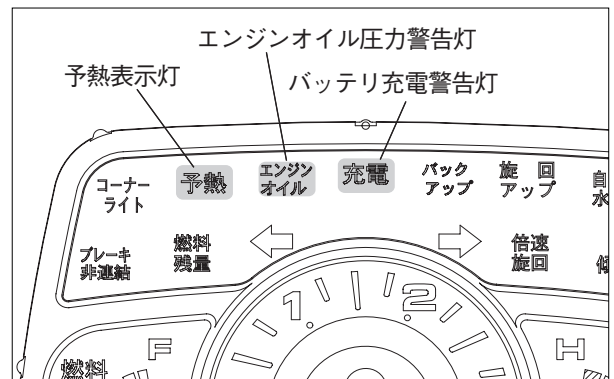


- (1) このときモニタランプのエンジンオイル圧力警告灯およびバッテリー充電警告灯が点灯していることを確認してください。(P54ページ)
- (2) メインスイッチは次の4つの位置があります。
 - 切……………エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置です。
 - 入……………エンジン回転中の位置です。
 - 予熱……………「予熱表示灯」が点灯し、エンジンを予熱します。5秒間保持した後、「始動」してください。
 - 始動……………クラッチペダルをいっばいに踏み込んで、エンジンを始動する位置です。エンジン始動後、手を離すと自動的に「入」位置に戻ります。

補足

- 予熱の状態で5秒経過すると、間欠ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったら始動してください。

- 12** エンジンが始動したら、ただちにメインスイッチから手を離してください。エンジン始動後、エンジンオイル圧力警告灯、バッテリー充電警告灯が消灯していることを確認してください。



注意



エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」の位置にしないでください。

※ スタータの破損の原因となります。



スタータの作動は1回10秒程度とし、エンジンが始動しないときは10秒程停止してから、再び操作を繰り返してください。

※ 連続してスタータを作動させると、バッテリーの寿命が短くなります。

5.運転のしかた

- 13** クラッチペダルからゆっくり足を離し、エンジン中速回転（約1500 rpm）で十分に暖機運転を行ってください。
気温により右表程度の時間、暖機運転を行ってください。

気温	暖機運転時間
0℃以上	5～10分
0℃～-10℃	10～20分
-10℃～-20℃	20～30分
-20℃以下	30分以上

警告



暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけてください。

※ 守らないと、トラクタが自然に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



換気が不十分な場所では、暖機運転をしないでください。

※ 排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。

注意



走行・作業前には必ず、暖機運転を行ってください。

※ 守らないと、エンジンの寿命を短くしたり、油圧ポンプの焼き付き、および油圧系の故障の原因となります。

補足

- 本トラクタの油圧オイルは、ミッションオイルを兼用しています。寒冷時はオイルの粘度が高くなり、油圧ポンプがオイルを吸い込みにくくなることがあります。また、油圧系より音が発生することがありますので暖機運転は必ず行ってください。
- 上記の現象はオイルの温度上昇と共に解消しますので、異常ではありません。

5.3 エンジン停止のしかた

警告



エンジン停止時は、駐車ブレーキを確実にかけてください。

※ 守らないと、坂道等でトラクタが自然に動き出し、事故の原因となります。



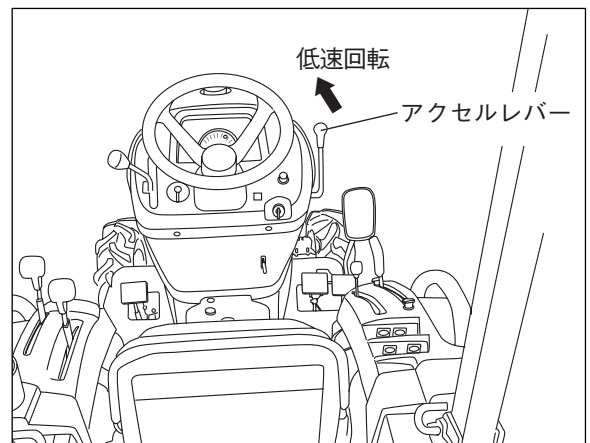
エンジン停止のため、エンジン周辺部にふれる場合は注意してください。

※ エンジン周辺部は高温のため、やけどをするおそれがあります。

- 1 アクセルレバーを前方にいっぱい押し、エンジンを低速回転にします。

補足

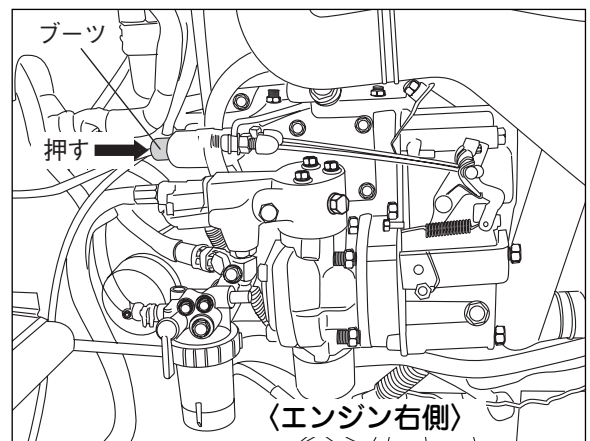
- エンジンを高速回転のまま停止しないでください。
- 長時間運転後は、アイドリング回転で5～10分間ほど無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。



- 2 メインスイッチを「切」位置にします。エンジンは停止します。

補足

- 万一、故障しエンジンが停止しないときは、ボンネットを開け、図の要領でブーツ中心を停止するまで押してください。
また故障の際には、「お買い上げ先」にご相談ください。



- 3 メインスイッチのキーは必ず抜きます。

5.4 発進のしかた

発進をする前に、下記の項目を確認してください。

警告



トラクタを発進させるときは、前後左右の状況を確認し、トラクタの近辺に人を近づけないでください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

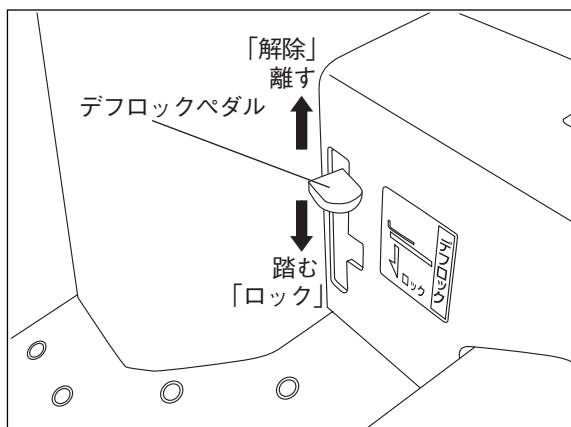
トラクタや作業機に他の人や物を乗せないでください。

※ 守らないと、人が転落したり物が落下したりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。



路上走行するときは、デフロックペダル（デフロック付トラクタのみ）が解除してあるか確認してください。

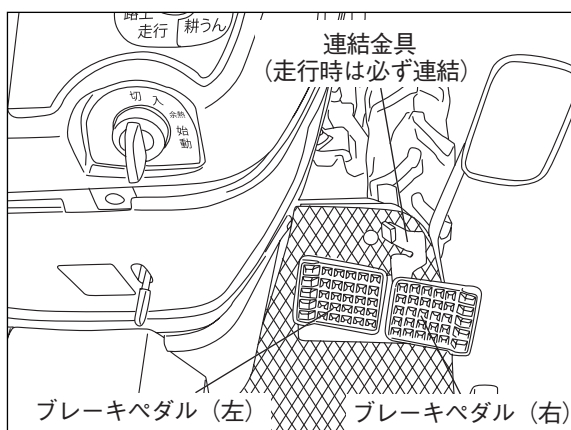
※ 解除していないと転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。



路上走行するときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。

ブレーキ非連結警告灯の消灯を確認してください。

※ 守らないとブレーキが片ぎきとなり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。

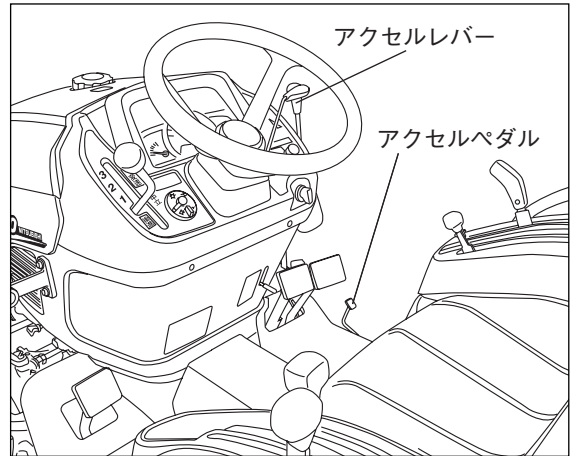


警告



路上走行するときは、必ずアクセルペダルを使用してください。

※ 守らないと、正常な走行スピードのコントロールができなくなるおそれがあります。



クラッチペダルは、ゆっくり離してください。

※ 急に離すと急発進して転倒・転落・衝突事故等を引き起こすおそれがあります。

倍速旋回（B）仕様のトラクタでの路上走行は、走行・作業切換スイッチを「路上走行」または倍速旋回「切」の位置にしてください。

※ 守らないと、衝突・転倒事故の原因になります。



負荷の大きなけん引をする場合や、湿田での脱出時はトラクタが後方に転倒しないよう注意してください。

※ 守らないと、衝突・転倒事故の原因になります。

注意



作業中は、クラッチペダルに足を乗せたままにしないでください。

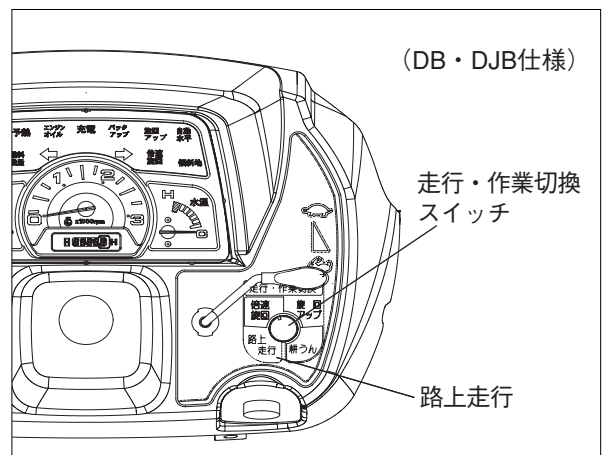
※ クラッチの寿命が短くなります。

1 倍速旋回（B）仕様は、走行・作業切換スイッチを「路上走行」または倍速旋回「切」の位置にします。

（ 64ページ）

補足

- E仕様には、走行・作業切換スイッチはありません。

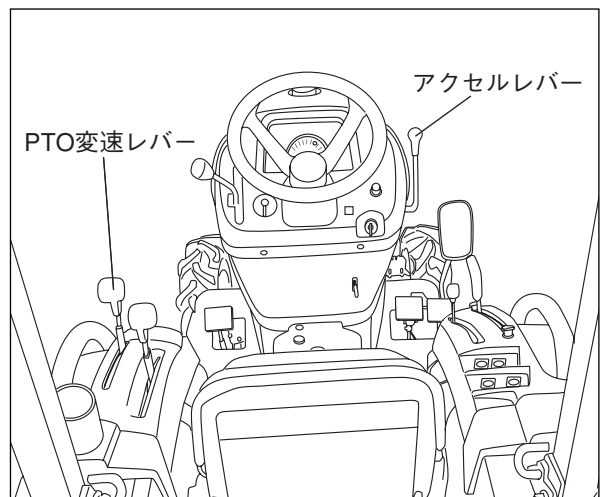
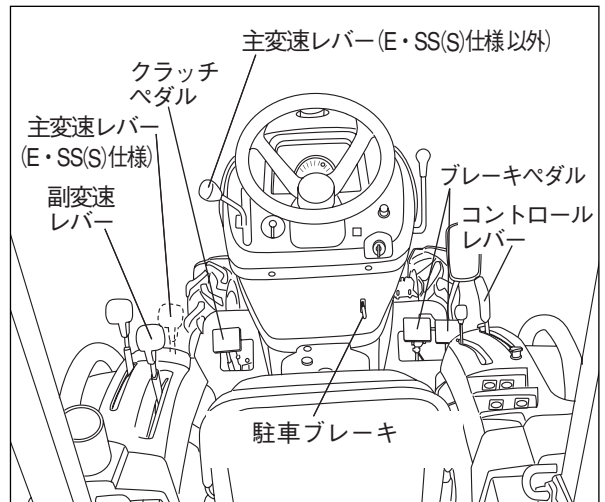


5. 運転のしかた

- 2 コントロールレバーを上げ、作業機を上げます。
- 3 クラッチペダルを踏み込んで、クラッチを切ります。
- 4 主変速レバー、副変速レバーを希望する変速位置に入れます。
- 5 ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキを外します。
- 6 アクセルレバーまたはアクセルペダルでエンジン回転を上げながら、クラッチペダルをゆっくりと離します。


補 足

- アクセルペダルはアクセルレバーと連動しています。
ペダルを踏み込むとエンジン回転が上がり、ペダルから足を離すとアクセルレバーの設定回転まで戻ります。
- 走行中はクラッチペダルおよびブレーキペダルから足を離してください。
- クラッチの寿命を延ばすため、発進以外は半クラッチ操作をできるだけ避けてください。また、速度調節をクラッチで行わないようにしてください。
- 路上走行するときは、PTO変速レバーは常にN「中立」にしておいてください。



5.5 変速のしかた

変速のしかたについては、「副変速レバー」「主変速レバー」の項目を参照してください。

( 41ページ)

5.6 旋回のしかた

警告



旋回するときは、できるだけエンジン回転を落とし、必要な場合は変速位置を低速にしてください。

※ 高速で急旋回すると、転倒事故につながります。

5.7 坂道での運転

警告



坂道では急旋回をしないでください。

※ 守らないと、転倒事故の原因になるおそれがあります。

坂の途中では、クラッチを切ったり、すべての変速レバーを中立にしないでください。また、下り坂では、エンジンブレーキを使用し、足ブレーキの多用はしないでください。

※ 守らないと、スリップや転倒事故の原因となるおそれがあります。

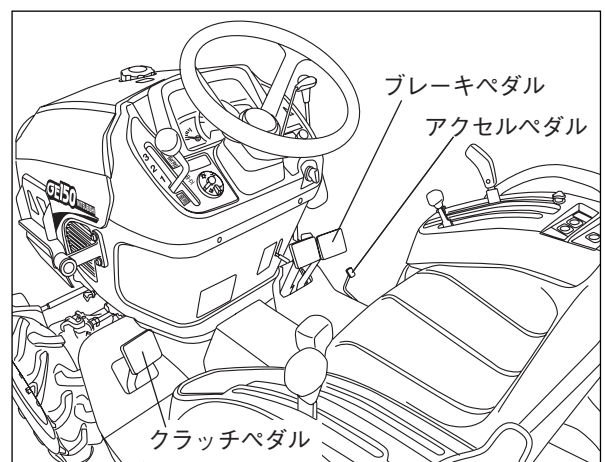


坂の状況に応じた適切なスピードで走行してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

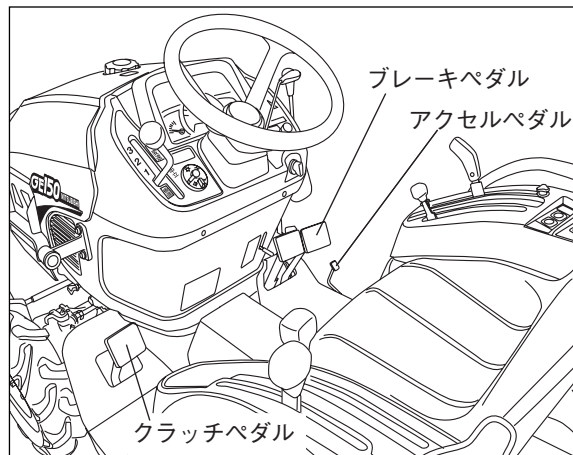
5.7.1 急な上り坂での発進

- 1 ブレーキペダルを踏み込みます。
- 2 クラッチペダルを踏み込んで、クラッチを切ります。
- 3 各変速レバーを低速位置に入れます。
- 4 アクセルレバーでエンジン回転を中速（約1500 rpm）にします。



5. 運転のしかた

- 5 クラッチペダルをゆっくり離し、半クラッチ状態にします。
- 6 同時にブレーキペダルの踏み込みを少しゆるめます。
- 7 アクセルレバーをさらに引いて、エンジンの回転を上げながら、ブレーキペダルを離すと同時にクラッチペダルから足をゆっくり離すとトラクタは発進します。



5.7.2 下り坂での運転

下り坂では、エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで下るのは危険です。

5.8 けん引

警告



けん引する車両の総重量が1050 kgを超える場合のけん引は禁止です。

※ このトラクタにはトレーラーブレーキが装着されていません。



けん引作業を行う場合は、必ず純正品のヒッチを使用してください。

※ 守らないと、トラクタが浮き上がったり、傾いたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

けん引はこのトラクタに合った作業機をけん引ヒッチに取り付けて使用してください。

※ 適切でない作業機をけん引すると傷害事故の原因になります。
不明な点がありましたら「お買い上げ先」に相談し、無理なけん引は避けてください。

補 足

- けん引して道路走行する場合、けん引する車両の総重量が750 kgを超えるときは、けん引免許が必要となります。

5.9 停車・駐車のしかた

危険



トラクタを草やワラの上に止めて空ぶかしをしたり、高回転にしないでください。

※ 排気管の熱や排気ガスによりワラ等に着火し、火災の原因になるおそれがあります。

警告



トラクタから離れるときは、エンジンを停止し、キーを抜き取り、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。

また、駐車するところは広く平たんで地面の硬い場所を選んでください。

※ 守らないと、トラクタが自然に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

駐・停車のときは必ず駐車ブレーキをかけてください。

※ 守らないと、トラクタが自然に動き出すおそれがあります。

このトラクタは常時噛合式のトランスミッション機構を採用していますので、主変速レバーが「中立」でも車体が動くことがあります。特に

① ミッションオイルが低温のとき

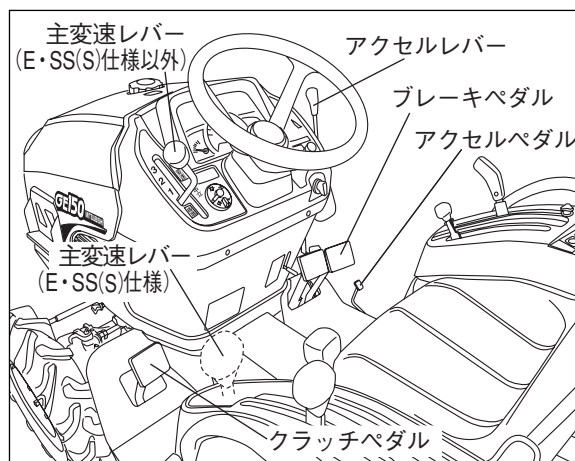
② エンジン回転が高いとき

に起こりやすくなります。この現象は異常ではありません。

5.運転のしかた

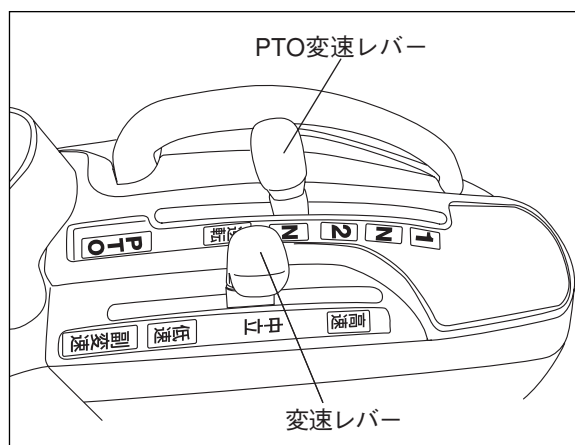
1 アクセルレバーを前方に押し、アクセルペダルから足を離して、エンジン回転を下げます。

2 クラッチペダルを踏み込み、同時にブレーキペダルを踏み込みます。

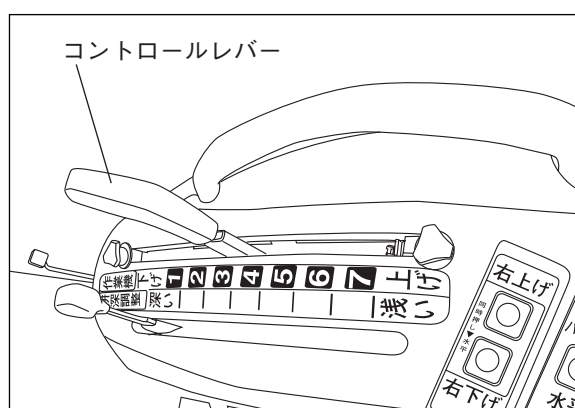


3 トラクタが完全に停止してから、主変速レバー、副変速レバーを「中立」、PTO変速レバーを「N」にします。

4 駐車ブレーキをかけます。



5 作業機を装着している場合は、コントロールレバーを下げて、作業機を降ろしてください。



5.10 運転中の作動確認

このトラクタは、メータパネルにある計器やランプによって、運転中に必要な情報を伝えます。運転中、メータパネル類に異常はないか、モニタランプが点灯していないかを常に注意してください。

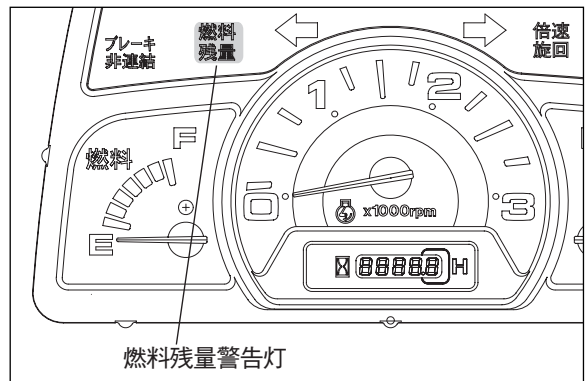
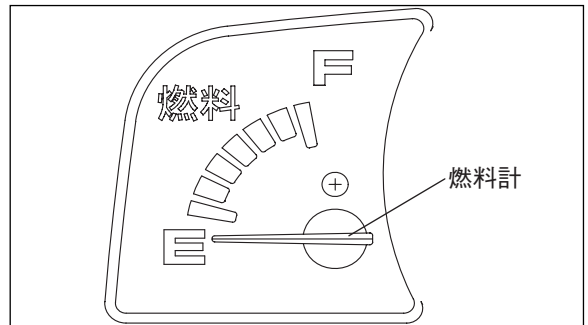
5.10.1 燃料計

メインスイッチを「入」の位置で燃料の量を表示します。

燃料の残量が約3 L以下になると間欠ブザー音が鳴り、燃料残量警告灯が点灯します。早めに燃料を補給してください。

補 足

- トラクタが傾斜している場合、正しい燃料の量を示さないことがあります。
- トラクタが傾斜した後、水平になっても、正しい燃料の量を示すまでに少し時間がかかります。
- トラクタが傾斜している状態では、燃料残量警告灯が作動した時の残り燃料残量に誤差が出やすくなります。目安とお考えください。



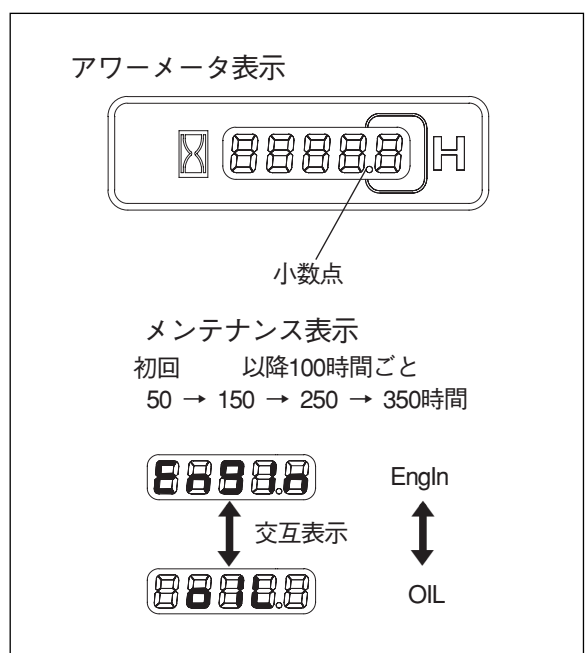
5.10.2 アワーメータ

積算時間は、5桁になっています。

最後の1桁は、1/10時間を示します。

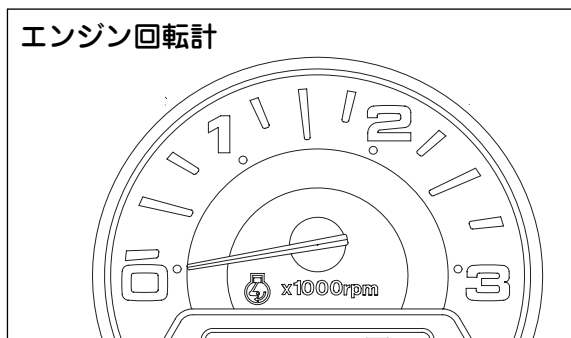
補 足

- アワーメータはエンジンが回転している間の稼働時間を積算します。
- エンジンオイルの交換時期になりますとメッセージを表示します。表示が出た時は、エンジンオイルを交換してください。
- メンテナンス表示は、1分間表示した後、アワーメータ表示に戻ります。エンジン始動操作3回まで表示し、その後解除されます。



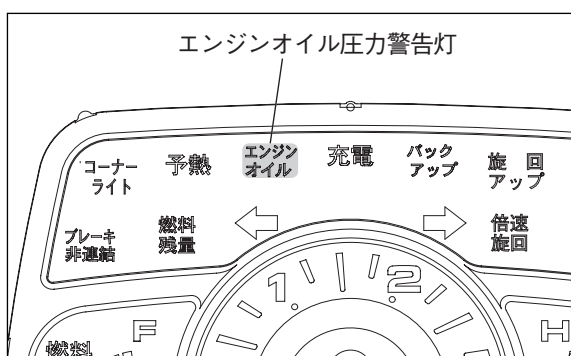
5.10.3 メータ

メータパネルの外周部がエンジン回転数を示します。



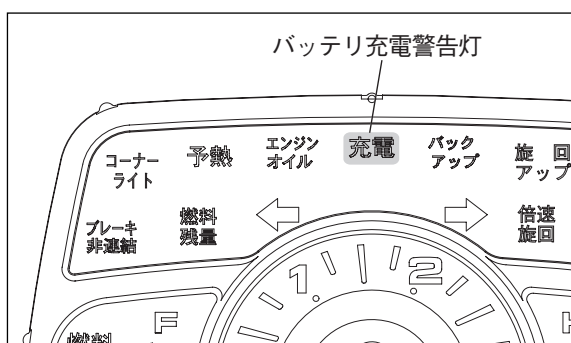
5.10.4 エンジンオイル圧力警告灯

エンジン回転中、潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。同時にブザーが30秒間鳴り続けます。点灯したままのときは、エンジンオイル量および潤滑油系統を点検してください。



5.10.5 バッテリ充電警告灯

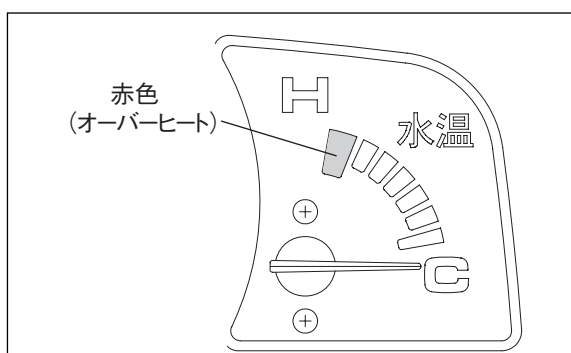
エンジン運転中充電されていないとき点灯して警告します。同時にブザーが30秒間鳴り続けます。点灯したままのときはファンベルトを点検してください。



5.10.6 水温計

メインスイッチが「入」のとき、冷却水の温度を示します。

指針が「赤の範囲」を示すときは、オーバーヒートの状態です。オーバーヒートと同時にブザーが30秒間鳴り続けます。「10. 不調時の処理」(112ページ)を参照してください。



5.11 トラックへの積み・降ろし

トラックへの積み・降ろしは平坦で広く硬い場所で行ってください。
また、アユミは基準以上のものを用意してください。

警告



積み込むトラックは、エンジンを止め、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行ってください。

※ 守らないと、積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。

- 積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、積むときは「後進」、降ろすときは「前進」でゆっくり行ってください。
 - アユミ板は、基準以上のものを使用し、トラクタの重量でアユミ板が傾かない場所を選んでください。
 - アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。
 - 万ーに備えて、トラクタの周りには人を近づけないでください。
- ※ 守らないと、転落事故の原因になります。

トラックへの積み・降ろし中は、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。また、クラッチペダルを踏み込んだり、ブレーキペダルを踏み込んだりしないでください。万ー、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行ってください。

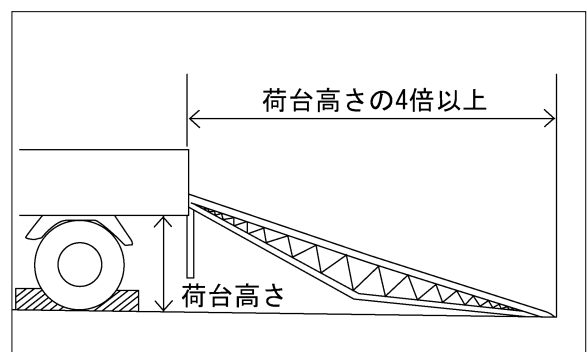
※ 守らないと、転落事故の原因になります。

トラック等で運搬するときは、トラクタに駐車ブレーキをかけた後、必ずロープ等で荷台に固定してください。また、運転中急発進・急旋回・急ハンドルはしないでください。

※ 守らないと、トラクタが移動して転落事故の原因になります。

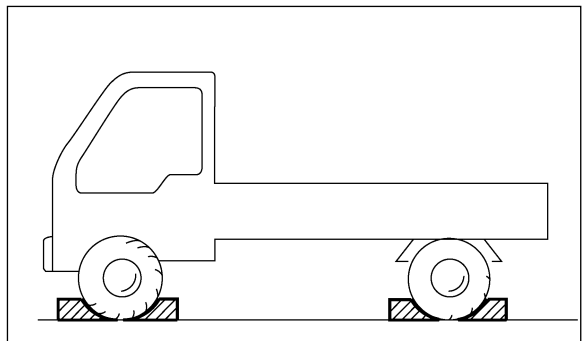
補 足

- アユミ板の基準
 - ・長さ：荷台高さの4倍以上
 - ・幅：35 cm以上
 - ・強度：1,000 kg以上（1本当り）
 - ・数量：2本使用
 - ・すべり止めの処理があること。

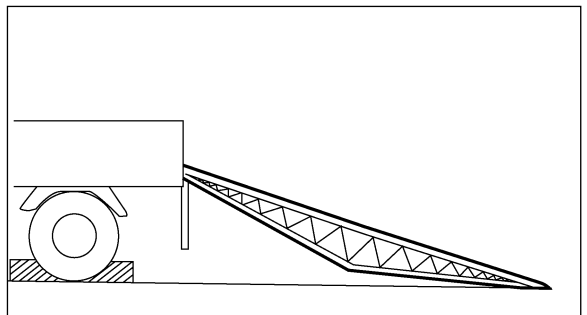


5. 運転のしかた

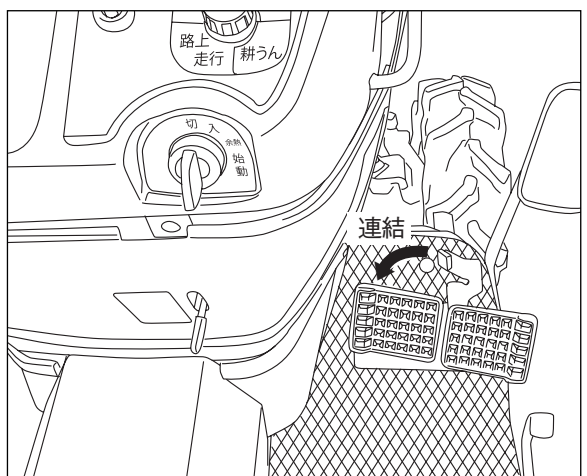
- 1** 積み込むトラックのエンジンを止め、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをします。



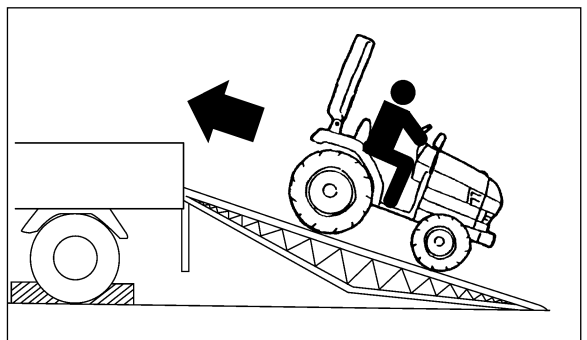
- 2** アユミ板のフックを荷台に段差のないように、また、ずれないように掛けてください。



- 3** トラクタの左右のブレーキペダルを「連結」してください。



- 4** トラックに積むときは「後進」、降ろすときは「前進」で、ゆっくり行ってください。



6. 作業前に必要な調整

6.1 輪距の調整

警告



けん引作業・傾斜地での作業等の場合は、後輪輪距を広くして使用してください。

※ 最小輪距では左右のバランスが不安定になり、転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ジャッキアップするときは、平たんで地面の硬い場所でエンジンを停止し、ジャッキとトラクタの安定を確認し、前輪に車止めをしてください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

6.1.1 前輪

前輪輪距は変更できません。

左右のタイヤを入れ替えることはしないでください。

6.1.2 後輪輪距調節

1 ボルトをゆるめた後、ジャッキで左右の後輪を浮かします。

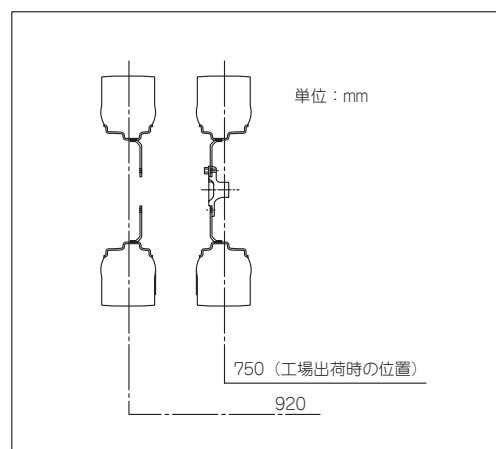
2 ボルトを取り外し、輪距の調節をします。

補足

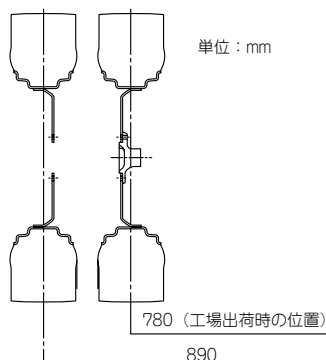
- タイヤは、側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取り付けてください。
- 各部のボルトは確実に締め付けてください。

後輪…79~93N・m (810~950kgf・cm)

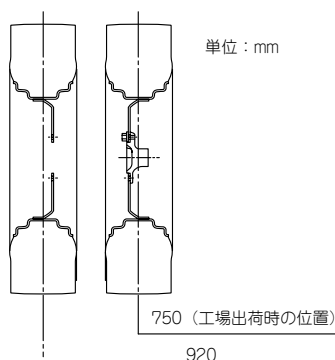
SB仕様



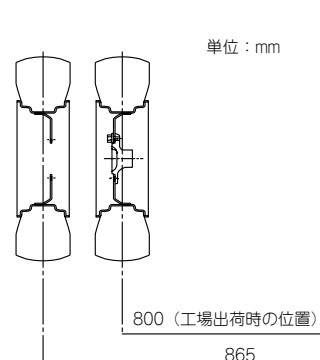
GE150/170



GE130



SSB仕様



6.2 安全フレームの扱い

警告



作業上、やむをえず安全フレームを倒さなければならないとき以外は、立てて使用してください。

安全フレームを倒したときは、シートベルトは装着しないでください。

※ 安全フレームを「倒した」状態では、安全フレームとしての機能はありません。転倒時には重大事故を起こすおそれがあります。

安全フレームを「倒す」または「起こす」ときは、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、必ずエンジンを停止して行ってください。

※ 守らないと、坂道等でトラクタが自然に動き出し、傷害事故の原因となります。

補足

- 安全フレームを倒すときは、安全フレームと作業機のスキマを確保してください。作業機をゆっくりと最大高さまで上げて確認してください。

注意

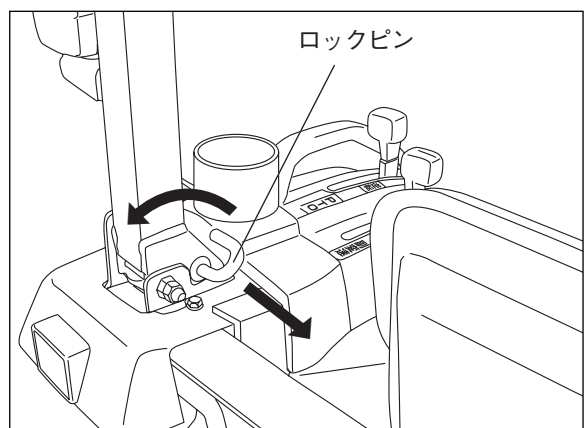


安全フレームを倒したまま作業機を上昇させる場合は干渉に注意してください。(特にロータリの尾輪を上向きに装着している場合)

※ 守らないと安全フレームとウインカと作業機が干渉・破損するおそれがあります。上げ位置調整を必ず行ってください。

6.2.1 倒しかた

- 1 安全フレームを片手で支え、ロックピンを引いてロックを解除し、後方に回転し引掛けて解除を保持します。(左右各一箇所)
- 2 安全フレームを後に倒し、ロックピンを元の位置まで回します。(左右各一箇所)
- 3 左右ロックピンが穴に入り安全フレームが固定されたのを確認します。

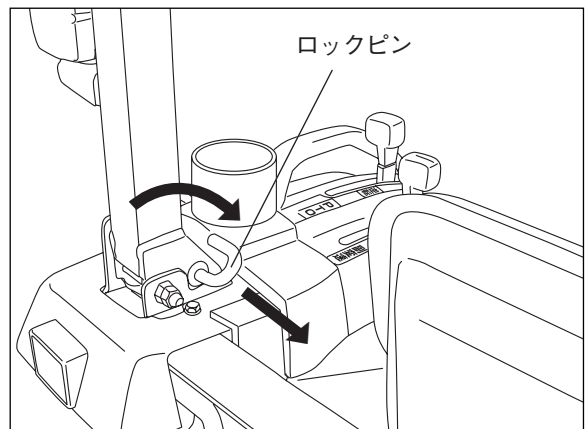


6.2.2 起こしかた

- 1** 安全フレームを片手で支え、ロックピンを引いてロックを解除し、後方に回転し引掛けて解除を保持します。(左右各一箇所)
- 2** 安全フレームを前方に起こし、ロックピンを元の位置まで回します。(左右各一箇所)
- 3** 左右ロックピンが穴に入り安全フレームが固定されたのを確認します。
- 4** ロックピンのかかり代が十分あることを確認してください。

補足

- 安全フレームを前後に動かし、確実に固定されているか確認してください。



7. 作業のしかた

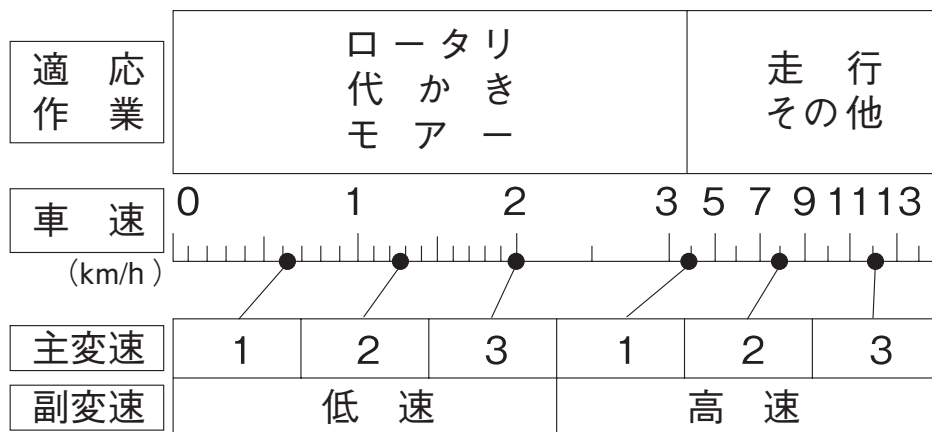
7.1 作業時の運転

7.1.1 走行速度

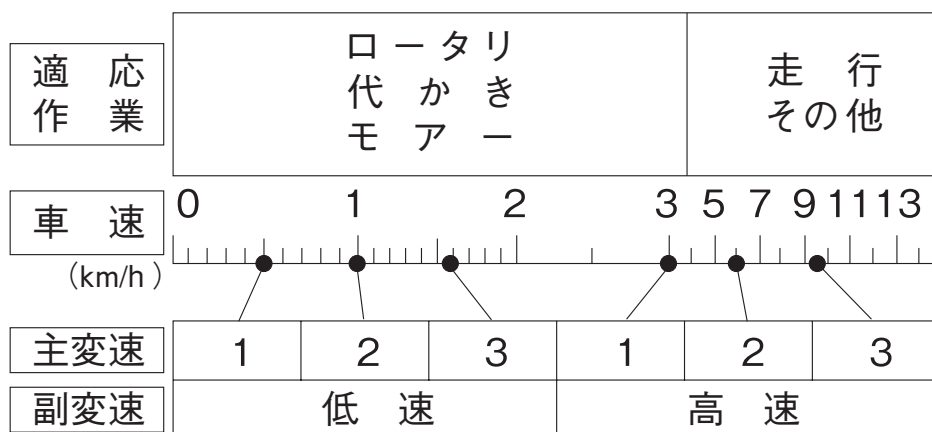
- (1) トラクタの走行速度は、作業内容・ほ場の条件により異なります。最適な速度で、作業をしてください。

車速表

(SS (S) 仕様以外)



(SS (S) 仕様)



7.1.2 ほ場の出入り

警告



必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。

※ 守らないと、ブレーキが片ぎきして、転倒事故を引き起こすことがあります。

道路とほ場の高低差が大きい場合や、^{あぜ}畦の高さが高い場合は、必ずアユミ板を使用してください。

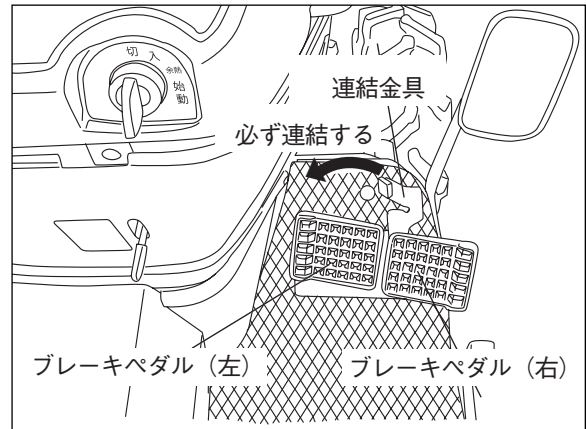
※ 使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、転倒するおそれがあります。

^{あぜ}畦等の段差を横断するときは、PTOの回転を停止し、作業機の地上高を低くし低速で、^{あぜ}畦と直角にゆっくりと走行してください。

※ 斜めに走行すると、スリップや転倒の原因となります。

常に前・後輪のバランスを考えながら操作をしてください。

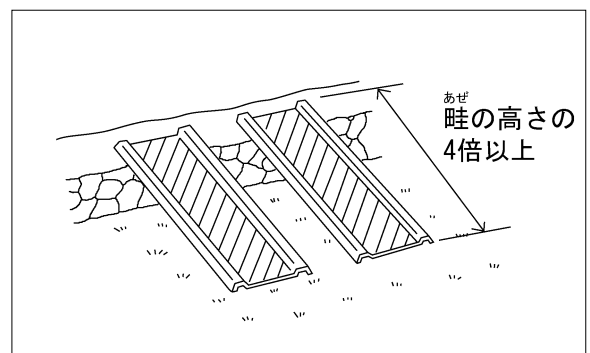
※ バンパウエイト代わりに人が乗ったりすると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



(1) 左右のブレーキペダルを「連結」してください。

(2) 道路とほ場の高低差が大きい場合や、^{あぜ}畦の高さが高い場合は、必ずアユミ板を使用してください。

(3) ゆっくりとした速度で、^{あぜ}畦に直角に前進でのり越えてください。



7.1.3 ほ場での旋回

警告



ブレーキペダルの連結金具は、ほ場内のみ解除してください。ほ場の出入りや道路走行時は、必ず左右のブレーキは連結してください。（トラクタメータ内のモニタランプ消灯を確認してください。）

※ 守らないと、転倒事故の原因となります。

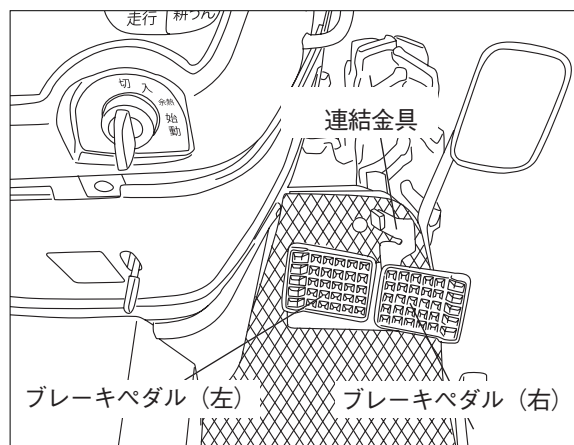
注意



作業機を装着すると、かなりの長さになり旋回半径が大きくなりますので、周囲の人や構築物に注意してください。

※ 守らないと、傷害事故や機械の破損を引き起こすおそれがあります。

- (1) ほ場での旋回は、左右のブレーキペダルを連結している金具を解除して、左右独立して使用すれば、小さく旋回できます。
この場合は、ステアリングホイール（ハンドル）を切ると同時に旋回しようとする方のブレーキペダルを踏み込んでください。
- (2) 作業速度やほ場の傾斜の程度に配慮し、適切な作業をしてください。



7.1.4 デフロックペダルと使いかた（E仕様を除く）

警告



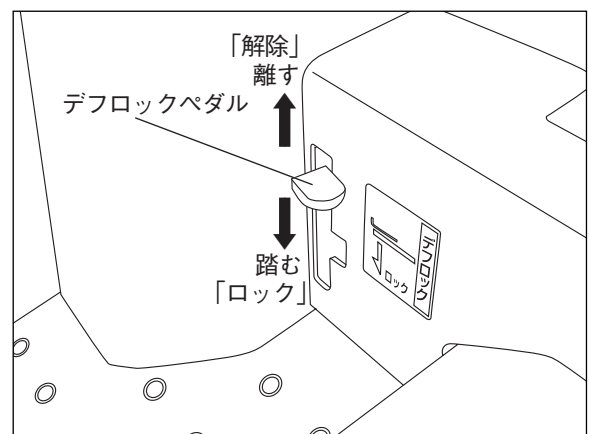
デフロックを入れたままで旋回しないでください。
※ 守らないと、衝突・転倒事故を引き起こします。



路上走行するときは、デフロックペダルを解除してあるか確認してください。
※ 守らないと、衝突・転倒事故を引き起こします。

左右の後輪が同じ回転速度で駆動する装置です。片側の後輪がスリップしたとき、ペダルを踏み込むとスリップが防止できます。

- (1) ペダルを踏み込む…… ロックされます。
- (2) ペダルから足を離す……自動的にロックが外れます。外れない場合は、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。



■デフロックの使い方

デフロック装置は、非常に便利で役に立ちますが取り扱いを誤ると転倒等の危険や故障の原因にもなります。注意して使用してください。

＜デフロックの使用例＞

- (1) ほ場への出入りに片輪がスリップし、トラクタが進まないとき。
- (2) 凹凸ほ場で片側がスリップするとき。
- (3) 軟弱ほ場で片側がスリップし、走行不能になったとき。

補足

- デフロックを使用するときは、エンジン回転を低速にしてください。
- デフロックペダルから足を離してもデフロックが外れない場合は、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。

7.2 倍速旋回（B仕様）

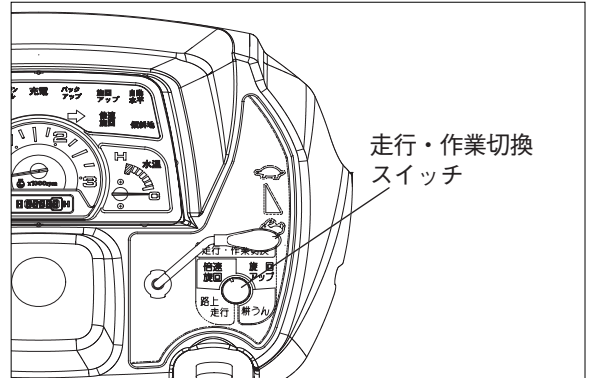
7.2.1 走行・作業切換スイッチ

■B/SS（S）B仕様

倍速旋回

「切」……倍速旋回は作動しません。

「入」……倍速旋回が作動状態になります。ただし副変速レバーが「低速」のときのみ作動します。



■JB仕様

「路上走行」……倍速旋回は作動しません。

「倍速旋回」……倍速旋回が作動状態になります。ただし副変速レバーが「低速」のときのみ作動します。

「耕うん」……倍速旋回に加え、自動水平制御が作動します。

■DB/DJB仕様

「路上走行」……倍速旋回は作動しません。

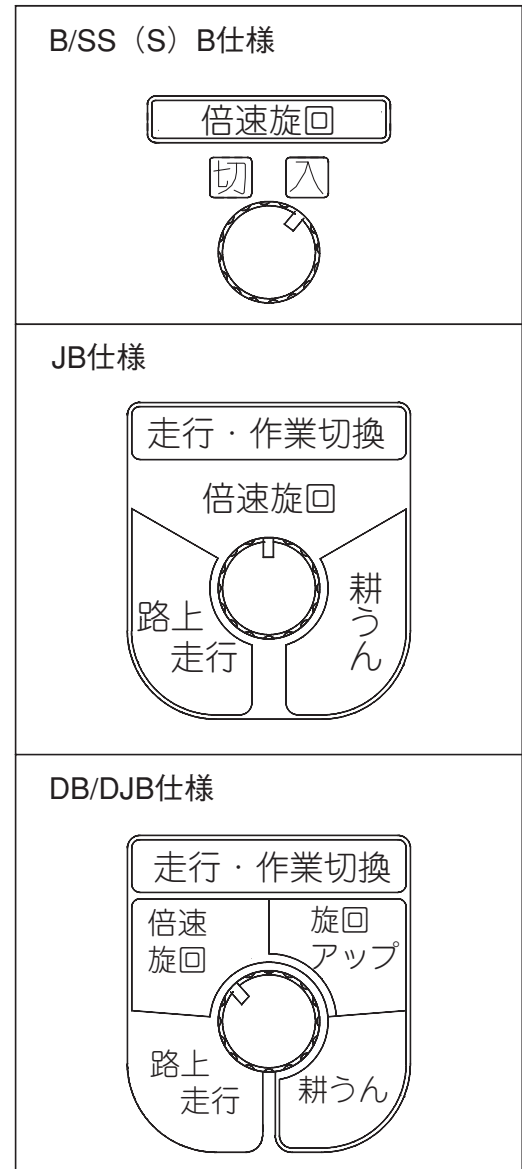
「倍速旋回」……倍速旋回が作動状態になります。ただし副変速レバーが「低速」のときのみ作動します。

「旋回アップ」……旋回時に倍速旋回が作動し、同時に作業機が自動的に上昇します。

「耕うん」……旋回アップに加え、後進時に作業機が上昇するバックアップが作動します。さらに、J仕様は、自動水平制御が作動します。

補 足

- バックアップと水平制御は各々の機能をスイッチ操作で、「入」「切」することもできます。



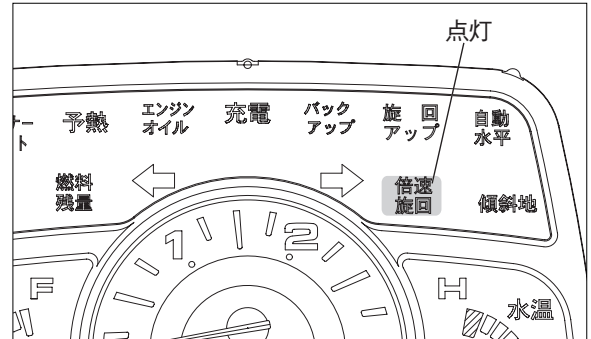
7.2.2 倍速旋回表示灯

■B/SS (S) B仕様

倍速旋回

「切」……………表示灯は点灯しません。

「入」……………「倍速旋回」が点灯します。

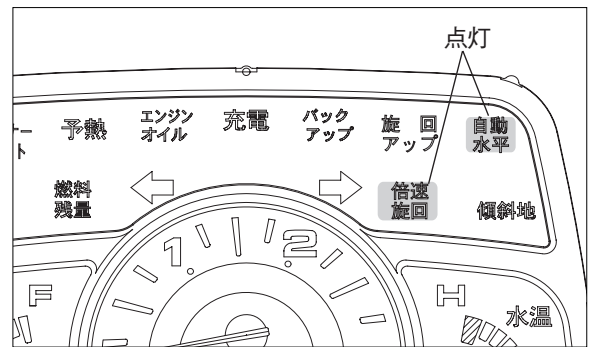


■JB仕様

「路上走行」……………表示灯は点灯しません。

「倍速旋回」……………倍速旋回が点灯します。

「耕うん」……………「倍速旋回」「自動水平」が点灯します。



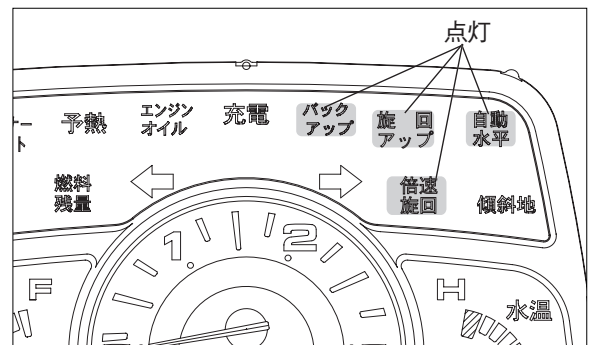
■DB/DJB仕様

「路上走行」……………倍速旋回は点灯しません。

「倍速旋回」……………倍速旋回が点灯します。

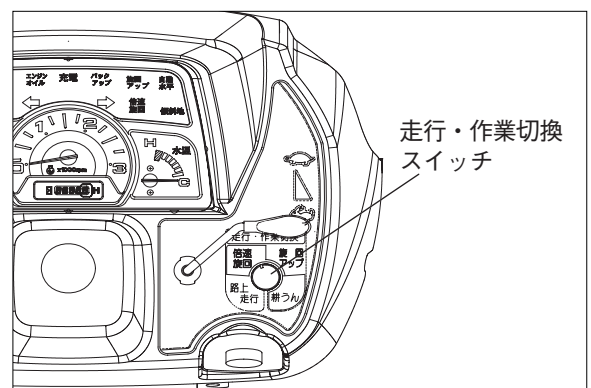
「旋回アップ」……………「旋回アップ」が点灯します。

「耕うん」……………バックアップが点灯します。J仕様は、「自動水平」が点灯します。



7.2.3 倍速旋回の作動

- (1) 旋回時ステアリングホイール（ハンドル）を切っけていき、前輪の切れ角が設定角以下では通常の4WDの回転数で前輪が駆動されます。
- (2) それ以上の切れ角になると、倍速旋回機能が働き、前輪が通常の約2倍の回転数で駆動され、旋回径が小さくなり、素早く旋回できます。



7.2.4 倍速旋回の使いかた

警告



路上走行時は、走行・作業切換スイッチを「路上走行」または倍速旋回「切」位置にしてください。

※ 守らないと、転倒事故の原因になります。

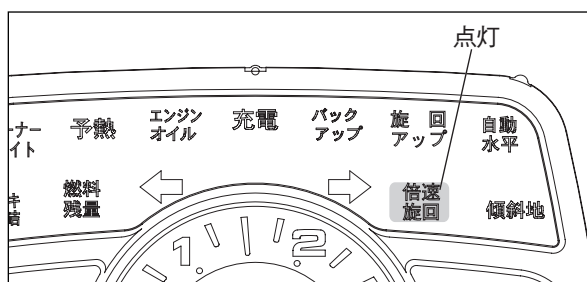
ほ場の出入り、トラックへの積み・降ろしは、走行・作業切換スイッチを「路上走行」位置にしてください。

※ 守らないと、転倒事故の原因になります。

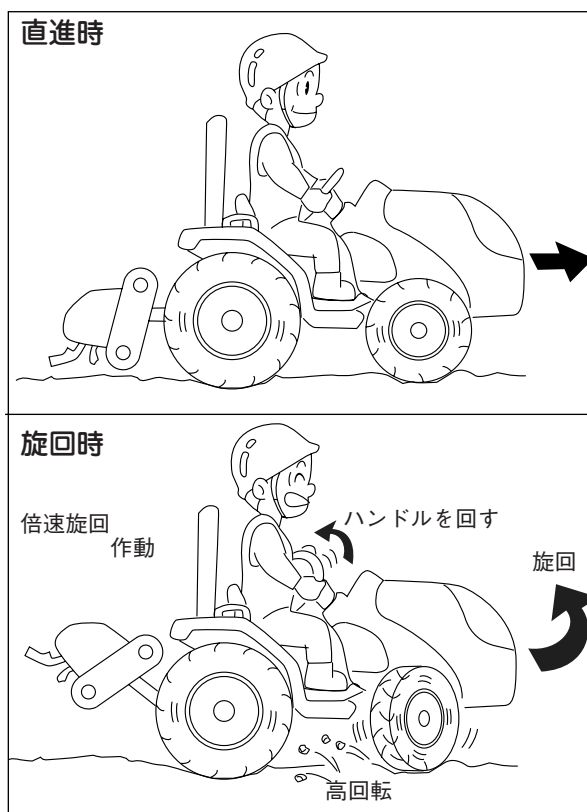
フロントローダ作業等、前輪に重荷重がかかる作業は、走行・作業切換スイッチを「路上走行」位置にしてください。

※ 守らないと、トラクタの故障や傷害事故の原因となるおそれがあります。

- 副変速レバーを「低速」にし、走行・作業切換スイッチを「倍速旋回」位置にします。B仕様は倍速旋回「入」にしてください。準備状態となり、倍速旋回表示灯が点灯します。



- この状態でステアリングホイール（ハンドル）を切って、前輪の切れ角が設定角以上になると、倍速旋回が作動します。



7.3 旋回アップ (D仕様)

警告



路上走行時や、走行・作業切換スイッチを「路上走行」位置にしてください。

※ 守らないと、衝突・転倒の原因になります。

ほ場の出入り、トラックへの積み・降ろしは、走行・作業切換スイッチを「路上走行」位置にしてください。

※ 守らないと、衝突・転倒の原因になります。

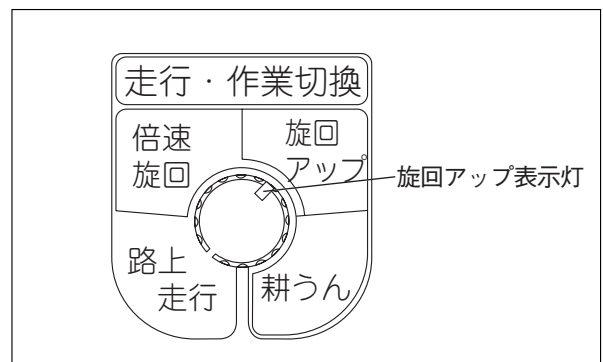
フロントローダ作業等、前輪に重荷重がかかる作業は、走行・作業切換スイッチを「路上走行」位置にしてください。

※ 守らないと、トラクタの故障や傷害事故の原因になります。

7.3.1 旋回アップの作動

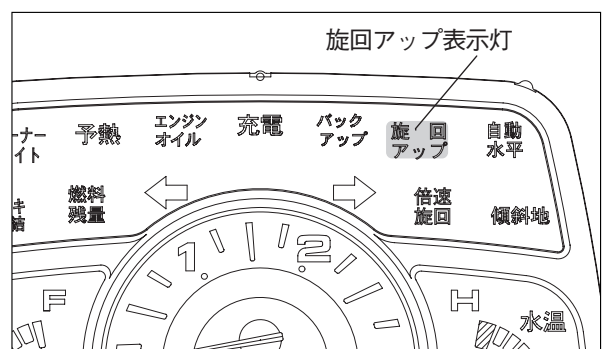
作業機が「下げ」の状態、ステアリングホイール（ハンドル）を切ると、作業機が自動的に上昇し、旋回作業を楽にする装置です。

倍速旋回と同じタイミングで作動します。



7.3.2 旋回アップの使いかた

- 1 走行・作業切換スイッチを「旋回アップ」または「耕うん」に切り換えます。モニタランプの旋回アップ表示灯が点灯します。
- 2 作業中、旋回時にステアリングホイール（ハンドル）を切ると、作業機が上昇します。
- 3 旋回終了後、作業機を降下させるときは、クイックアップレバーを「下げ」方向へ操作するか、コントロールレバーを一度最上げ位置にした後、「下げ」方向に操作してください。












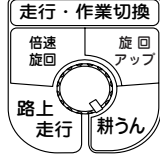


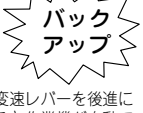
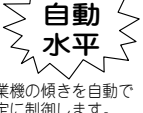


補 足

- 走行・作業切換スイッチが「旋回アップ」または「耕うん」位置で下記のような場合、旋回アップモニタランプが点滅し、旋回アップが作動しないようになっています。
 - (1) 副変速レバーが「高速」位置のとき
 - (2) 作業機「下げ」後5秒間
 - (3) 主変速レバーが「後進」のとき
- 旋回アップは、ステアリングホイール（ハンドル）の回転角度に連動しています。曲がったほ場では旋回操作をしなくても、旋回アップが作動する場合があります。この場合は、作業切換スイッチを「旋回アップ」「耕うん」以外の位置にしてください。

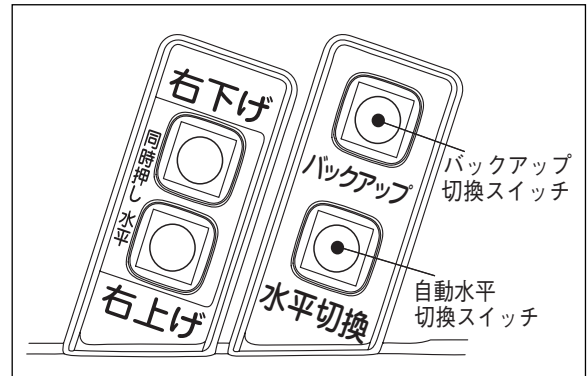
7.3.3 ワンタッチ耕うんモードの使いかた

走行・作業切換スイッチを「耕うん」位置まで回すと、必ず「バックアップ」と「自動水平制御」の機能が作動状態になります。水田作業に必要な機能がワンタッチで全て作動状態になるので非常に便利です。走行・作業切換スイッチを回すと下ののように切り換わります。

スイッチ位置	モニタ表示と作動状態	スイッチ位置	モニタ表示と作動状態
B/SS (S) B  JB  DB/DJB 	点灯なし 装備している機能は いずれも作動しません。	DB/DJB  JB 	 ハンドルを一定以上回すと 倍速旋回が作動します。  ハンドルを一定以上 回すと作業機が自動で 上昇します。
B/SS (S) B  JB  DB/DJB 	 ハンドルを一定以上回すと 倍速旋回が作動します。	DB/DJB  JB 	 ハンドルを一定以上 回すと作業機が自動で 上昇します。  主変速レバーを後進に すると作業機が自動で 上昇します。  作業機の傾きを自動で 一定に制御します。 傾斜地 水平のモードが傾斜地制御に なっているときは傾斜地の 表示灯が点灯します。

補 足

- 耕うん位置から他の位置に回しても「バックアップ」、「自動水平制御」は解除されません。解除する場合はそれぞれの専用スイッチを押してください。
- このトラクタは常時4WD駆動となっています。走行・作業切換スイッチを操作しても2WDにはできません。



7.4 PTOの使いかた

■PTO軸回転速度

トラクタのPTO軸回転速度は、作業内容・ほ場の条件により異なります。最適な速度で作業をしてください。

PTO変速レバー		作業内容	回転数 (rpm)	
			GE 130/150	GE 170
正 転	1 速	ロータリ耕うん・うね立て・代かき	474	576
	2 速		677	826
	3 速	代かき・砕土	—	1276
逆 転		土寄せ（未耕地耕うん作業はしないでください）	572	754

■PTO変速レバー

⚠ 注意



低速回転で使用するべき作業機を、高速回転で使用しないでください。

※ 守らないと、作業機を破損したり、傷害事故の原因になります。



作業機に指定されたPTO軸回転速度を遵守してください。

※ 守らないと、作業機を破損したり、傷害事故の原因になります。

PTO軸(動力取出軸)の回転速度は、レバー操作により、変速できます。

「1」位置……………荒起こし作業をします。

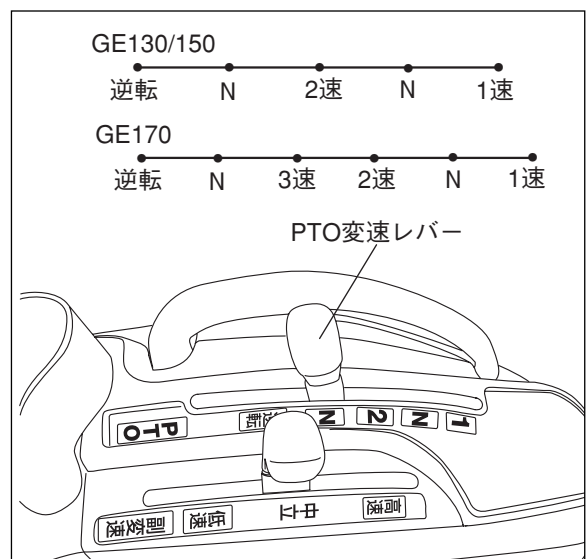
「2」位置……………通常耕起をします。

「3」位置……………砕土作業をします。(GE 170)

それに加え、逆転が1段変速できます。

補足

- PTO変速レバーを操作するときは、必ずクラッチペダルを踏み込んで、PTO軸の回転が完全に停止してから行ってください。入りにくい場合は、もう一度クラッチペダルを踏み直してから操作してください。



■逆転PTO変速

⚠ 注意



逆転でロータリ作業機を使用するときは、車速はできるだけゆっくりとし、エンジン回転を低くしてお使いください。

※ 守らないと、土や小石等が飛散して、周囲の人や作業者に危害を及ぼすおそれがあります。

注意



逆転での未耕地耕うん作業は絶対に行わないでください。

※ 作業機の破損の原因となります。

使用方法を誤らないでください。

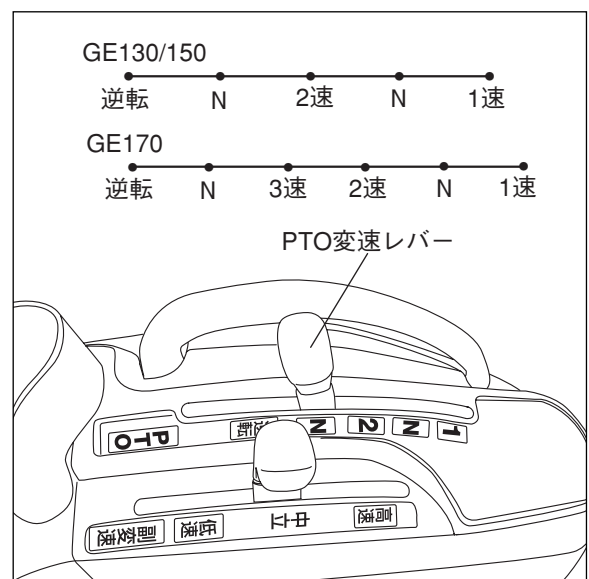
※ トラクタ・作業機の故障の原因となります。

PTO軸の回転方向は逆転させることができます。

- (1) PTO変速レバーを「逆転」の位置にすると、PTO軸の回転方向が逆転します。
- (2) ほ場の四隅に土がたまった場合の土寄せ作業に威力を発揮します。

補 足

- 逆転での作業を終えた後、ロータリの爪の増し締めを行ってください。



7.5 作業機

7.5.1 作業機の取り付け・取り外し

作業機の取り付け・取り外しは、作業機の取扱説明書に従って行ってください。

警告

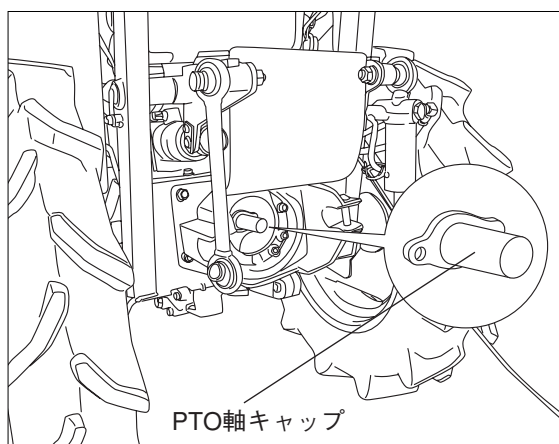


作業機の取り付け・取り外しは、トラクタと作業機の間立たないでください。

※ トラクタと作業機にはさまれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

作業機を外した状態で、PTO軸を回転させないでください。また、PTO軸を使わない場合は、PTO軸キャップを取り付けてください。

※ 守らないと、手や衣服が軸に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



作業機に寄りかかったり、乗ったりしないでください。


※ 守らないと、転倒したり、転落するおそれがあります。



作業機の取り付け・取り外しは、平たんで地面の硬い場所で行ってください。

※ 守らないと、機械が急に動いたり、傾いたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

7.6 バンパウエイトの取り付け（注文部品）

（注文部品（ 127ページを参照してください））

警告



バンパウエイトを4枚装着しても前輪分担荷重20%以下になる作業機は装着しないでください。

※ 守らないと、トラクタの前輪が浮き上がったり、傾いたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。



ロワーリンクに作業機を取り付けたとき、前輪分担荷重がトラクタ総重量20%以下になる場合は必ずバンパウエイトを装着し、安定した姿勢で作業できるようにしてください。

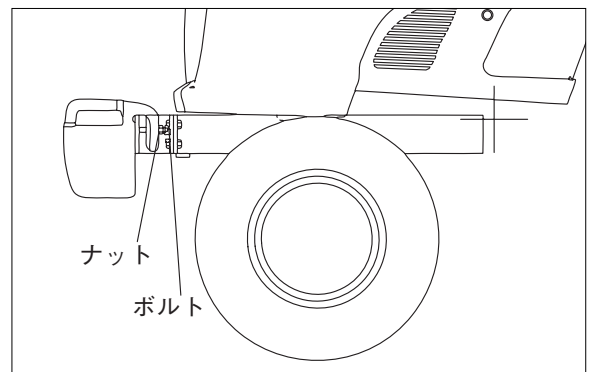
バンパウエイトは最大4枚装着可能です。

※ 守らないと、トラクタの前輪が浮き上がったり、傾いたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。


前輪荷重がトラクタの総重量の20%以下になる目安は、後輪中心から作業機重心位置の距離が、700mmのとき、以下重量の作業機を取り付けた場合です。

バンパウエイト4枚装着時：300kg

バンパウエイト未装着時：200kg



7.7 けん引作業（注文部品）

（注文部品（ 127ページを参照してください））

警告



けん引する車両の総重量が1050kgを超える場合のけん引は禁止です。

※ このトラクタにはトレーラーブレーキが装着されていません。



けん引作業を行う場合は、必ず純正品のトレーラヒッチを使用してください。

※ 守らないと、トラクタの前輪が浮き上がったり、傾いたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

7.8 油圧装置の使いかた

7.8.1 コントロールレバー

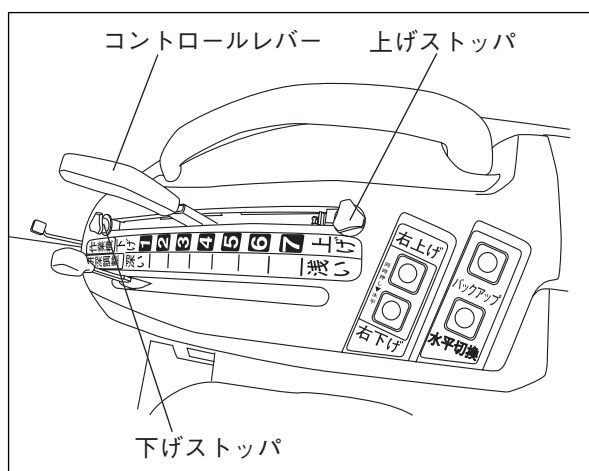
警告



作業中、トラクタから離れるときは必ず作業機を下げて、エンジンを停止してください。

※ 守らないと、トラクタが自然に動き出すおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因となります。

- (1) コントロールレバーで、作業機を自由に「上げ」「下げ」でき、途中でレバーを止めると作業機もその位置を保ちます。(ポジションコントロール付)
- (2) 下げストップのノブをゆるめ、任意の位置に固定することによって、同じ作業位置（深さ）が得られます。
- (3) 上げストップのノブをゆるめ、任意の位置に固定することによって、同じ作業位置（高さ）が得られます。



■操作方法

- (1) レバーを後方いっぱいまで引く
作業機……上げ位置設定高さまで上がる。
- (2) レバーを前方いっぱいまで倒す
作業機……下がる。(フリーフローティングの状態になります。)
- (3) レバーを途中で止める
作業機……ポジションコントロールの位置で、停止する。

7.8.2 クイックアップレバー（D仕様）

警告



クイックアップレバーは、ほ場内での作業時のみ使用してください。ほ場以外では、コントロールレバーで作業機を上昇・下降させてください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注意



あぜ際に作業機を降下させる場合は、コントロールレバーでゆっくり下げてください。

※ クイックアップレバーで下げると、作業機が速く下がり、あぜと作業機が当たってあぜや作業機を破損するおそれがあります。

レバーをワンタッチで操作するだけで、作業機の上昇・下降ができます。

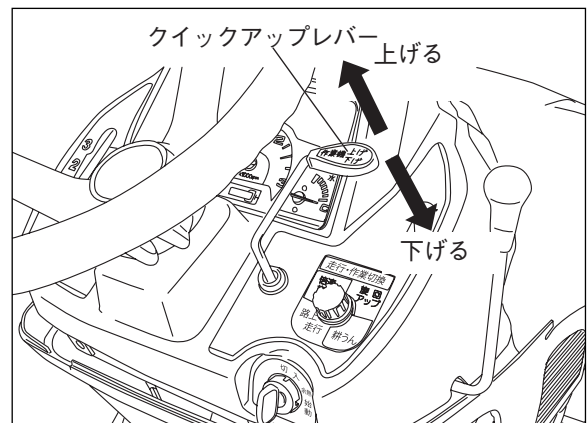
■操作方法

レバーを上げる……………上げ位置設定高さまで上がる。

レバーを下げる……………作業機がコントロールレバー位置まで下がる。

補足

- クイックアップレバーを上げ方向に操作すると、作業機は上がります。最上昇位置まで上げると、作業機の種類によってはトラクタと干渉する場合があります。
作業機を付け換えたときは、コントロールレバーで作業機をゆっくり上げ、トラクタと干渉しないことを確認してください。



7.8.3 油圧降下速度調節つまみ

警告



次のような場合は、必ず油圧降下速度調節つまみを「ロック」にしてください。

- (1) 路上走行するとき。
- (2) ロータリの爪交換、草、ワラ等の除去。(必ず、エンジンも停止してください)
- (3) 作業機の点検・調整。(必ず、エンジンも停止してください)

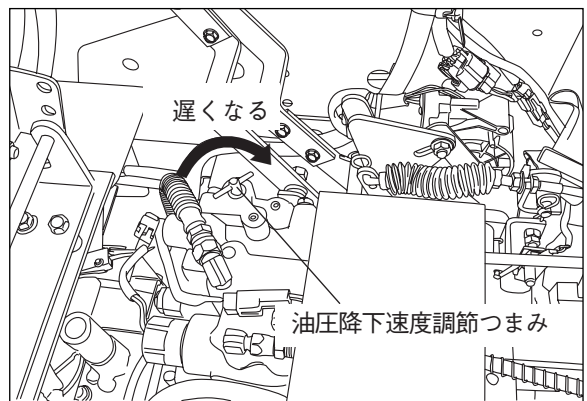
その後、コントロールレバーを下げ方向に動かして、作業機が落下しないことを確認してください。確認後、コントロールレバーは再度後方にいっぱいに引いてください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になるおそれがあります。

作業機の降下速度を調節できます。

作業機の種類、作業状況によって降下速度を調節してください。

- (1) 反時計回りに操作すると
作業機は、はやく降ります。
重量が軽い作業機に適用します。
- (2) 時計回りに操作すると
作業機は、ゆっくり降ります。
重量が重い作業機に適用します。
- (3) 時計回りにいっぱいまで操作すると、作業機は降下しません。(ロックします)



補足

- ロータリ作業をするときは、降下速度を遅くしてください。
降下速度が速いとリヤカバーが大きく動き、ロータリがくり返し上下することがあります。
- プラウ作業をするときは、降下速度を速くしてください。
- ロックするとき、必要以上にノブを回さないでください。ノブが固着してゆるまなくなることがあります。

7.8.4 バックアップ切換スイッチ（D仕様）

⚠ 注意



ほ場以外では、必ずバックアップスイッチを「切」にしてください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注意



この機能は、主変速レバーを「中立」から「後進」に操作したとき、作業機が自動的に上がりますが、後方を確認し、作業機が上がった状態で後進してください。

※ 作業機が下がったまま後進すると作業機を破損させます。

主変速レバーを「後進」側に操作すると、作業機が自動的に上がります。

■操作方法

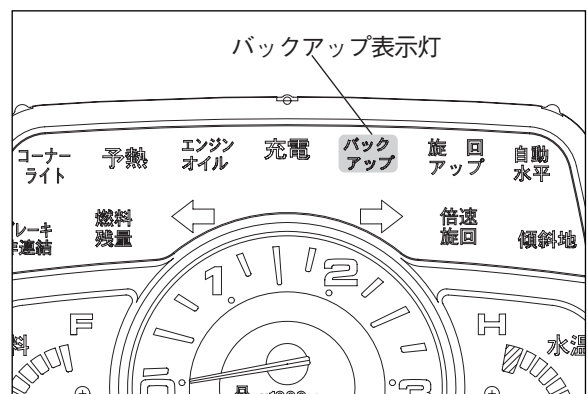
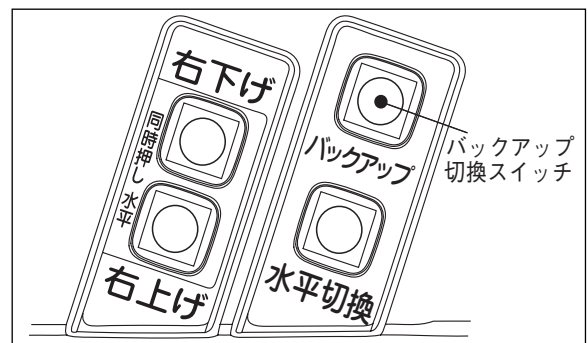
- 1 バックアップ切換スイッチを「入」にしてください。バックアップ表示灯が点灯します。

補 足

- 走行・作業切換スイッチが「耕うん」位置でもバックアップが作動します。

- 2 主変速レバーを「後進」側に操作すると、作業機が自動的に上がります。

- 3 作業機を下げる場合は、クイックアップレバーを下げるか、コントロールレバーを一度最上げ位置まで操作し、さらにレバーを下げると作業機が降下します。



7.9 耕深自動の取り扱い

■PACレバー（耕深自動）

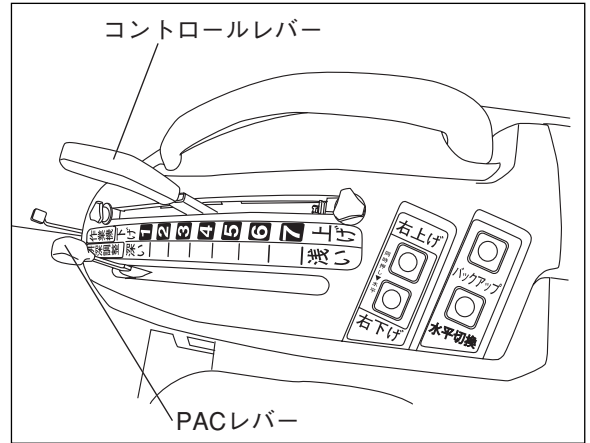
ロータリの耕うん深さを調整します。

「耕深を深く」 ……………レバーを前方に

「耕深を浅く」 ……………レバーを後方に

希望の耕深でレバーを止めてください。

- (1) 耕うん作業中は外側のコントロールレバーを前側へいっぱい倒してください。（最下げ位置）
- (2) 回行時等のロータリ上げ・下げは、外側のコントロールレバーで行ってください。
- (3) ロータリ洗浄等、リヤカバーを持ち上げるときは、PACレバーを「深」方向に倒してから行ってください。



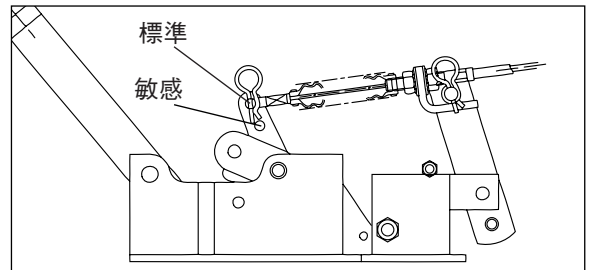
補 足

- ロータリの降り速度は、あらかじめ油圧降下速度調節つまみで1.5～2.0秒に調節してください。降下速度が速いとリヤカバーが大きく動き、ロータリがくり返し上下することがあります。
- 耕深自動作業以外のときは、PACレバーを最深位置で使用してください。

■感度の調節（本機側）

- (1) 感度の調節はケーブルの取付位置を変更することにより、「標準」「敏感」の2段階に切り換えることができます。

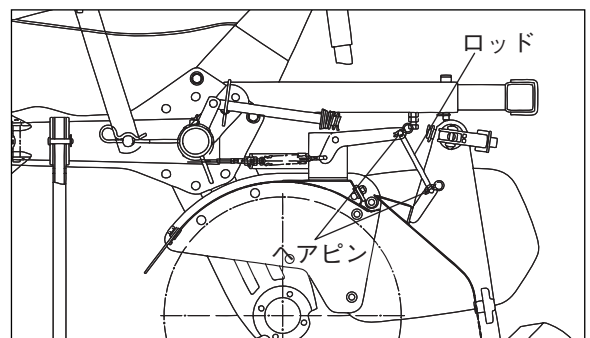
- (2) 通常は「標準」位置で作業してください。



■リヤカバーロックのとき

ロータリ洗車時等、リヤカバーをロックするときは、次のようにしてください。

- (1) PACレバーを「最深」位置にしてください。
- (2) リヤカバーをロック位置よりさらに上げるときは、ロッドを外してください。



注 意

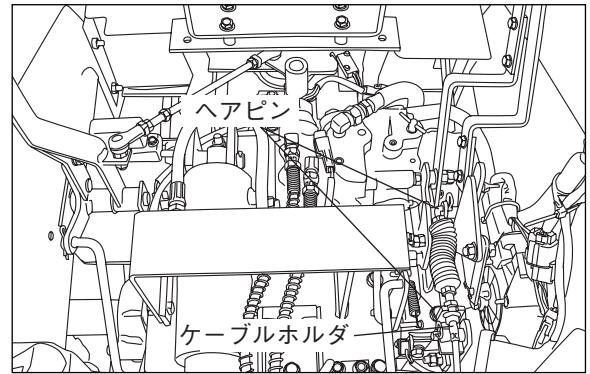


上記のことを守ってください。

※ 守らないと、リヤカバーをはね上げた場合、ロッド等の破損の原因となります。

■耕深ワイヤの取り付け

- (1) コントロールレバーを前側に倒して、ロータリを接地させてください。
- (2) ケーブルホルダを取り付け、ヘアピンを挿入してください。
- (3) エンジンを始動し、リヤカバーの上げ・下げに応じて、ロータリが上がり・下がりすることを確認してください。



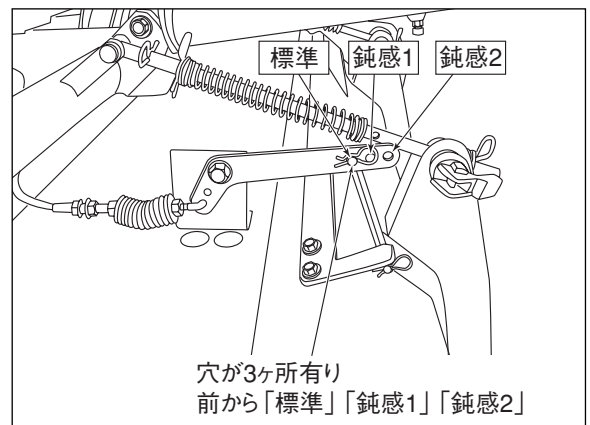
- 耕深自動作業以外のときは、PACレバーを最深位置で使用してください。

■耕深ワイヤの取り外し

ロータリを外す場合は、ヘアピンを抜いて耕深ワイヤを取り外すと同時に、ケーブルホルダを取り外してください。

■感度の調節（ロータリ側）

- (1) ロータリ側の感度の調節はロッドの取付位置を変更することにより、「標準」「鈍感1」「鈍感2」の3段階に切り換えることができます。
- (2) 通常は「標準」位置で作業してください。

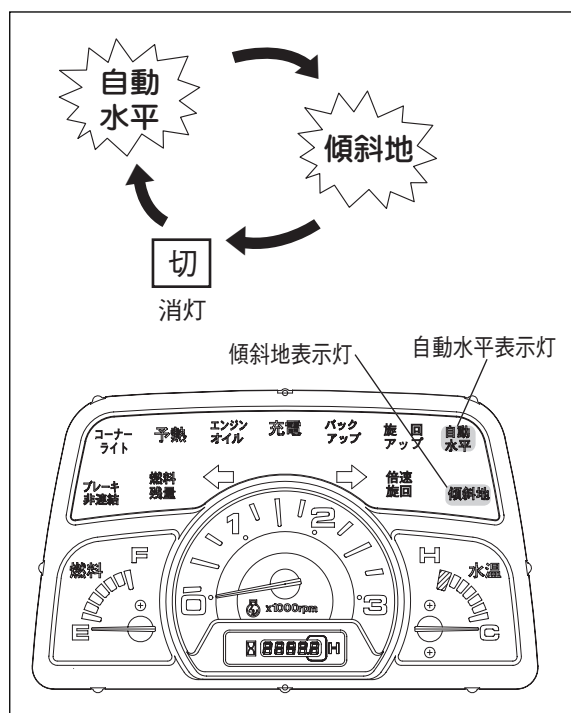
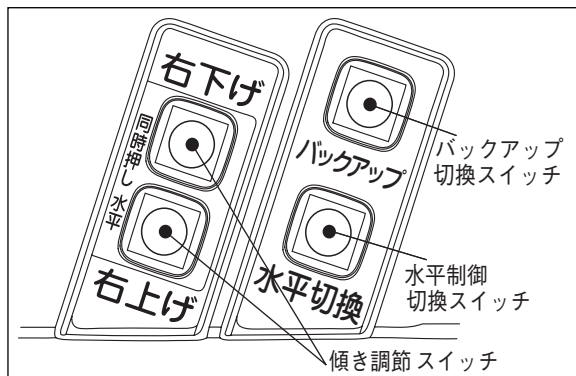


7.10 水平装置の使いかた（J仕様）

■水平制御切換スイッチ

スイッチを1回押すごとに下記の順に切り換わります。

- 「自動水平」点灯
トラクタ本体の傾きに関係なく、「右上げ」「右下げ」のスイッチ操作で設定した地面に対する傾きを維持します。
- 「傾斜地」点灯
傾斜地面に対して平行になるように作業機の傾きを維持します。
- 「切」（自動水平、傾斜地とも消灯した状態）
作業機をトラクタ本体に対して希望の傾きにすることができます。
傾きは「右上げ」「右下げ」スイッチで操作します。
「傾斜地」から「切」になった時
作業機はトラクタ本体と平行になります。



補足

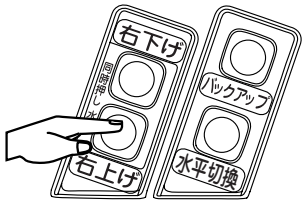
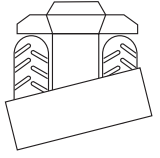
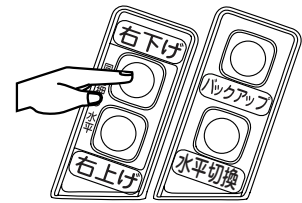
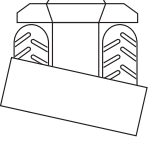

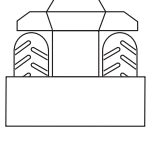
- 作業機を最上げ位置まで上げた場合
トラクタ本体と作業機は平行になります。
- 「耕うん」位置にすると「自動水平」が点灯しますが「耕うん」位置以外にしても「切」にはなりません。

■傾き調節スイッチ

作業機の傾きを調節する操作スイッチです。
 「右上げ」……………作業機の右側が上がります。
 「右下げ」……………作業機の右側が下がります。
 水平制御を「切」にしておくと、手動スイッチの操作を止めた位置で傾きが止まります。
 作業機取り付け時等に使用すると便利です。

補足

- 作業機が最上げ位置では、傾き調節スイッチを押しても作業機は動きません。
- 「右上げ」「右下げ」のスイッチを同時に押し、作業機の傾きを工場出荷に戻します。作業機が対地平行かどうか、目視では判らなくなった場合に使用すると便利です。

傾き調節スイッチ	傾き調節スイッチ
	右が上がる 
	右が下がる 
同時押し 	工場出荷の状態 

■チェックヒューズ

このヒューズを外すと、水平油圧装置のスイッチやセンサ類の故障や、配線の外れをチェックすることができます。

詳細は「お買い上げ先」にご相談ください。

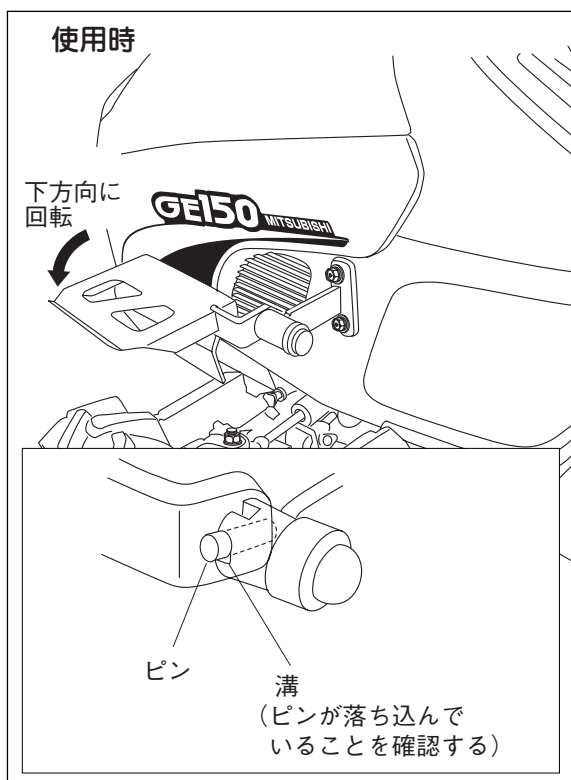
補足

- チェックヒューズが外れていると、水平油圧装置が作動しません。必ずチェックヒューズをつないで操作してください。

キーストップSOL	
F4	10A
グローモータ	
F5	5A
バックアップモータ	
F7 (D仕様)	20A
水平感度1	
J1	5A
水平感度2	
J2	あき
チェックヒューズ	
J3	5A

7.11 燃料載せ台（給油スタンド）の使いかた

- (1) 燃料載せ台（給油スタンド）を下方向に回転させます。
- (2) ピンが溝に確実に入り込んだことを確認してください。
- (3) 燃料容器（ポリタンク容器）を静かに置いて給油をしてください。
- (4) 収納するときは、先端をつかんで上方向に回転させ、カチッとロックする位置で止めてください。



警告



燃料置き台（給油スタンド）の上に乗らないでください。

※ 守らないと、傷害事故やトラクタの破損を引き起こすおそれがあります。

注意



走行時は折りたたんで固定してください。

※ 守らないと、トラクタの破損を引き起こすおそれがあります。

8. 点検整備

次ページの一覧表に従い、定期的に点検整備を行ってください。

警告



給油および点検整備をするときは、(1) トラクタを平たんで広い地面の硬い場所に置き、(2) エンジンを停止し、(3) 駐車ブレーキをかけ、(4) 油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックし、(5) キーを抜き、(6) さらにロータリの爪軸の下に木の台を置き、(7) エンジン各部が十分冷えてから、状態を確認して行ってください。

※ 状態を確認せずに点検整備すると、傷害事故を引き起こすことがあります。

■新車初期点検

アワーメータが50時間になるか、最初のシーズンを終了したときは、必ず新車時の初期点検整備を実施してください。

新車時の初期点検整備はトラクタの耐久性にとって大事な項目ですのでお買い上げ先での点検、整備をおすすめします。

補足

- 点検整備項目の中には、消耗品の扱いとなっている部品も含まれています。交換が必要な部品は「三菱純正部品」を注文してください。
- 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、「お買いあげ先」へ問い合せください。

注意



- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

8.1 定期点検・整備箇所一覧表

○：点検、補充、調整 ●：交換 △：清掃、洗浄 ★：お買い上げ先での交換・点検をおすすめします

点検項目		点検時間	アワーメータ表示時間									備考	参照ページ		
			作業前	新車初期点検★	100時間	200時間★	300時間	400時間★	500時間	600時間★	1回/1ヶ月			1回/1年★	1回/2年★
エンジン	エンジンオイル	交換	○	●	●	●	●	●	●	●				100時間ごと	88
	エンジンオイルフィルタ	交換		●		●		●		●				200時間ごと	89
	エアクリーナエレメント	洗浄 交換	○	△	△	△	△	△	△	●		●		100時間ごと 600時間ごと、 または1回/1年	89
	リザーブタンク冷却水・水量	洗浄 交換	○	○	○	○	○	○	○	●		●		100時間ごと 600時間ごと、 または1回/2年	91
	ラジエータ本体	洗浄		○									△	1回/2年	92
	ラジエータホース	点検 交換	○	○		○		○		○			★	200時間ごと 1回/2年	92
	燃料フィルタ	洗浄 交換	○	△	△	△	△	●	△	△				100時間ごと 400時間ごと	94
	燃料パイプ・ホース	点検 交換		○	○	○	○	○	○	○			★	100時間ごと 1回/2年	94
	ファンベルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○				100時間ごと	95
	バッテリー ハイドロメータ確認	点検	○	○	○	○	○	○	○	○		○		100時間ごと または1回/1年	96
エンジンバルブクリアランス	点検										★		600時間ごと	—	
本機	ミッションオイル (交換時にはストレーナを清掃)	交換	○	●		●		●		●				200時間ごと	97
	フロントアクスルのオイル	点検 交換	○	○		○		○		●				200時間ごと 600時間ごと	103
	クラッチ室の水抜き	点検		○	○	○	○	○	○	○				100時間ごと	103
	クラッチペダルの遊び	点検・調整	○	○	○	○	○	○	○	○				100時間ごと	99
	ブレーキペダルの遊び	点検・調整	○	○		○		○		○				200時間ごと	99

○：点検、補充、調整 ●：交換 △：清掃、洗浄 ★：お買い上げ先での交換・点検をおすすめします

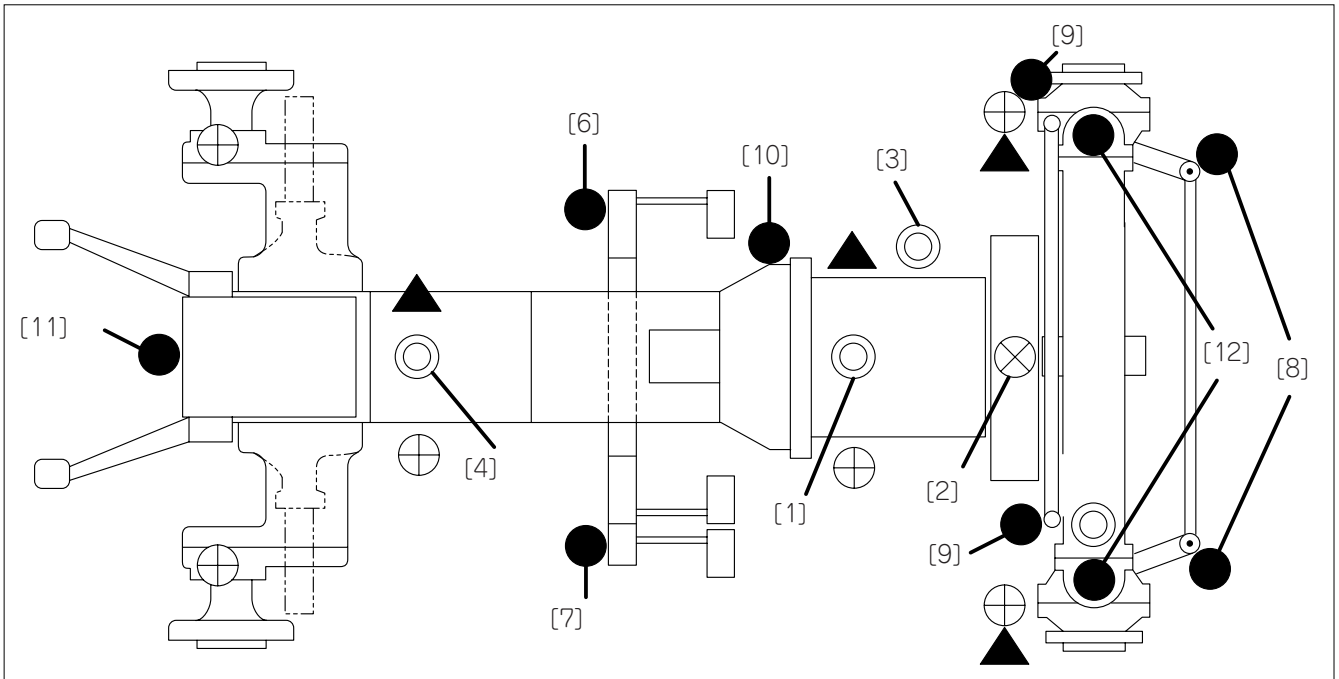
点検項目		点検時間	アワーメータ表示時間										備考	参照ページ			
			作業前	新車初期点検★	100時間	200時間★	300時間	400時間★	500時間	600時間★	1回/1ヶ月	1回/1年★			1回/2年★		
本機	ステアリング	点検調整は★	○	○	○	○	○	○	○						200時間ごと	100	
	タイヤの空気圧	点検・補充	○	○	○	○	○	○	○						200時間ごと	100	
	ホイールの締め付けボルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○					100時間ごと	—	
	電気配線	点検交換		○									○	★	1回/1年 1回/2年	104	
	パワステ用ホース	点検交換		○	○	○	○	○	○	○					★	100時間ごと 1回/2年	103
	水平シリンダホース	交換		○											★	1回/2年	103
	各部のグリース注入			○	○	○	○	○	○	○						作業前後に実施	101

⚠ 注意



- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
 - 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
 - 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。
- ※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

8.2 給油・給水一覧表



- : グリス給油 (グリスニップル)
- ◎ : 給油口
- ⊕ : 排油口
- ▲ : 検油口
- : ラジエータ (給油口)
- △ : ラジエータ (排油口)

番号	給油 (水) 箇所	容量 (L)	使用オイル
[1]	燃料	16	ディーゼル軽油 (JIS2~3号)
[2]	ラジエータ	3.5	不凍液 (L.L.C)
[3]	エンジン	2.7	スーパーマルチGDオイル (10W-30・SL/CF)
[4]	ミッションケース	16	スーパーマルチGBオイル
[5]	フロントアクスル	2.7 (B仕様3.3)	スーパーマルチGBオイル
[6]	クラッチペダル	適量	リチウム系の一般グリス
[7]	ブレーキペダル		
[8]	タイロッド		
[9]	パワーステアリング		
[10]	メインチェンジ (E・SS(S)仕様以外)		
[11]	2Pブラケット (J仕様のみ)		
[12]	ナックルアーム		

補足

- 表中の容量は交換の際の目安です。交換後は必ずレベルゲージ等で適量かどうか確認してください。
- 使用オイルは推奨潤滑油一覧表 (119ページ) を参照してください。

8.3 エンジン周りのカバー類の脱着

警告



エンジン関係の点検・清掃・調整を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
また、エンジン停止直後は、マフラ、およびその周辺は大変熱くなっています。
十分冷えてから点検・清掃・調整を行ってください。

※ 守らないと、回転部に巻き込まれたりやけどしたり、人身事故の原因になります。



ボンネットやエンジン周辺のカバー類を脱着するときは、巻き込まれないように注意してください。

※ 守らないと、回転部に巻き込まれ人身事故の原因になります。

8.3.1 ボンネットの開閉

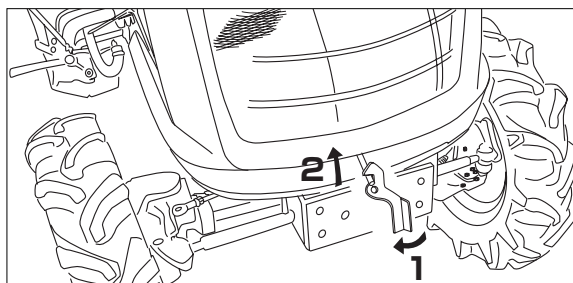
注意



ボンネットを開き、点検・調整するときは、必ずロッドが固定されたか確認してください。

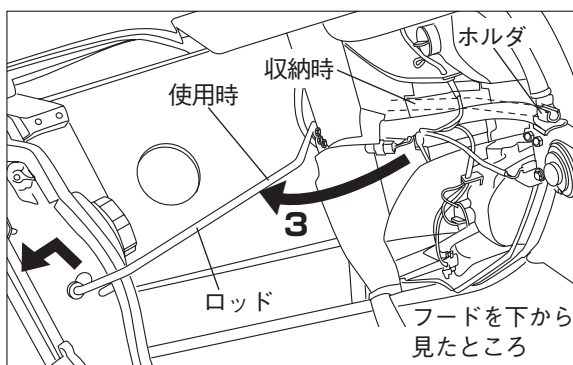
※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

1 ロックレバーを矢印の方向へ回します。



2 ボンネット先端を持ち上げます。

3 ロッドをホルダから外し、穴にかけます。



4 ボンネットを閉めるときは、逆の手順で行います。

8.4 点検・清掃・調整のしかた

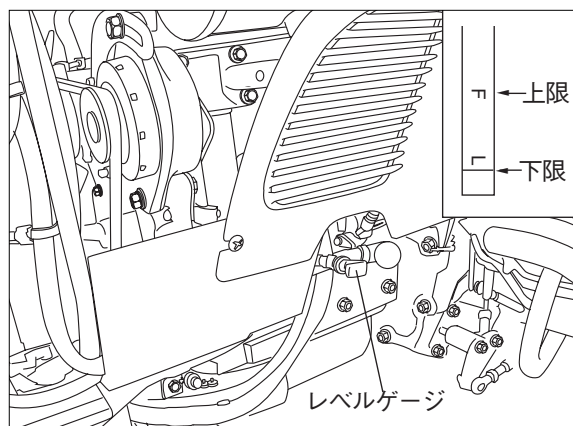
8.4.1 エンジンオイル

■点検・補給

- 1 レベルゲージを抜いて先端をきれいにふき、改めて差し込みます。
- 2 再度抜いて、「上限」と「下限」の間にオイルがあるか調べます。
- 3 レベルゲージが「下限」以下の場合は、補給してください。

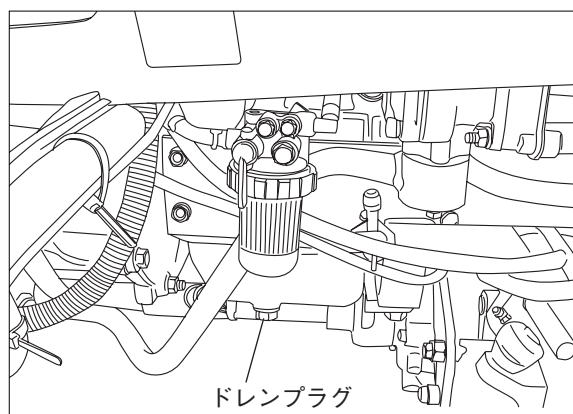
補 足

- エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。
- エンジンオイルは必ず三菱純正オイルを使用してください。
(P.119ページ)



■交換

- 1 ドレンプラグを外して容器にオイルを排出します。
- 2 ドレンプラグを締めて、給油口からエンジンオイルを規定量入れてください。



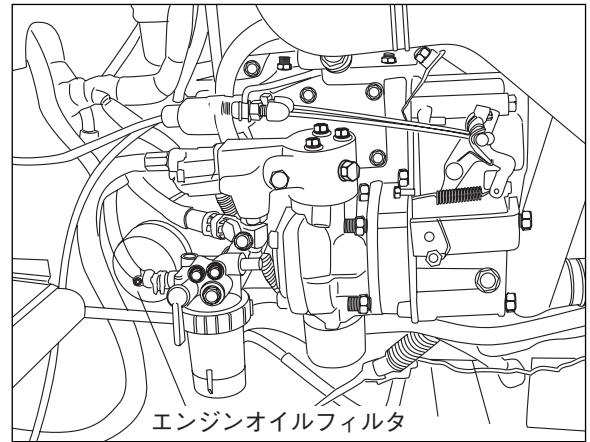
⚠ 注意



- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
 - 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
 - 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。
- ※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

■エンジンオイルフィルタの交換

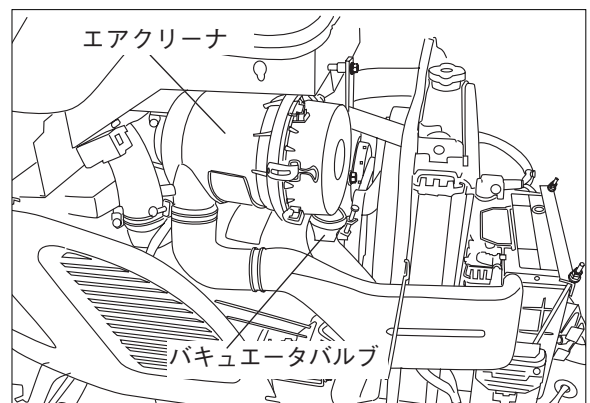
- 1 市販のフィルタレンチでオイルフィルタを取り外します。
- 2 新しいオイルフィルタのOリングにオイルを薄く塗布してから、手で確実に締め付けます。
(シール面のゴムパッキンが接触してから、約2/3回転、締め付けてください。)
- 3 給油口からエンジンオイルを規定量補給します。
- 4 エンジンを約5分間運転し、エンジンオイル圧力警告灯の作動に異常がないことを確認してから止めます。(➡ 32ページ)
- 5 再びレベルゲージで油面を確認し、不足していれば給油口からエンジンオイルを補給してください。



8.4.2 エアクリーナの清掃

■バキューエータバルブの清掃

- 1 ボンネットを開けます。
- 2 バキューエータバルブを指でつまんで内部のゴミを落とします。
水分があるときは、エアクリーナ内部を布でふき取ってください。



■エレメントの清掃

注意



清掃時は、エレメントを石やコンクリートのような硬い物でたたかないでください。

※ エレメントが破損・変形すると、エンジンの性能が発揮できなくなります。

1 ホルダとバンドを外して、エアクリーナを手前に引き出します。

2 クリップを外し、エアクリーナ本体からエレメントを取り外します。

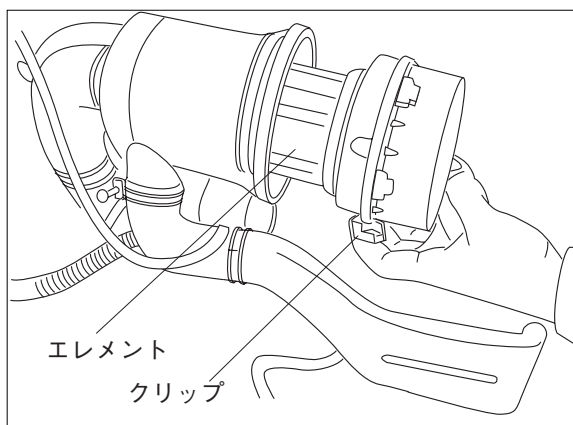
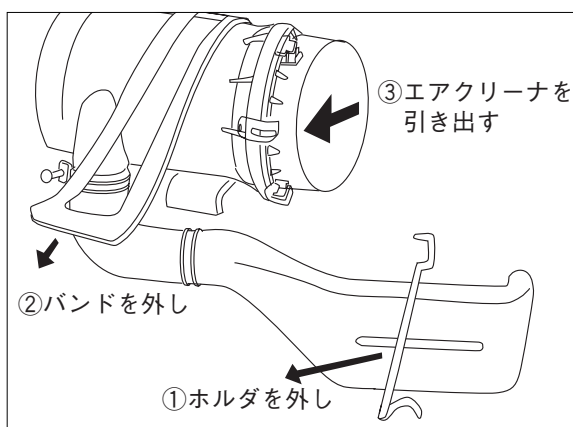
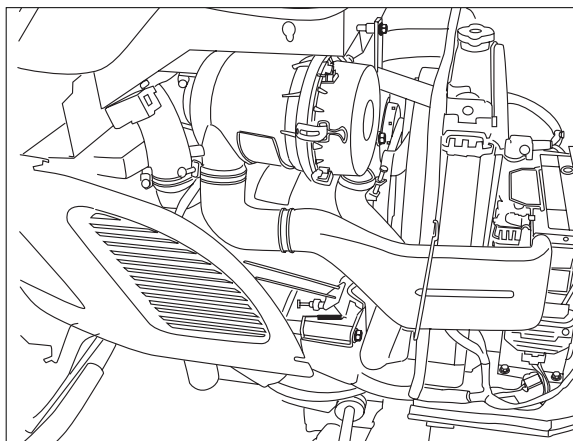
3 エレメントの清掃は以下の要領で行ってください。

- (1) 乾いたホコリが付いている場合
エレメントの内側から空気を吹き付けるかまたは、手で軽くたたいてゴミを取り除いてください。
- (2) 湿ったホコリ、油分等で汚れている場合
家庭用中性洗剤を水で薄め、エレメントを約30分浸し、その後軽くすすぎ洗いをし、自然乾燥させてください。

4 エレメント清掃後、確実に組み付けてください。

補足

- エアクリーナ各部の締め付けは、確実に行きゴミを吸い込まないようにしてください。



■エレメントの交換

エレメントは5回清掃後または破損している場合は交換してください。

8.4.3 冷却水

警告

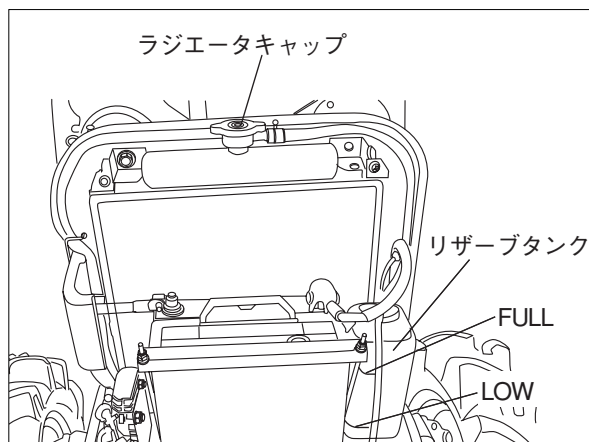


ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後10分以上たってよく冷えてから注意して開けてください。

※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

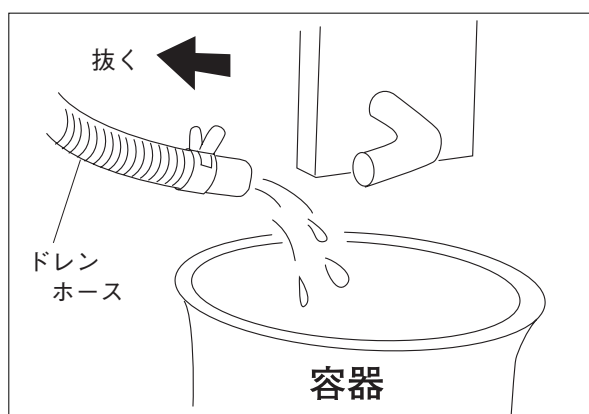
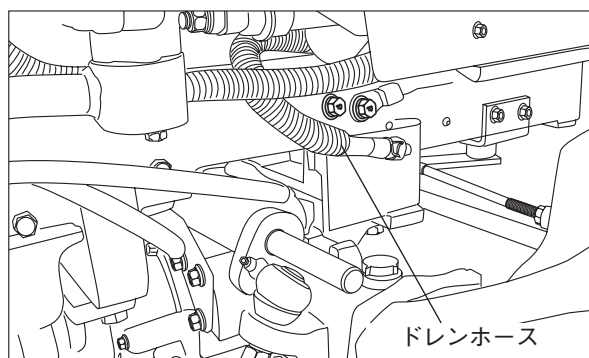
点検・補給

- 1 ボンネットを開きます。
- 2 リザーブタンク内の冷却水が上限「FULL」と下限「LOW」の間にあることを確認します。
- 3 少ない場合はリザーブタンク上限「FULL」まで補給します。
- 4 冷却水が「LOW」より低い位置にある場合はエンジンが十分に冷えてから、ラジエータキャップを外し、本体の液量も確認してください。



交換

- 1 冷却水は、エンジン右側のドレンホースを外して容器に抜きます。同時にラジエータキャップを開けると、排出しやすくなります。
- 2 リザーブタンクの排水は、リザーブタンクを外して行います。
- 3 水道水でラジエータ内部をよく洗浄します。
- 4 ドレンホースを挿して、冷却水をラジエータ内にいっぱい入れ、リザーブタンクには給水口より上限「FULL」まで入れます。
- 5 ラジエータキャップを確実に締めます。
- 6 エンジンを始動し、約5分間中速回転（約1500rpm）で運転した後、エンジンを停止してください。
- 7 エンジン停止後、十分に冷却水が冷えた後、ラジエータキャップを外します。
- 8 ラジエータ内の冷却水を確認します。不足している場合は、リザーブタンクの給水口より上限「FULL」まで補給します。



補足

- 冷却水は上限「FULL」以上は絶対入れないでください。ラジエータの性能が十分発揮できなくなるほか、冷却水が漏れる原因となります。

■不凍液の使いかた

冷却水が凍結すると、エンジンを破損することがあります。冬期、気温が0℃以下になるようなときは、不凍液を混入してください。

- (1) 不凍液を入れる前に、よくラジエータ内部を洗浄してください。
- (2) 不凍液の混合比は、不凍液メーカーや気温により異なります。不凍液メーカーの説明書に従ってください。
- (3) 不凍液は水とよく混合し、注入してください。
- (4) 不凍液の補給
 - (a) 蒸発の場合……………冷却水が減った分だけ清水を補給してください。
 - (b) ブリーザより漏れた場合……………同じ比率に混合した不凍液を補給してください。

8.4.4 ラジエータの清掃

⚠ 警告



ラジエータの清掃をするときは、必ずエンジンを停止してください。

※ 守らないと、回転部に巻き込まれる等の傷害事故を起こすおそれがあります。

■防虫網の清掃

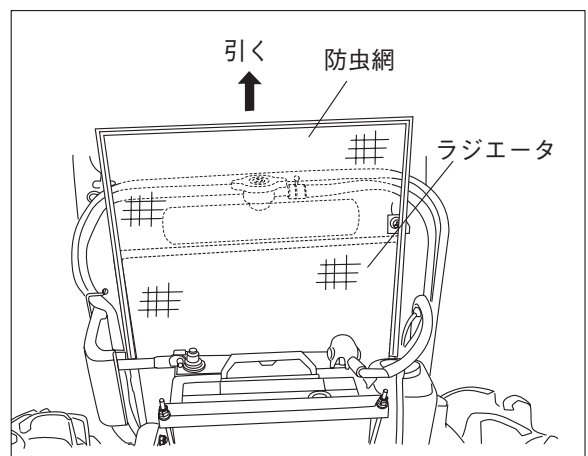
水田・草地や夜間の作業をすると、ラジエータに草・ワラくず・虫等が付着して詰まることがあります。ボンネットを開け、防虫網を引き出して清掃してください。

■ラジエータコアの清掃

フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は、水道水で流してください。

補 足

- ラジエータが目詰まりするとオーバーヒートし、オイルの消費量が増加します。
- 強い圧力水を直接ラジエータにかけると、フィンが変形することがあります。十分注意してください。
- エンジン回りの電気配線・電装品には直接水をかけないでください。



8.4.5 燃料

⚠ 危険



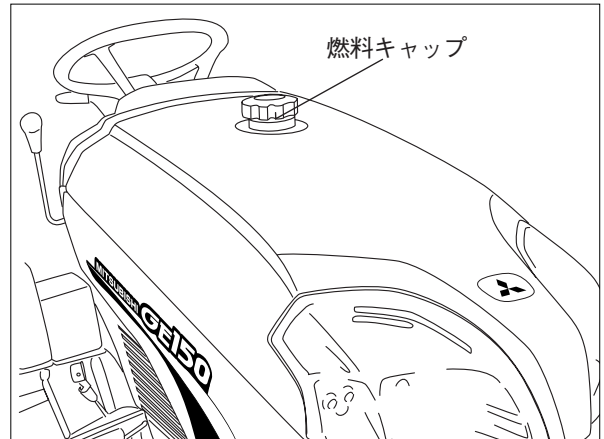
燃料を補給するときは、くわえたばこ等の火気厳禁です。

※ 守らなかった場合、火災の原因になります。

燃料は、ディーゼル軽油（JIS2～3号）を使用してください。

補 足

- 燃料タンク内に、水・ゴミ等が入らないよう注意してください。
- 給油後は、燃料キャップが確実に閉まっていることを確認してください。



■満タン警報ブザー

1 メインスイッチを「入」位置にしてください。

2 燃料キャップを外し、燃料を給油してください。給油時にブザーが断続的に鳴り、満タンに近づくと断続音がはやくなり、やがて連続音に変わります。

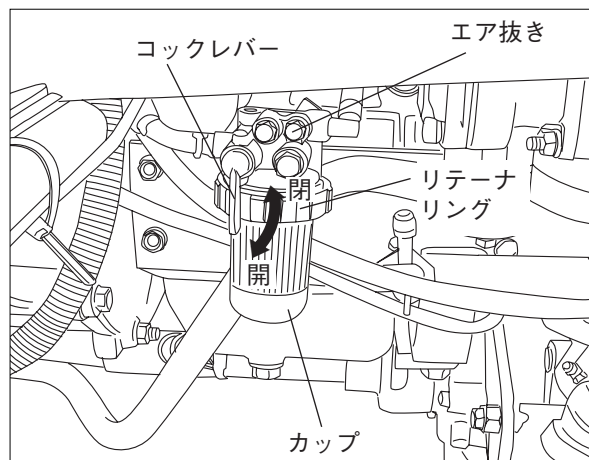
補 足

- 連続音に変わったら、入れすぎに注意しながら給油してください。
- ブザーはメインスイッチを「入」位置にしてから10秒後に鳴り始めます。
- 満タン警報ブザーはエンジンが運転している時は作動しません。

3 メインスイッチを「切」位置にしてください。

■燃料フィルタの清掃・交換

- 1 燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈殿しているか点検します。
- 2 水・ゴミがたまっている場合は、リテーナリングを外し、排出します。
400時間ごとまたは汚れのひどいときは交換してください。
- 3 締め付けは、燃料漏れのないよう十分注意してください。



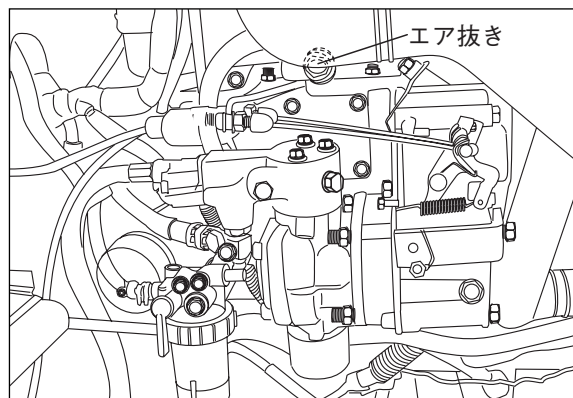
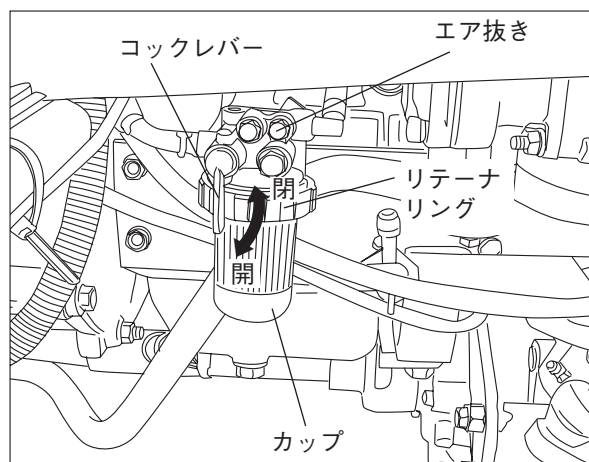
■燃料ホースの点検

燃料ホースは100時間ごとに、点検してください。
ひび・亀裂・燃料漏れがある場合は交換してください。

■エア抜き

燃料切れや燃料フィルタ・燃料ホースを取り外したときは、燃料系統のエア抜きをする必要があります。

- 1 燃料フィルタのコックレバーを「閉」にして、燃料タンクに燃料を入れます。
- 2 燃料フィルタのコックレバーを「開」にします。
- 3 燃料フィルタのエア抜きビスをゆるめ、燃料の流出を確認します。
- 4 エア抜き後、燃料漏れのないよう確実に、エア抜きビスを締め付けます。



8.4.6 ファンベルトの張り具合

警告

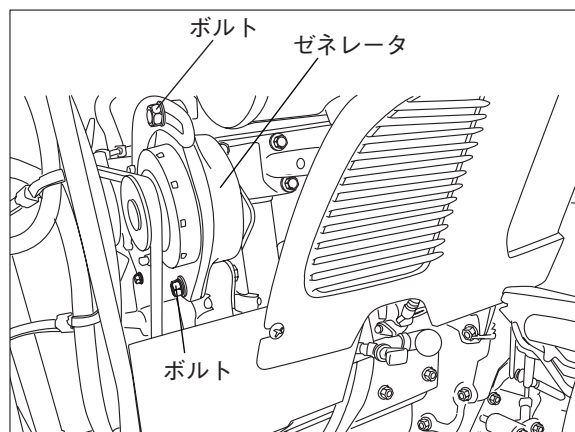


マフラは、エンジン停止後、十分冷えてから点検を行ってください。

※ 守らないと、やけどをすることがあります。

点検

- 1 ベルトの中央部を押さえて、14～15 mm程度たわむか、確認します。
- 2 ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因となります。下記の要領で調整してください。
- 3 ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換してください。



調整

- 1 ゼネレータを取り付けているナットとボルトをゆるめます。
- 2 ゼネレータを動かし、ベルトの中央部を押さえて、ベルトの張りが14～15 mmたわむ程度に調整します。
- 3 調整後はナットとボルトを確実に締め付けます。

補足

- ベルトを交換した場合は、交換調整後約1時間運転した後に、初期のび調整のため再度ベルトの調整をしてください。

8.4.7 バッテリ

危険



ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよいところで行ってください。

※ 守らないと、引火爆発するおそれがあります。

バッテリー液を身体や衣服に付けないようにしてください。

バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。


※ 失明や、やけどをするおそれがあります。

もし、目・皮膚・衣服に付いたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

警告



ブースケーブル使用時には、十分注意して取り扱ってください。

※ 注意を怠ると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。（ 18ページ）

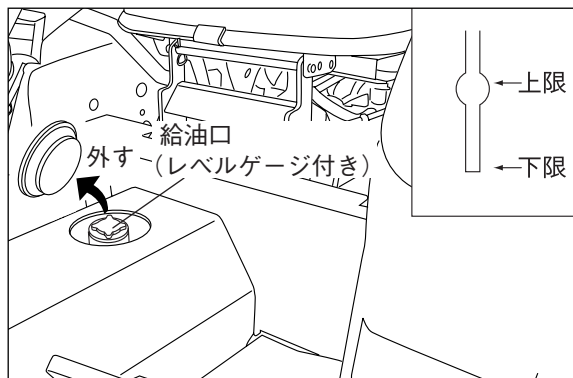
■取り扱い

- (1) 本機に使用しているバッテリーは補水の必要がないバッテリーです。（密閉形で寿命まで補水不要）
- (2) 気温が低下すると、バッテリーの性能も低下します。冬期は特にバッテリーの管理に注意してください。
- (3) バッテリーは使用しなくても自己放電します。ハイドロメータの色が黒色のときは補充電を行ってください。
 - 夏期……………2ヶ月ごと
 - 冬期……………3ヶ月ごと
- (4) トラクタを長期格納する場合は、バッテリーを外し日光の当たらない乾燥した場所に保存してください。トラクタに取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外してください。アースを外したときは、その旨をメモ書きしてトラクタに貼り付けておくと便利です。
- (5) 新品のバッテリーと交換する場合は、必ず指定した型式「46B24R」のバッテリーを使用してください。

8.4.8 ミッションオイル

■点検・補給

- 1 平たんな場所へトラクタを置きます。
- 2 ゴムカバーを外し給油口を緩めて抜き取り、先端のゲージをきれいにふき、元の状態までねじ込みます。
- 3 再び外し、「上限」と「下限」の間にオイルがあるか調べます。
- 4 「下限」以下の場合は補給してください。ただし、「上限」以上は入れないでください。噴きこぼれの原因になります。



補足

- ミッションオイルはスーパーマルチGBオイルを使用してください。
(120ページ)

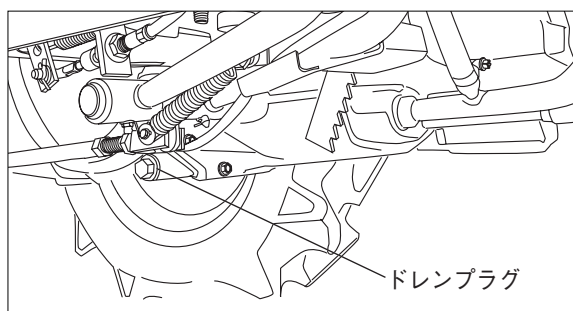
注意



レベルゲージは、給油口をいっぱいまでねじ込んで確認してください。

■交換

- 1 ドレンプラグを外して、容器にオイルを排出します。
- 2 ドレンプラグを締めて、オイルを給油口から規定量入れてください。
給油後、オイル量の点検を行ってください。



注意



- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
 - 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
 - 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。
- ※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

■エア抜き

注意

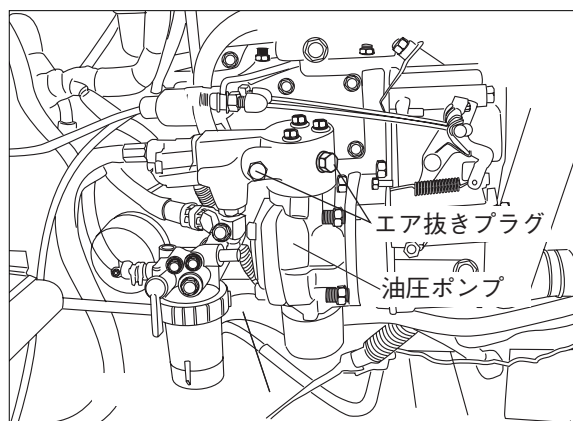


オイルを抜いた後、再び給油したときには、必ず油圧配管内のエア抜きをしてください。

※ エア抜きを行わないと、ギヤーポンプの焼き付き・油圧装置の作動不良を引き起こすことがあります。

油圧配管内のエア抜きは次の要領で行ってください。

- 1** エア抜きプラグをゆるめておきます。
- 2** エンジンを始動して5秒程度経過した後、エンジンを停止します。
- 3** エア抜きプラグを開めます。
- 4** レベルゲージで点検し、不足していれば補給してください。



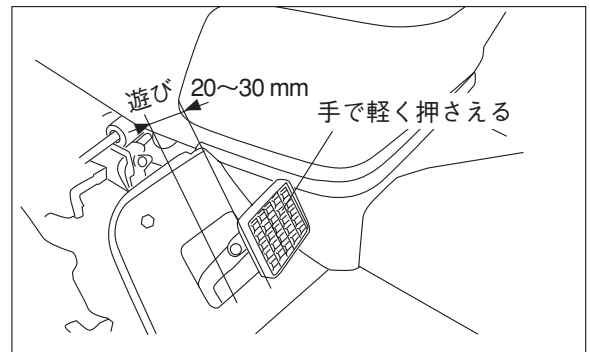
8.4.9 クラッチペダル

■点検

クラッチペダルの遊び量が、20～30 mmあるか確認してください。

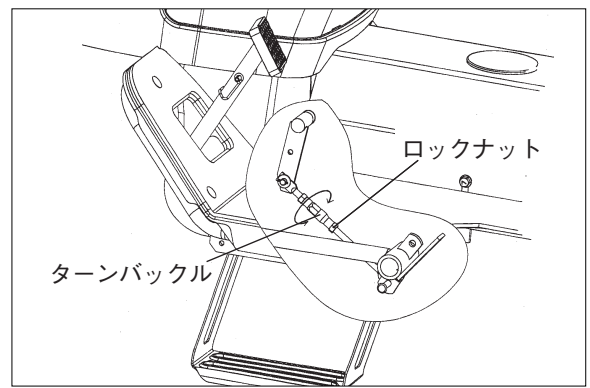
補 足

- クラッチペダルの調整が悪いと、クラッチ切れ不良、スリップを起こしクラッチの損傷につながります。



■調整

- 1 ロックナットをゆるめます。
- 2 ターンバックルを回してクラッチペダルの遊び量を20～30 mmに調整します。
- 3 ロックナットを確実に締め付けてください。



8.4.10 ブレーキペダル

⚠ 警告

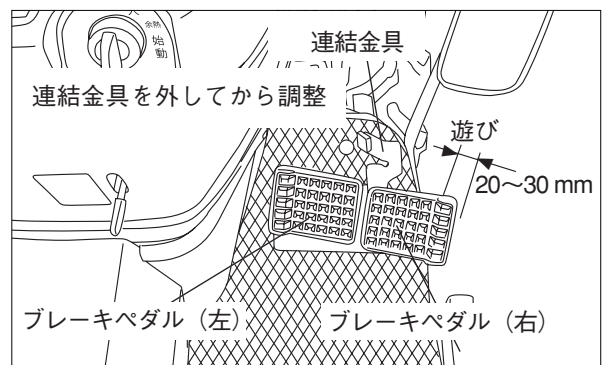


調整時、左右のブレーキペダルの踏み込み量を必ず合わせてください。

※ 守らないと、ブレーキが片ぎきになり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

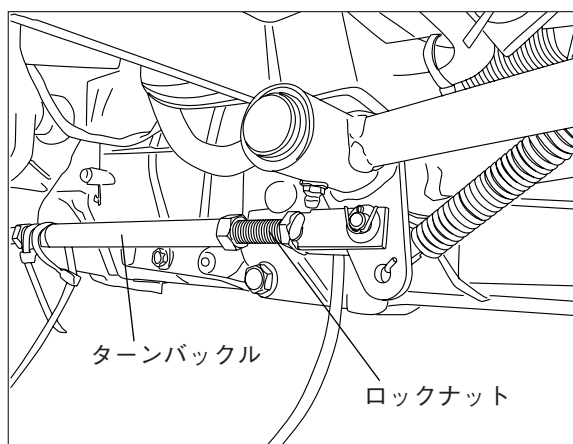
■点検

左右のブレーキペダルの遊び量が、20～30mmおよび、ブレーキの踏み込み量が左右で均一になっているかを確認してください。



■調整

- 1 駐車ブレーキを解除します。
- 2 ロックナットをゆるめます。
- 3 ターンバックルを回してブレーキペダルの遊び量が20～30mmとなり、踏み込み量が左右で均一になるように調整してください。
- 4 前後2箇所のロックナットを確実に締め付けてください。
- 5 調整後、駐車ブレーキが確実にかかること、および、ブレーキが正常に作動することを確認してください。



8.4.11 ステアリング

ステアリング系統には、はなはだしい遊びやガタがないことを確認してください。

遊びはステアリングホイール（ハンドル）の外周で30～60 mmが標準です。

はなはだしい遊びやガタがある場合は「お買い上げ先」で修理してください。

8.4.12 タイヤの空気圧

⚠ 警告



タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。

※ タイヤ破裂のおそれがあります。



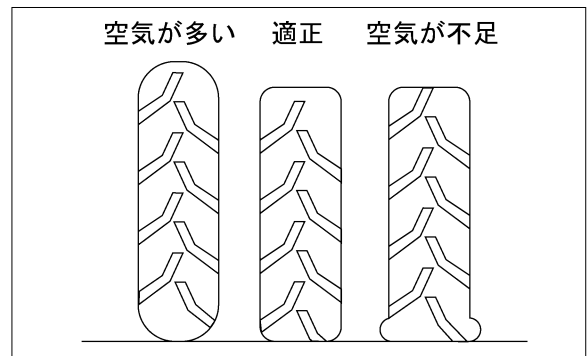
タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載されている規定圧を必ず守ってください。

※ 空気の入れ過ぎは、タイヤの破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。

タイヤ・チューブ・リム等の交換・修理は、必ず「お買い上げ先」にご相談ください。

※ 法律で特別教育を受けた人が行うように定められています。

前輪・後輪の空気圧が適正であることを調べます。外観上の目安は右図のとおりです。



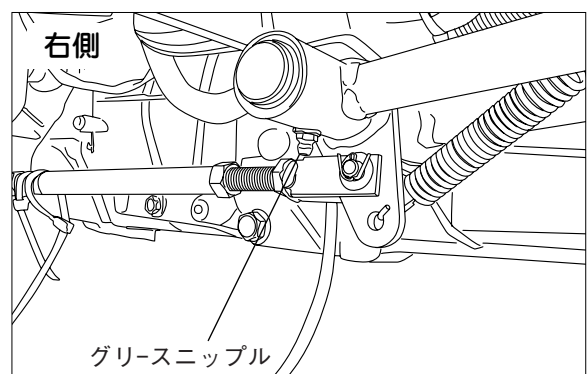
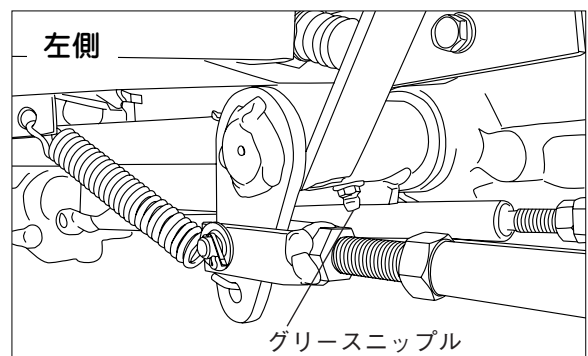
型 式	フロントタイヤ			リヤタイヤ		
	タイヤサイズ	空 気 圧		タイヤサイズ	空 気 圧	
		kPa	kgf/cm ²		kPa	kgf/cm ²
GE130標準	5-12	120	1.2	8-16	160	1.6
GE150/170標準	5.00-12	120	1.2	8-18	160	1.6
GE130/170-SSB	4.00-7	200	2.0	6-12	160	1.6
GE130SB	4.00-10	120	1.2	7-14	100	1.0

8.4.13 アクセルレバー・ペダル

アクセルレバーの回動が重くなったり、軽くなったりしたときは、調整を「お買い上げ先」に依頼してください。

8.4.14 グリース注入

- (1) クラッチペダル・ブレーキペダル
ステップ下側の2箇所にごりスを少量注入してください。

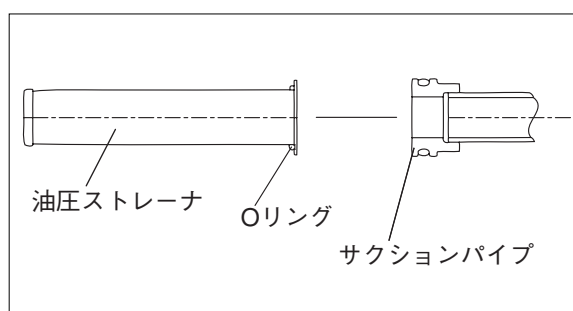
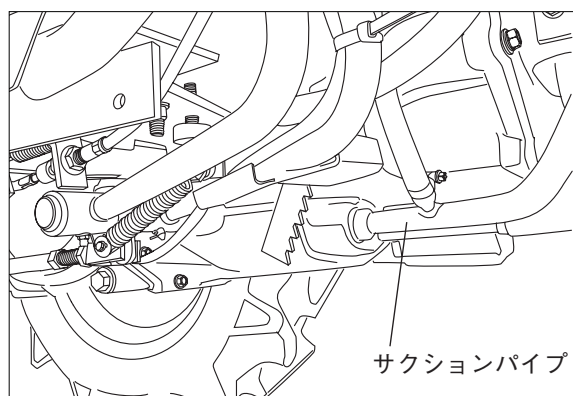
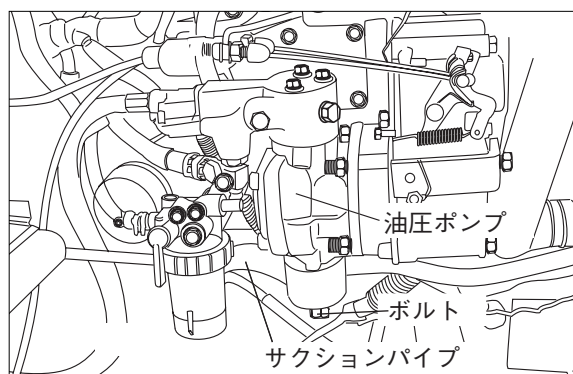


8.4.15 油圧ストレーナの清掃

油圧ストレーナが詰まると、油圧系統の故障の原因となります。

清掃は定期的に「お買い上げ先」で行ってください。

- 1 ミッションオイルを容器に抜きます。
(P.97ページ)
- 2 ボルトを外し、サクシヨンパイプを抜取りストレーナを取出します。
- 3 ストレーナを軽油で洗浄します。
- 4 洗浄後、ストレーナをケース内へ挿入し、サクシヨンパイプを組付け、ボルトを締め付けます。
- 5 給油口からミッションオイルを規定量入れます。(P.97ページ)
- 6 オイルのエア抜きをします。
(P.98ページ)



8.4.16 フロントアクスルのオイル

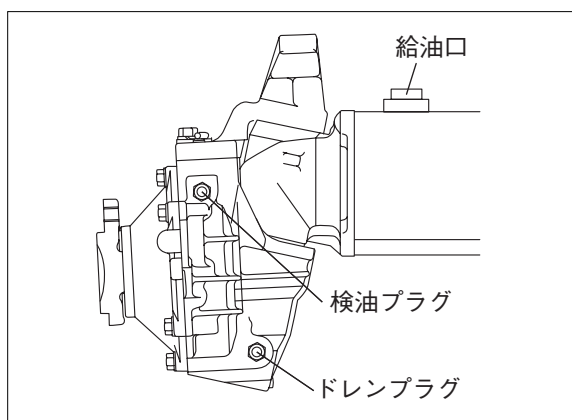
■点検

検油プラグを外し、内部シャフト中心までオイルがあるかを調べます。

少ない場合はオイルを補給してください。

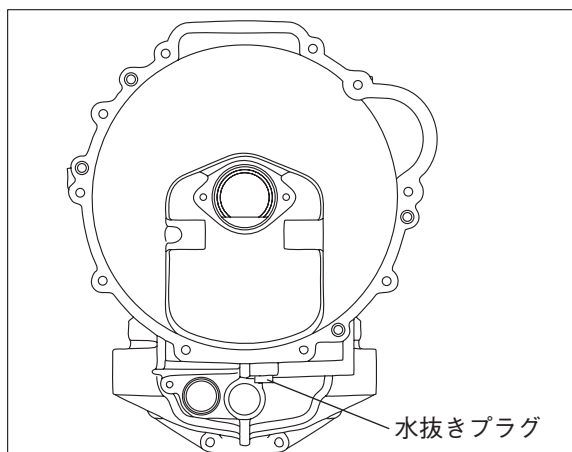
■交換

- 1 左右のドレンプラグと検油プラグを外して容器にオイルを抜きます。
- 2 ドレンプラグを締めて、給油口からオイルを入れます。
- 3 検油プラグ、給油口を確実に締めてください。



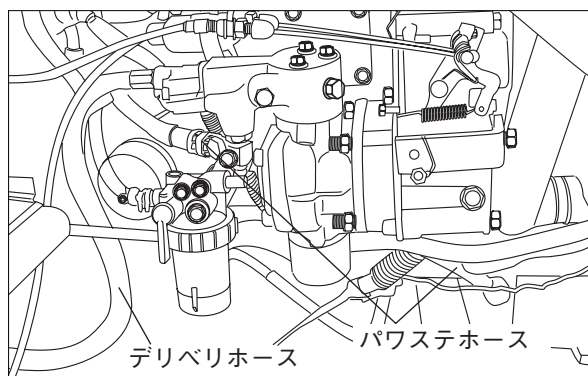
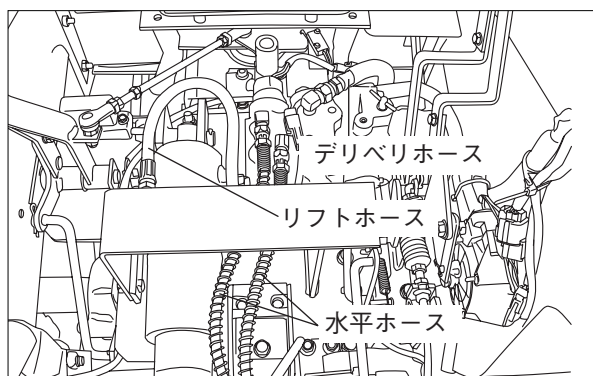
8.4.17 クラッチ室の水抜き

クラッチ室下部のプラグを抜き、水やオイル漏れがないか点検してください。



8.4.18 油圧ホースの点検

パワステホース、デリベリホース、リフトホース、水平ホースに、ひび・亀裂・油漏れがないか点検してください。異常がなくても、2年に1回は交換してください。



8.4.19 電気配線の点検と清掃

危険



傷んだ配線は、すみやかに「お買い上げ先」で交換・修理してください。

※ 配線の端子や接続部のゆるみ、および、配線の損傷は電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故になるおそれがあります。

バッテリー、電気配線、および、マフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミ等は、取り除いてください。

※ 守らないと、火災の原因となります。

注意



メータパネル、バッテリー、エンジン周りの電気配線・電装品および電子油圧操作部には圧力水をかけないでください。

※ 電気部品の故障の原因となります。



1年に1回、「お買い上げ先」での定期点検を受けてください。また安心して作業できるよう電気配線は、2年に1回交換することをお奨めします。

※ 守らないと、故障が発生しやすくなります。

下記の項目について定期的に点検してください。

- (1) 配線の損傷がないこと。
配線被覆が破れているときは、ビニールテープを巻き補修してください。
- (2) 配線のクランプにゆるみがないこと。
配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線を固定してください。
- (3) ターミナル、ブロック（ソケット）の接続部にゆるみがないこと。
- (4) 各スイッチが確実に作動すること。

8.4.20 ヒューズおよびスローブローヒューズの取り扱い

警告



ヒューズが切れたときは、切れた原因を調査し、修理してください。

「お買いあげ先」にお問い合わせください。

※ 大容量のヒューズや、針金等で代用すると焼損の原因や思わぬ傷害事故を引き起こす原因となります。

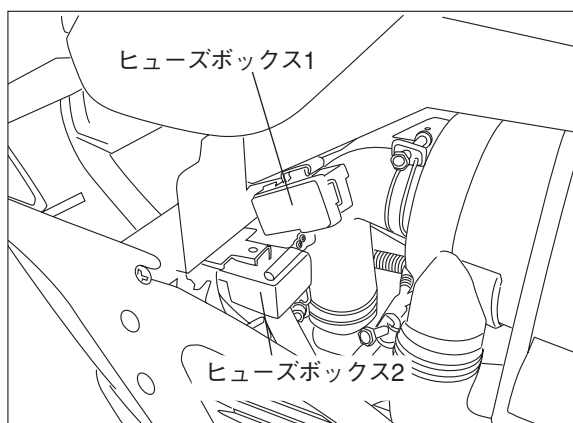
■ヒューズの交換

ヒューズはボンネットを開き、右サイドカバー後方に取り付けています。ヒューズが切れた場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

ヒューズボックスカバーにマークが貼り付けてあります。これと照らし合せて確認してください。

補 足

- ヒューズボックスはE仕様は1個、それ以外の仕様は2個あります。
- 水平感度およびチェックに挿入されているヒューズは調整、点検時に使用するものです。このヒューズは触らないでください。



ヒューズボックス一覧表

	DJB/JB	DB/D	E																																																						
ヒューズボックス1	<table border="1"> <tr><td>メータ (IGN)</td><td>F3</td><td>5A</td></tr> <tr><td>アサー</td><td>F12</td><td>5A</td></tr> <tr><td>クインカ</td><td>F9</td><td>10A</td></tr> <tr><td>ヘッドライト</td><td>F10</td><td>10A</td></tr> <tr><td>コントロール回路</td><td>F6</td><td>10A</td></tr> <tr><td>加速戻りモータ</td><td>F8</td><td>20A</td></tr> </table>	メータ (IGN)	F3	5A	アサー	F12	5A	クインカ	F9	10A	ヘッドライト	F10	10A	コントロール回路	F6	10A	加速戻りモータ	F8	20A	<table border="1"> <tr><td>メータ (IGN)</td><td>F3</td><td>5A</td></tr> <tr><td>アサー</td><td>F12</td><td>5A</td></tr> <tr><td>クインカ</td><td>F9</td><td>10A</td></tr> <tr><td>ヘッドライト</td><td>F10</td><td>10A</td></tr> <tr><td>コントロール回路</td><td>F6</td><td>10A</td></tr> <tr><td>加速戻りモータ</td><td>F8</td><td>20A</td></tr> </table>	メータ (IGN)	F3	5A	アサー	F12	5A	クインカ	F9	10A	ヘッドライト	F10	10A	コントロール回路	F6	10A	加速戻りモータ	F8	20A	<table border="1"> <tr><td>メータ (IGN)</td><td>F3</td><td>5A</td></tr> <tr><td>アサー</td><td>F12</td><td>5A</td></tr> <tr><td>クインカ</td><td>F9</td><td>10A</td></tr> <tr><td>ヘッドライト</td><td>F10</td><td>10A</td></tr> <tr><td>キーストップSOL</td><td>F4</td><td>10A</td></tr> <tr><td>クロモータ</td><td>F5</td><td>5A</td></tr> </table>	メータ (IGN)	F3	5A	アサー	F12	5A	クインカ	F9	10A	ヘッドライト	F10	10A	キーストップSOL	F4	10A	クロモータ	F5	5A
メータ (IGN)	F3	5A																																																							
アサー	F12	5A																																																							
クインカ	F9	10A																																																							
ヘッドライト	F10	10A																																																							
コントロール回路	F6	10A																																																							
加速戻りモータ	F8	20A																																																							
メータ (IGN)	F3	5A																																																							
アサー	F12	5A																																																							
クインカ	F9	10A																																																							
ヘッドライト	F10	10A																																																							
コントロール回路	F6	10A																																																							
加速戻りモータ	F8	20A																																																							
メータ (IGN)	F3	5A																																																							
アサー	F12	5A																																																							
クインカ	F9	10A																																																							
ヘッドライト	F10	10A																																																							
キーストップSOL	F4	10A																																																							
クロモータ	F5	5A																																																							
ヒューズボックス2	<table border="1"> <tr><td>キーストップSOL</td><td>F4</td><td>10A</td></tr> <tr><td>クロモータ</td><td>F5</td><td>5A</td></tr> <tr><td>バックアップモータ</td><td>F7 (D仕様)</td><td>20A</td></tr> <tr><td>水平感度1</td><td>J1</td><td>5A</td></tr> <tr><td>水平感度2</td><td>J2</td><td>あき</td></tr> <tr><td>チェック</td><td>J3</td><td>5A</td></tr> </table>	キーストップSOL	F4	10A	クロモータ	F5	5A	バックアップモータ	F7 (D仕様)	20A	水平感度1	J1	5A	水平感度2	J2	あき	チェック	J3	5A	<table border="1"> <tr><td>キーストップSOL</td><td>F4</td><td>10A</td></tr> <tr><td>クロモータ</td><td>F5</td><td>5A</td></tr> <tr><td>バックアップモータ</td><td>F7 (D仕様)</td><td>20A</td></tr> <tr><td>チェック</td><td>J3 (D仕様)</td><td>5A</td></tr> </table>	キーストップSOL	F4	10A	クロモータ	F5	5A	バックアップモータ	F7 (D仕様)	20A	チェック	J3 (D仕様)	5A																									
キーストップSOL	F4	10A																																																							
クロモータ	F5	5A																																																							
バックアップモータ	F7 (D仕様)	20A																																																							
水平感度1	J1	5A																																																							
水平感度2	J2	あき																																																							
チェック	J3	5A																																																							
キーストップSOL	F4	10A																																																							
クロモータ	F5	5A																																																							
バックアップモータ	F7 (D仕様)	20A																																																							
チェック	J3 (D仕様)	5A																																																							

触らないでください。

■スローブローヒューズ



警告



ヒューズが溶断したときは、溶断した原因を調査し、修理してください。

「お買いあげ先」にお問い合せください。

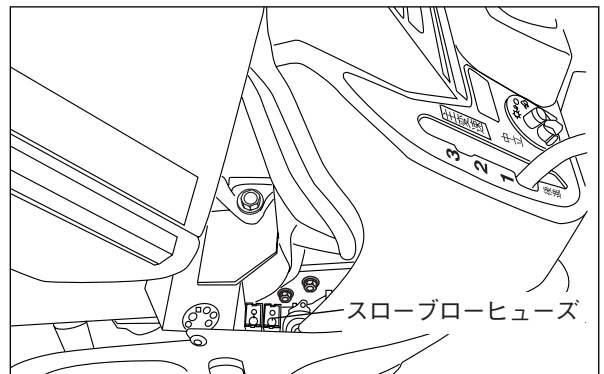
※ 大容量のヒューズや、針金等で代用すると焼損の原因や思わぬ傷害事故を引き起こす原因となります。

配線中にスローブローヒューズが2個（30A・40A）設置されています。

スローブローヒューズはヒューズの種類で、過大電流が流れたりショートしたときに、溶断して配線の損傷を防ぎます。

＜チェック方法＞

ボンネットを開けるとエンジン左側にスローブローヒューズが見えます。溶断している場合は、スローブローヒューズを抜き、交換してください。



9. 格納時の手入れ

9.1 日常の格納

危険



格納するときには、メインスイッチのキーを必ず抜いてください。

※ 守らないと、漏電の原因となり感電事故や火災が起きることがあります。

注意



洗車するときは、メータパネル、電装品、およびボンネット等の警告ラベル貼付箇所には圧力水をかけないでください。

※ 圧力水をかけると、故障の原因となったり、警告ラベルのはがれ、部品の変形を起こしたりします。

日常の格納および短期間の格納する前に下記の作業を行ってください。

- (1) トラクタはきれいに清掃してください。
特に代かき、湿田作業後は、きれいに洗車してください。
- (2) 作業機は必ず降ろしてください。
- (3) 格納はできる限り屋内にしてください。
- (4) 厳寒時はバッテリーを外し、暖かい室内等に保管すると始動時に効果があります。
- (5) 外気温が0℃以下になるときは、エンジン凍結割れ防止のため、不凍液を入れるか、冷却水を完全に抜いてください。

9.2 長期の格納

危険



格納するときには、メインスイッチのキーを必ず抜いてください。

※ 守らないと、漏電の原因となり感電事故や火災が起きることがあります。

作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になります。

注意



洗車するときは、メータパネル、電装品、およびサイドカバー等の警告ラベル貼付部には圧力水をかけないでください。

※ 圧力水をかけると、故障の原因となったり、警告ラベルのはがれ、部品の変形を起こしたりします。

9.2.1 格納前作業

トラクタを長い間使用しない場合は、格納する前に下記の作業を行ってください。

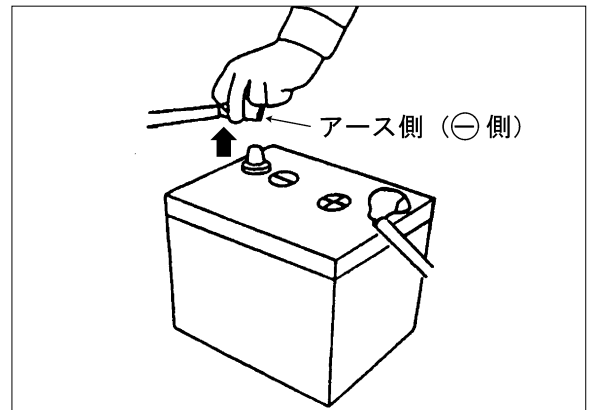
- (1) トラクタはきれいに清掃してください。
特に代かき、湿田作業後は、きれいに洗車してください。
- (2) 不具合箇所は整備してください。
- (3) エンジンオイルを新しいオイルと交換、5分ほどエンジンをアイドリング回転で運転し、各部にオイルを潤滑させてください。
- (4) ラジエータの冷却水を抜いてください。
排水後、「水なし」と書いた札をステアリングホイール（ハンドル）にかかげてください。
- (5) 各部の給油を必ず行ってください。
- (6) 各部のボルト、ナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば締めてください。
- (7) タイヤの空気圧は標準よりも少し多めに入れてください。
- (8) バランスウエイト等は取り外してください。
- (9) 作業機は取り外すか、または地面に降ろしてください。
- (10) 格納場所は、周囲にワラ等燃えやすいものがなく、雨のかからない乾燥した場所を選定し、シートをかけるようにしてください。
- (11) 後輪の前後に車止めをしてください。

(12) バッテリーは、トラクタから取り外し充電を行い、日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。

どうしても取り付けのまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外してください。

補足

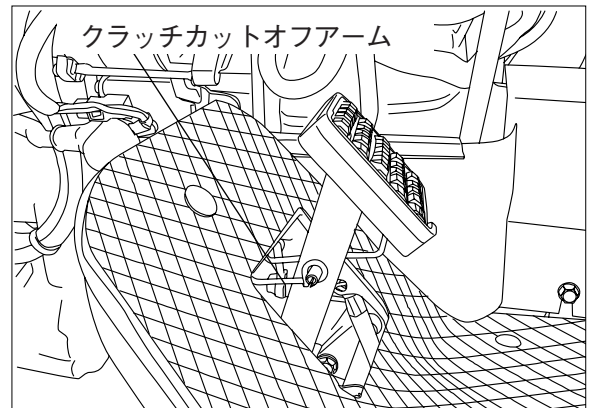
- バッテリーあるいは ⊖ 端子を外さないと、ねずみが配線をかじり、ショートして火災が発生することがあります。



(13) クラッチペダルを踏み、クラッチカットオフアームを引っかけてください。クラッチが切れた状態になります。

補足

- クラッチを接続したまま長期間格納すると、クラッチディスクが固着してクラッチが切れなくなることがあります。



9.2.2 格納期間中

エンジン防錆のため、1ヶ月に1回、中速回転（1500～2000 rpm）で5～10分間運転してください。

9.2.3 長期格納後の使用

長期格納後の再使用は特に次の内容に注意してください。

- (1) 「4. 作業前点検」を確実に行ってください。
- (2) エンジンの寿命、性能を保つためエンジン始動後は、アイドリング回転で30分ほど運転してください。

10. 不調時の処置

10.1 エンジン関係

現象	原因	処置	参照ページ
メインスイッチを「始動」にしても、スタータが回らない	クラッチペダルを踏み込んでいますか。	クラッチペダルを踏み込んでください。	42
	セフティースイッチの故障。	「お買い上げ先」で修理・交換してください。	—
	バッテリーが放電していませんか。	バッテリーを充電してください。	96
	各部端子がゆるんでいませんか。	外れ、ゆるみ、腐蝕を点検、清掃し、確実に締め付けてください。 グリースを塗布し防錆をしてください。	96
	スイッチの故障。 スタータの故障。	「お買い上げ先」で修理・交換してください。	—
スタータは回るが、回転が遅い	バッテリーの充電量が不足していませんか。	バッテリーを充電してください。	96
	アースが不良。	接続部を清掃し、アースを確実に取ってください。	96
	エンジンオイルの粘度が高くなっていませんか。	適正粘度のオイルへ交換してください。	88
スタータは回るが、エンジンがかからない	燃料系統にエアが混入していませんか。	エア抜きを行ってください。	94
	燃料フィルタが詰まっていますか。	フィルタを清掃・交換してください。	94
	燃料が供給されていますか。	燃料フィルタのコックを開いて燃料を送ってください。	94
	エンジン本体の不具合。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
エンジン回転が不規則になる	燃料系統にエアが混入していませんか。	エア抜きを行ってください。	94
	燃料フィルタが詰まっていますか。	燃料フィルタを清掃・交換してください。	94
	噴射ノズルの詰まり。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
	パイプ系の燃料が漏れている。		
	燃料噴射の不揃い。		

現象	原因	処置	参照ページ
エンジンを低速にすると停止する	インジェクション・ポンプの不良。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
	エンジンのバルブクリアランスの不良。		
	ノズルの不良。		
エンジンが過回転する	ガバナのゴミ詰まり。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
	オイル上がり。		
運転中エンジンが突然停止した	燃料が不足していませんか。	燃料補給とエア抜きをしてください。	94
	エンジンオイルが不足していませんか。	エンジンオイルを補給してください。	88
	ノズルの不良。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
	オイル不足、潤滑不良によるエンジンの焼き付き。		
エンジンが過熱する	冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。	91
	ファンベルトがゆるんだり、破損していませんか。	ベルトの調節または「お買い上げ先」で修理してください。	95
	ラジエータが目詰まりを起こしていませんか。	清掃してください。	92
	エンジンオイルが不足していませんか。	点検・補給してください。	88
排気ガスが白い	エアクリーナが詰まりを起こしていませんか。	エレメントを清掃してください。	89
	エンジンオイル量が多すぎませんか。	点検し、適正量にしてください。	88
	燃料供給量の不足。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
排気ガスが黒い	燃料が正規のものでない。	正規の燃料に入れ換えてください。	93
	燃料が供給過剰。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
	ノズル圧力の不足。		

10.不調時の処置

現象	原因	処置	参照ページ
エンジンの出力不足	ノズルの焼き付き、詰まりおよびカーボンが溜まっている。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
	圧縮圧力の不足、バルブ・シート部よりガスが漏れ。		
	バルブクリアランス調整不良。		
	噴射時期不良。		
	燃料が不足していませんか。	燃料系統を点検してください。	93
	エアクリーナが目詰まりを起こしていませんか。	エレメントを清掃してください。	89
運転中エンジンオイル圧力警告灯が点灯する	エンジンオイル量が少ない。	規定量まで補給してください。	88
	エンジンオイルの粘度が低い。	適正粘度のオイルに交換してください。	88
	プレッシャスイッチの故障。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
	オイルポンプの故障。		
	オイルフィルタ・エレメントの目詰まり。	オイルフィルタを交換してください。	89
運転中にバッテリー充電警告灯が点灯する	配線の故障。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
	ゼネレータの不良。		
	レギュレータの不良。		
	バッテリーの不良。	バッテリーを交換してください。	96
	ファンベルトがゆるんだり、破損していませんか。	ベルトの調整・交換、または「お買い上げ先」で修理してください。	95
	スローブローヒューズが断線していませんか。	配線チェックしスローブローヒューズを交換してください。	106
水温計が赤色の領域まで上昇する	ラジエータの水量が少ない。	規定量まで補給してください。	92
	ラジエータが目詰まり。	清掃してください。	91
	ファンベルトのゆるみ、または破損。	ベルトの張り調整または交換してください。	95
	エンジンオイルが不足。	エンジンオイルを補給してください。	88

10.2 クラッチ

現象	原因	処置	参照ページ
クラッチがすべる	ペダルの調整は適正ですか。	ペダルの遊び、踏みしろを調整してください。	99
	クラッチ・ライニングの摩耗・焼損。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
クラッチが切れない	クラッチ・ライニングの錆び付き。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
	ペダルの調整は適正ですか。	ペダルの遊び、踏みしろを調整してください。	99

10.3 ブレーキ

現象	原因	処置	参照ページ
ブレーキのききが悪い、片ぎきである	ブレーキペダルの調整は適正ですか。	ペダルの遊びを調整してください。	99
	ライニングの摩耗。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
	左右の踏み込み量に差はありませんか。	踏み込み量を左右同じに調整してください。	99
ブレーキペダルの戻りが悪い	ブレーキ戻しスプリングの破損。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
	各しゅう動部のグリース切れ。	錆を落とし、グリースを注入してください。	—

10.4 ステアリングホイール（ハンドル）関係

現象	原因	処置	参照ページ
ステアリングホイール（ハンドル）が重い、ステアリングホイール（ハンドル）が取られる	トーインが正しいですか。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
	タイヤの空気圧が不揃いではないですか。	左右とも規定空気圧にしてください。	100
	ボールジョイントにガタがありませんか。	増し締めまたは、「お買い上げ先」で部品交換してください。	—
ステアリングホイール（ハンドル）の遊びが多い	ステアリングシャフトが摩耗していませんか。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
	ボールジョイントにガタがありませんか。		

10.5 倍速旋回関係 (B仕様)

現象	原因	処置	参照ページ
倍速旋回表示灯が点灯しない	走行・作業切換スイッチが、「倍速旋回」位置になっていない。	「倍速旋回」の位置にしてください。	64
	副変速レバーが「高速」になっている。	副変速レバーを「高速」以外にしてください。	66
	接触不良。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
倍速旋回が作動しない	スイッチの故障。	「お買い上げ先」で修理・交換してください。	—
倍速旋回の作動位置が左右で違う	スイッチの調整不良。	「お買い上げ先」で調整してください。	—

10.6 旋回アップ関係 (D仕様)

現象	原因	処置	参照ページ
旋回アップ表示灯が点滅も点灯もしない	作業切換スイッチが「旋回アップ」または「耕うん」になっていない。	作業切換スイッチを「旋回アップ」または「耕うん」にしてください	67
	接触不良。	「お買い上げ先」で修理してください	—
	スイッチの調整不良。	「お買い上げ先」で交換してください。	—
旋回アップ表示灯が点滅する	副変速レバーが「高速」になっていませんか。	副変速レバーを「低速」にしてください	68
	作業機「下げ」操作後、5秒以上経過していますか。	5秒以上経過後、操作してください	68
旋回アップが作動しない	作業機「下げ」操作後、5秒以上経過していますか。	5秒以上経過後、操作してください	68
	「下げ」操作後一度、ステアリングホイール（ハンドル）が直進状態になっていませんか。	一度直進状態に戻した後、ステアリングホイール（ハンドル）を操作してください	67
	後進中ではありませんか。	前進で使用してください	67
	接触不良。	「お買い上げ先」で修理してください	—
	スイッチの不良。	「お買い上げ先」で交換してください	—
	センサの調整不良。	「お買い上げ先」で調整してください	—
曲がったほ場で旋回アップが作動してしまう	旋回アップはステアリング操作と連動しています。曲がったほ場ではステアリング操作と連動し、旋回アップが作動することがあります。	作業切換スイッチを「旋回アップ」「耕うん」以外にしてください	67
旋回アップで作業機上昇中、作業機「下げ」操作しても下がらない	旋回アップで上昇中はクイックアップレバーで「下げ」操作はできません。	上昇が終了してから「下げ」操作を行ってください	67
		「下げ」操作が必要な場合はコントロールレバーで操作してください	67
旋回アップで作業機が上昇した後、コントロールレバーを下げても作業機が下がらない	コントロールレバーは最上げ位置まで、上げていますか。	コントロールレバーを最上げ位置まで上げてから、下げ操作してください	67

10.7 油圧関係

現象	原因	処置	参照ページ
作業機が上がらない	エンジンの回転数が不足していませんか。	アクセルレバーを操作し、エンジン回転を高くしてください	31
	ミッションオイル量が不足していませんか。	規定量まで補給してください	97
	吸入パイプ系統からエアを吸い込んでいませんか。	「お買い上げ先」で修理してください	—
	油圧ストレーナの詰まり。	「お買い上げ先」で交換してください	102
	油圧ポンプの故障。 コントロールバルブの故障。	「お買い上げ先」で修理してください	—
	シリンダの破損。	「お買い上げ先」で交換してください	—
配管から油漏れする	各部ジョイントのゆるみ。	増し締めを行ってください	—
	ホースの亀裂。	「お買い上げ先」で交換してください	—
作業機が下がらない	油圧降下速度調節つまみがロック位置になっている。	つまみを反時計方向に回す	76
	コントロール・バルブの故障。	「お買い上げ先」で修理してください	—
	シリンダの破損。	「お買い上げ先」で交換してください	—
耕深制御が働かない	耕深ワイヤが接続されていますか。	耕深ワイヤを接続してください	79
	耕深ワイヤが断線していませんか。	交換してください	79
	オートロッドが連結されていますか。	オートロッドを連結してください。	78

■D仕様

現象	原因	処置	参照ページ
クイックアップレバーを操作しても作業機が上下しない	クイックアップレバー不良。	「お買い上げ先」で修理・交換してください	—
	クイックアップレバー配線外れ。	「お買い上げ先」で修理してください	—
バックアップ機能が作動しない	バックアップ切換スイッチが「切」になっている。	バックアップ切換スイッチを「入」にしてください	77
	主変速レバー後進側センサの調整不良。	「お買い上げ先」で調整してください	—
	バックアップ切換スイッチの不良。	「お買い上げ先」で修理・交換してください	—
	主変速レバー後進側センサの不良。		
	配線不良。		
モータの故障。			

10.8 水平制御関係（J仕様）

現象	原因	処置	参照ページ
傾き調節スイッチを操作しても動かない	作業機が最上げ状態になっている。	作業機を少し下げた状態にしてください	80
	ヒューズ切れ。	配線をチェックし、ヒューズを交換してください	105
	バルブの配線の外れ。	カプラを接続してください	—
	配線の不良。	「お買い上げ先」で修理・交換してください。	—
	バルブのゴミ詰まり。		
水平制御切換スイッチを「入」にしてもロータリが水平にならない	初期設定の調整不良。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
	スロープセンサの不良。	「お買い上げ先」で修理・交換してください。	—
	配線の不良。		

10.9 電装関係

現象	原因	処置	参照ページ
バッテリーが充電されない	スローブローヒューズの断線。	配線チェック後にスローブローヒューズの交換をしてください	105
	配線の故障。 ゼネレータの故障。	「お買い上げ先」で修理してください。	—
	ファンベルトがゆるんだり、破損していませんか。	ベルトの調整・交換、または「お買い上げ先」で修理してください	95
	バッテリーの機能不良。	端子のゆるみ、腐蝕等を修正してください	96
ヘッドランプが暗い	バッテリーが充電不足ではありませんか。	充電してください	96
	結線、接触不良はありませんか。	アースおよびターミナルの点検・清掃・取付部の増し締めをしてください	96
ヘッドランプが点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください	121
	ヒューズ切れ。	配線をチェックし、ヒューズを交換してください	105
	接触不良はありませんか。	アースおよびターミナルの点検・清掃をしてください	105
ホーンが鳴らない	ホーンスイッチの故障。	「お買い上げ先」で修理してください	—
	配線不良。		
	ホーンの損傷。		
ウインカが点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください	121
	フラッシュユニットの故障。	「お買い上げ先」で修理してください	—
	接触不良はありませんか。	アースおよびターミナルの点検・清掃をしてください	105

11. 付表

11.1 推奨潤滑油一覧表

区 分		メーカ名	商 品 名	出荷時充填油
ディーゼル エンジンオイル		三菱農機	スーパーマルチGDオイル (10W-30SL/CF)	○
ギヤオイル	フロント アクスル	三菱農機	スーパーマルチGBオイル	○
	ミッショ ンケース	三菱農機	スーパーマルチGBオイル	○
一般グリース		協同油脂 他有名メーカのリチュー ム系一般グリース	ユニループNo.2	○
燃 料		有名メーカ品	ディーゼル軽油 JIS2号・3号（3号は厳寒時）	○ (JIS2号)
不 凍 液		モービル 昭和シェル石油 他有名メーカ品を使用	モービルロングライフクーラント(L.L.C.) アンチフリーズ	○

11.2 三菱純正オイル一覧

■エンジンオイル

商品名	API	SAE	容量	部品コード
スーパーマルチGDオイル	10W-30	SL/CF	200L	3520150220
			20L	3520150210

■ミッションオイル

商品名	API	SAE	容量	部品コード
スーパーマルチGBオイル	80	GL-4	200L	3520150120
			20L	3520150110

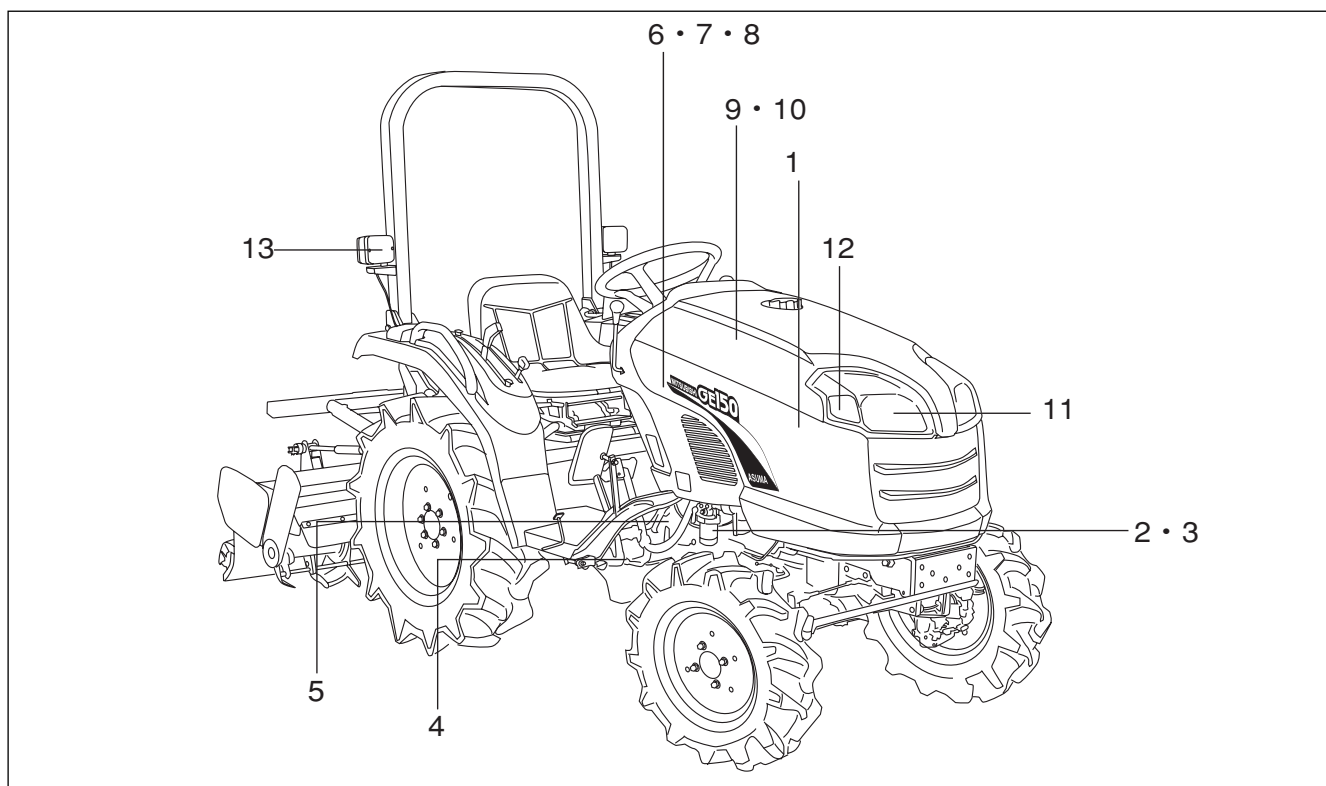
■フロントアクスルオイル

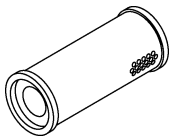
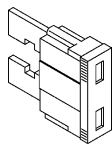
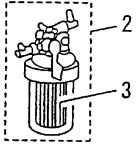
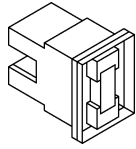
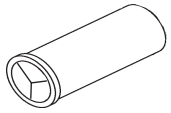
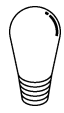
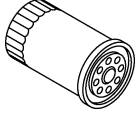
商品名	API	SAE	容量	部品コード
スーパーマルチGBオイル	80	GL-4	200L	3520150120
			20L	3520150110

■純正ロータリのチェーンケースギヤケース

商品名	API	SAE	容量	部品コード
ハイポイドギヤ 140	140	GL-4	200L	47208109200L
			20L	47208230-20L

11.3 主な消耗部品一覧表

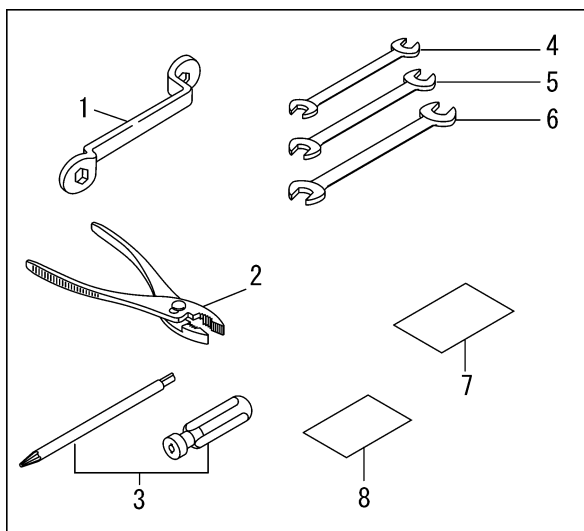


番号	消耗部品	形状	番号	消耗部品	形状
1	エアクリーナ エレメント		6	ヒューズ (5A)	
			7	ヒューズ (10A)	
			8	ヒューズ (20A)	
2	燃料フィルタ		9	ヒューズ (スローブロー) 40A	
3	エレメント		10	ヒューズ (スローブロー) 30A	
4	油圧ストレーナ		11	電球 (ヘッドライト)	
			12	電球 (コーナーライト)	
5	エンジンオイルフィルタ カートリッジ		13	電球 (方向指示ランプ)	

11.付表

番号	消耗部品	品番
1	エレメントASSY	9911 0000 750
2	フィルタ (フューエル) ASSY	9981 0000 130
3	エレメント	9911 0000 640
4	フィルタ (サクション) ASSY	9911 0000 760
5	オイルフィルタ	3684 0000 550
6	ヒューズ (BR32V05A)	9911 0000 810
7	ヒューズ (BR32V10A)	9911 0000 830
8	ヒューズ (ブレード/32V20A)	9911 0019 040
9	ヒューズ (スローブロー)	9909 0000 360
10	ヒューズ (スローブロー/30A)	9981 0000 140
11	バルブ (ランプ/12V 23W)	9911 0000 670
12	バルブ (ランプ/12V 12W)	9981 0000 200
13	バルブ (21W/アンバ)	9981 0000 210

11.4 標準付属品



番号	品名	個数
1	メガネレンチ (17-19)	1
2	プライヤ	1
3	サシカエドライバ ASSY	1
4	リョウグチスパナ(マル) 10×12	1
5	リョウグチスパナ(マル) 14×17	1
6	リョウグチスパナ(マル) 19×22	1
7	取扱説明書	1
8	保証書	1

11.5 純正ロータリ適応表

三菱純正ロータリの適応表を下記に示します。

クラス・作業にあった型式のロータリを装着してください。

純正ロータリ以外の作業機については、「お買いあげ先」にお問い合わせください。

警告



純正ロータリ以外の作業機を取り付けたときは、必要に応じてバンパウエイトを装着してください。

※ 前部が軽くなると、浮き上がったり傾いたりして、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

ロータリクラス名		トラクタクラス名		
		GE130	GE150	GE170
サイドロータリ	RQ110S	◎	○	×
	RQ120S	○	◎	×
	RQ130S	×	×	◎
センタロータリ	RQ110C	◎	◎	×
マルチロータリ	RQ090C	◎	×	×

◎：標準（推奨型式）

○：装着可

×

11.6 主要諸元表

ク ラ ス 名			GE130					
区 分			E	B	JB	SSB	SB	
駆 動 方 式			四輪駆動					
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2050 (2005)			2050(1905)	2050(1950)	
	全 幅 (mm)		1000					
	全 高 (mm)		1810			1710	1755	
	軸 距 (mm)		1270					
	輪 距 (mm)	前 輪		785			850	760
		後輪	出 荷 時	750			800	750
			(調整範囲)	750, 920			865	920
最 低 地 上 高 (mm)		280	260		205	240		
機 体 重 量 (kg)			540	555	580	540	555	
エ ン ジ ン	型 式 名		E3112					
	種 類		水冷4サイクル3気筒立型ディーゼルエンジン					
	総 排 気 量 (L)		1.123					
	出 力	(kW/min ⁻¹)		9.9/2300				
		(PS/rpm)		{13.5/2300}				
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油JIS2号・3号 (3号は厳寒時)					
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		16					
バ ッ テ リ (V.Ah)		12・36 (46B24R)						
走 行 部	タ イ ヤ	前 輪	5-12			4.00-7	4.00-10	
		後 輪	8-16			6-12	7-14	
	ク ラ ッ チ 型 式		乾式単板					
	ブ レ ー キ 型 式		湿式ディスク式					
	舵 取 り 方 式		パワーステアリング					
	変 速 方 式		常時・選択噛みあい式					
	変 速 段 数		前進6・後進2					
	走行速度 (km/h)	前 進	別 表					
後 進		別 表						
最 小 回 転 半 径 (m)			1.7					
P T O	回 転 数 (rpm)	正 転	474・677/2300					
		逆 転	572/2300					
	軸 寸 法 (mm)		35 (6スプライン)					
け ん 引 装 置			トレーラヒッチ (オプション)					
作 業 機 昇 降 装 置	制 御 方 式		ポジションコントロール					
	装 着 方 式		直装2P方式					

注：全長の () はフード先端～タイヤ間寸法 この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

ク ラ ス 名			GE150		GE170			
区 分			DB	DJB	DB	DJB	SSB	
駆 動 方 式			四輪駆動					
機 体 寸 法	全 長 (mm)		2050 (2030)			2050(1905)		
	全 幅 (mm)		1000					
	全 高 (mm)		1835			1710		
	軸 距 (mm)		1270					
	輪 距 (mm)	前 輪		785			850	
		後輪	出 荷 時	780			800	
			(調整範囲)	780, 890			865	
最 低 地 上 高 (mm)		270			205			
機 体 重 量 (kg)			575	595	610	630	610	
エ ン ジ ン	型 式 名		E3112					
	種 類		水冷4サイクル3気筒立型ディーゼルエンジン					
	総 排 気 量 (L)		1.123					
	出 力	(kW/min ⁻¹)		11.4/2300		12.9/2300		
		(PS/rpm)		{15.5/2300}		{17.5/2300}		
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油JIS2号・3号 (3号は厳寒時)					
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		16					
バ ッ テ リ (V.Ah)		12・36 (46B24R)						
走 行 部	タ イ ヤ	前 輪	5.00-12			4.00-7		
		後 輪	8-18			6-12		
	ク ラ ッ チ 型 式		乾式単板					
	ブ レ ー キ 型 式		湿式ディスク式					
	舵 取 り 方 式		パワーステアリング					
	変 速 方 式		常時・選択噛みあい式					
	変 速 段 数		前進6・後進2					
走 行 速 度 (km/h)	前 進		別 表					
	後 進		別 表					
最 小 回 転 半 径 (m)			1.7					
P T O	回 転 数 (rpm)	正 転	474・677/2300		576・826・1276/2300			
		逆 転	572/2300		754/2300			
	軸 寸 法 (mm)		35 (6スプライン)					
け ん 引 装 置			トレーラヒッチ (オプション)					
作 業 機 昇 降 装 置	制 御 方 式		ポジションコントロール					
	装 着 方 式		直装2P方式					

注：全長の（ ）はフード先端～タイヤ間寸法 この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

11.7 走行速度表 (km/h)

この車速は改良のため、予告なく変更することがあります。

方 向	副 変 速	主 変 速	GE150/170	GE130	GE130/170	
					SSB	SB
前 進	低 速	1	0.64	0.60	0.45	0.53
		2	1.31	1.23	0.93	1.07
		3	2.06	1.94	1.46	1.69
	高 速	1	3.90	3.67	2.76	3.20
		2	7.96	7.49	5.63	6.54
		3	12.54	11.80	8.87	10.31
後 進	低 速	後 進	0.82	0.77	0.58	0.67
	高 速	後 進	4.97	4.68	3.52	4.09

11.8 注文部品一覧表

トラクタ本体装備の注文部品の一覧を示します。

この表の他にも、当社ではいろいろな種類の作業に適応できる作業機・アタッチメントを取りそろえています。

詳しくは、「お買い上げ先」にお問い合わせください。

	商品コード	品 名		用途・仕様
ウ エ イ ト	9911 0033 580	ウエイト(15)	SET	バンパウエイト、15kgX 1 (最大4個まで装着可能)
	9981 0000 160	バンパ	SET	バンパウエイト取付用プレート
	9981 0000 170	ウエイト(20)	SET	内蔵式、20kgウエイト (GE 130/150のみ)
リ ン ク	9981 0000 180	リンク (3P)	SET	3点リンク式作業機の装着に必要 (J仕様以外用)
	9981 0000 190	リンク (3P/J)	SET	3点リンク式作業機の装着に必要 (J仕様用)
	9981 0000 150	ヒッチ (トレーラ)	SET	けん引作業用ヒッチ
そ の 他	9981 0000 220	ランプ (ワーキング)	SET	夜間作業時後方を照らします。

純正部品を使いましょう。

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。

市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは、下記の点を明確にして、お買いあげ先へお問合わせください。

- ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…?

型 式 _____

機械番号(製造番号) _____

- ご使用状況は…?

(どんな作業のとき)

- どのくらい使用されましたか?

(約 _____ アール使用後)

- トラブルが発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



どんなに小さなことでも、
お気軽にお問合わせ
ください。

(ご相談窓口) お買いあげ先 _____

TEL () _____

 **三菱農機株式会社**

本 社	〒699-0195 島根県松江市東出雲町揖屋667-1	☎(0852)52-2111(代)
事業本部(東京事務所)	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-5-1	☎(03)5759-8060
販売会社 (販売会社は広域販売会社のみを記載)		
東日本三菱農機販売(株)	〒340-0203 埼玉県久喜市桜田2-1-33-4	☎(0480)58-9524
北 海 道 支 社	〒066-0077 北海道千歳市上長都1046	☎(0123)22-1234
東 北 支 社	〒983-0036 宮城県仙台市宮城野区苦竹2-7-20 三菱重工業株式会社仙台ビル	☎(022)783-9520
関 東 甲 信 越 支 社	〒340-0203 埼玉県久喜市桜田2-1-33-4	☎(0480)58-9521
東 海 支 社	〒453-0862 愛知県名古屋市中村区岩塚町字高道1 (三菱重工業株式会社 岩塚工場内)	☎(052)419-6721
西日本三菱農機販売(株)	〒701-4254 岡山県瀬戸内市邑久町豆田161-1	☎(0869)24-0805
北 陸 支 社	〒918-8231 福井県福井市間屋町2-38	☎(0776)27-3078
西 日 本 支 社	〒701-4254 岡山県瀬戸内市邑久町豆田161-1	☎(0869)24-0820
九 州 支 社	〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜7-1	☎(0942)84-1888